中国語の数量表現前置構文の描写・説明機能

雷　桂林

目　　次

序　章　イントロダクション

1. はじめに …… 1
2. 数量表現の文中位置と有標性 …… 2
3. 本論文で扱う問題 …… 5
4. 本論文の構成 ……10

第１部　数量表現の弱い主語・主題性

第１章　数量表現の指示・代用機能 ……15
1. はじめに ……15
2. 日本語と中国語の不定表現の差異 ……17
2.1 「誰か」と“谁” ……19
2.2 「何か」と“什么（东西）” ……21
3.「二人」と“两个人”から見る数量表現の指示・代用機能の差異 ……22
4. 数量表現の指示・代用機能について ……25
4.1 非同一指示 ……26
4.2 動機付け ……29
5. おわりに ……32

第２章　中国語の数量表現の連用修飾 ……34
1. はじめに ……34
2. 数量表現を主語と捉えることの問題点 ……37
3. 数量表現の述語指向 ……40
3.1 数量表現の連用修飾 ……41
3.2 統語的、意味的な面から見る数量表現の文法的振る舞い ……42
3.2.1　ポーズが挿入できる位置 ……42
3.2.2　数量表現の述語指向性 ……47
4　おわりに ……51

第２部　数量表現前置構文の機能

第３章　不定名詞主語文の場面描写機能 ……53
1. はじめに ……53
2. 中国語の無テンス性と述語の受ける制約 ……56
3. 述語の描写的性格 ……58
3.1. 非事態文の描写的述語 ……58
3.2. 事態文に見られる動きの局面 ……61
4. 不定名詞主語にも必要とされる描写性 ……66
5. 構文の場面描写性機能 ……70
6. まとめ ……78

第４章　時間表現前置構文の描写的特徴 ……80
1. はじめに ……80
2. 静態的な述語構造 ……82
2.1 均質的な特徴 ……82
2.2 形容詞述語文に類似した統語的特徴 ……87
3. 時間量表現前置構文の描写性 ……91
3.1 時間量表現の主題性 ……93
3.2 述部の描写的特徴 ……96
4. おわりに ……100

第５章　広義の線的概念が文頭に来るとき――数量表現の範囲を超えて―― ……101
1. はじめに ……101
2. “从 A 到 B”が文頭に来るとき ……102
2.1　先行研究 —「変化・範囲説」、「全体説」の問題点 ……102
2.2　“从 A 到 B VP”の構文的意味 ……105
2.2.1　VP の統語的特徴 ……106
2.2.2　VP の意味的特徴 ……109
2.3　“从 A 到 B 走”について ……113
3. “自～以来”、“从～起”、“从～以后”が文頭に来るとき ……115
4. 線的概念が文頭に用いられる文の共通性 ……120
5. まとめ ……123

第 6 章　2 種類の数量表現前置構文――点的事象と線的事象 ……124
1. はじめに ……124
2. 点的事象を表す不定名詞主語文 ……125
2.1　動的な述語 ……125
2.2　明確な限界性を持つ点的な事象 ……128
3. 線的事象を表す線的概念前置構文 ……129
4. “三个人”が文頭に来る場合 ……131
5. おわりに ……135

終　章　数量表現前置構文の位置づけ

1. はじめに ……137
2. 機能から見る文のタイプ ……137
3. 各数量表現前置構文の機能とタイプ ……140
4. まとめと残された課題 ……145

付録　参考文献 ……147

序　章　イントロダクション

1. はじめに
2. 数量表現の文中位置と有標性
3. 本論文で扱う問題
4. 本論文の構成

1. はじめに

数詞と助数詞（量詞）から成る表現や数詞、助数詞（量詞）、名詞から成る表現は文に入って、主語、述語、目的語（賓語）、連体修飾語（定語）、連用修飾語（状語）、補語といった文法成分になることができる。例えば房玉清 1984:278-282 と刘月华等 2001:137-147 の記述を要約すると以下のようになる。

（1）主語：几十只　小船　又　钻进　苇塘　里。
数十 CL　小舟　また　潜る-入る　芦原　中
（何十艘かの小舟が葦原に入った）
——房玉清 1984:278

（2）述語：他　结婚　才　二十来天。
3SG　結婚する　たった　20 何日
（彼は結婚して二十数日しか経っていない）
——房玉清 1984:280

（3）目的語：接着，他 给 我　讲了　一个 故事。
続けて　3SG　に　1SG　語る-PFV 1CL　物語
（続けて彼は私に物語を一つ話してくれた。相原（監訳）1996:120）
——刘月华等 2001:137

（4）連体修飾語：他　姐姐　跟　他　小声　说了　几句　话。
3SG　お姉さん　に　3SG　小声　話す-PFV　何 CL　言葉
（お姉さんは彼に小さな声でちょっと話をした）
——房玉清 1984:278

（5）連用修飾語：这　是　我 第三次 来　中国了。
これ　COP　1SG　3 回目　来る　中国-MOD
（これで私が中国に来るのは三度目だ。相原（監訳）1996:121）
——刘月华等 2001:138

（6）補語：他　朝　　敵人 狠狠　　踢了　　两脚。
3SG　に向かって　敵　　こっぴどく　蹴る-PFV　二三 CL
（彼は敵を思いっきり二三回蹴りつけた）

——刘月华等 2001:138

房玉清 1984、刘月华等 2001 は上記の各用法を数量詞、つまり数詞+助数詞の文法機能として整理しているが、(1)、(3)、(4) からも明らかなように、実際には数詞+助数詞+名詞の用法も含まれている。本論文では数詞+助数詞、数詞+助数詞+名詞（或いは数詞+名詞、数詞）をまとめて数量表現と呼び、これらの数量表現の文中における位置と文法機能の関係を明らかにしたい。次の 2 節では数量表現の文法機能に関する先行研究を手がかりに、同表現の文中における無標の位置と有標の位置について見ていく。

2. 数量表現の文中位置と有標性

中国語数量表現の文法機能に関する研究として、最も注目を浴びている先駆的なものに陆俭明 1988 の《现代汉语中数量词的作用》(『現代中国語の数量詞の働き』) がある。陸氏は同論文の冒頭で、中国語の数量表現は少なくとも次の三つの機能を果たすと指摘している（例文は陆俭明 1988 からの引用、下線は筆者)。

1. **起指代作用。**（指示・代用機能を果たす）

(7)　今天　你　吃　的　鱼，一条 是　鲤鱼，一条 是　鲫鱼。
今日　2SG　食べる SUB　魚　1CL　COP　鯉　1CL　COP　フナ
（今日あなたが食べた魚は、一匹は鯉で、もう一匹はフナだ）

2. **用以构成某种特殊的句式。**（ある種の特別な構文に用いられる）

① 构成周遍性主语句。（全称詞主語文に用いられる）

(8)　一个（人）也　不　去。
1CL　人　も　NEG　行く
（一人も行かない）

② 构成表示“每”的数量结构对应式。(「ごとに」を表す数量対応構文に用いられる)

（9）　两个人　（住）　一个 房间。
2CL　人　　泊まる　1CL　部屋
（二人で一部屋に泊まる）

3. **对某些句法结构起某种制约作用。**（統語構造に対するある種の制限機能を果たす（筆者注：ある種の文法構造が成立するのに必要な要素となる））

（10）　他　抓了　　我　一道 血印子。
3SG　引っ掻く-PFV　1SG　1CL　血の跡
（私は彼に爪で引っ掻かれて、一筋の血の跡ができた）

陸論文は数量表現を一つの範疇としてその役割を網羅的に捉えようとしたものであり、その後の数量表現の文法機能に関する研究、特に機能 *2*、*3* に関する研究に大きな影響を与えている[①]。しかし、研究の問題点として、機能 *1* は語用論的な役割であるのに対し、機能 *2*、*3* は統語論的な役割であり、視点が統一されていないという点が指摘できる。視点が同じでなければ、分類上の重なりが生じかねず、実際、同論文では機能 *2* に該当する例文のみが特別な構文と看做されているが、機能 *1* に分類されている例文も特別な構文と看做すことができる。例えば、例文（7）は、次の（11）に示したように対比の文脈がなくなると、文の据わりが明らかに悪くなる。

（11）　?今天　你　吃　的　鱼，一条 是　鲤鱼。
今日　2SG　食べる　SUB　魚　1CL　COP　鯉
（?今日あなたが食べた魚は、一匹は鯉だ）

（12）a.　昨天 来　的　老外，　一个 是　西班牙人，一个 是　葡萄牙人。
昨日　来る SUB 外人さん　1CL　COP　スペイン人　1CL　COP　ポルトガル人
（昨日来た外人さんは、一人はスペイン人で、もう一人はポルトガル人だ）

b. ?昨天 来　的　老外，　一个 是　西班牙人。
昨日　来る SUB　外人さん　1CL　COP　スペイン人
（?昨日来た外人さんは、一人はスペイン人だ）

（12）も同様であり、（12b）が示すように、対比を示す文脈がなければ不自然となる。要するに、指示機能を果たす数量表現は通常一つの独立した述語文では用いられにくく、対

① 李艳惠、陆丙甫 2002、殷志平 2002（機能 *2*））、孔令达 1994、张伯江、方梅 1996、沈家煊 1995（機能 *3*））など、さまざまな研究がなされている。

比、対照という特殊な文脈を必要とするのである[②]。従って、例文（7）は通常の叙述文というよりも、むしろ一種の対比構文という方が相応しく、「特別な構文」として機能 *2* の類に入る（本稿ではこのような文を数量詞並列構文と呼ぶ）。

そこで、視点を統一して統語的な観点から分類しなおすと、中国語数量表現の役割は二つに分けることができ、（13）のように整理することができる。

（13）［1］　ある種の文法構造が成立するのに必要な要素となる。（= 機能 *3*）
　　［2］　ある種の特別な構文の構成要素となる。　（= 機能 *1*＋機能 *2*）

数量表現の位置に注目すると、[1]は、動詞の後、つまり述部に数量表現が用いられている場合である。これに対して、[2]には、陸論文が指示機能を果たすと捉える構文や全称詞構文、数量対応構文が含まれ、数量表現は動詞の前に現れている。[2]は「特別な構文」、即ち有標であるため、中国語の数量表現の統語的位置は、述部（動詞の後）が無標であり、主語（動詞の前）が有標であるということが示唆されている。

（14）［1］:　動詞の後　　無標
　　［2］:　動詞の前　　有標

数量表現が動詞の後に現れやすく、動詞の前に現れにくいことは次の（15）～（17）からも確認できる。

（15）　昨天 来了　一个 陌生人。
　　昨日　来る-PFV　1CL　見知らぬ人
　　（昨日一人の見知らぬ人が来ていた）
（16）??昨天 一个 陌生人　来了。
　　昨日　1CL　見知らぬ人　来る-PFV/MOD
　　（昨日一人の見知らぬ人が来ていた）
（17）　昨天 一个 陌生人　来<u>到　门外</u>。
　　昨日　1CL　見知らぬ人　来る-着く　ドアの外
　　（昨日一人の見知らぬ人が外に来ていた）

（15）における“陌生人”（見知らぬ人）は動詞“来”（来る）が表す動作を行う動作者（agent）である。湯廷池 1979a:71 によると、中国語の名詞成分は①動作者、起因、②道具、③受動者、④客体、出来事、⑤場所、⑥時間という優先順位で文の主語になるという。ま

---

② 或いは次の文のように“其中”（そのうち）のような修飾語を付けなれればならない。
今天你吃的鱼，<u>其中一条</u>是鲤鱼。（今日あなたが食べた魚のうち、一匹は鯉だ）

た、陈平 1994:163 は、主語になりやすい成分は動作者>経験者>道具>繋辞copulaの目的語>場所>対象>受動者の順番になると指摘している③。いずれにしても、動作者が意味的に最も主語になりやすい成分であると考えて良いだろう。従って、（15）の“陌生人”（見知らぬ人）は意味的に最も主語になりやすい成分であると考えられる。しかし、“陌生人”（見知らぬ人）はそれでも述部に入り、動詞“来”の後に現れている。そして、数量表現を動詞の前に置く場合は、(16)のようにそのまま動詞の前に移動させると不自然になり、(17)のように動詞の後に更に“到门外”（門の外に着く）のような成分をつけなければならない。つまり、数量表現が動詞の前に現れる場合は、有標な構文になるのである。

したがって、数量表現の文法機能は、更に次のように纏めることができる。

（18）［1’］：　通常は述部に入り、文が成立するのに必要な要素となる。
　　［2’］：　動詞の前に用いられ、有標構文の構成要素となる。

陸論文は主に［1’］に焦点を置き、動詞の後ろの数量表現が果たす機能について論じたものであるが、本論文は、［2’］に注目し、数量表現が動詞の前に現れる構文の意味機能について考察していく（以下数量表現前置構文と呼ぶ)。本論文で取り上げる問題点と論文の構成については、次の 3 節と 4 節で述べる。

3. 本論文で扱う問題

本論文は、先に述べたように、動詞の前に現れる数量表現について論じるため、主語（主題）及び連用修飾語として機能する数量表現が研究の対象となる（以下の（19）における“‖”の左側)。

（19）**主語（主題）－連用修飾語** ‖ 述語－補語－目的語

動詞の前に用いられる数量表現は有標であるため、主語や連用修飾語として用いられる際は一定の制約を受けなければならない。例えば“三个人”（三人）を用いた次の（21a）はそのままでは主語を聞き出す（20）のような質問に答えることができず、(21b）のように“我们”（私たち）のような修飾語を伴わなければならない。また、連用修飾語を聞き出す（22）のような質問に答える際も、(23a）が示すように“三个人”（三人）だけでは不自然であり、(23b）のように答えなければならない。(21）～（23）は、主語や連用修飾語として用いられる数量表現の非典型的な特徴を明確に示している。

（20）　这次 谁 去?
　　今回　誰　行く

③“施事>感事>工具>系事>地点>対象>受事”（陈平 1994:163）。

（今回は誰が行きますか）

（21）a. ??三个人 去。

3CL 人　行く

（?三人が行きます）

b.　我们 三个 人 去。

1PL　3CL　人　行く

（私たち三人で行きます）

（22）　这次 怎么　　去?

今回　どのように　行く

（今回はどうやって行きますか）

（23）a. ??三个人 去。

3CL 人　行く

（?三人で行きます）

b.　我们 三个人 去。

1PL　3CL 人　行く

（私たち三人で行きます）

そこで、本論文は、まず第１部においてこのような数量表現の主語性と連用修飾性の問題について論じる。そして、第２部では、構文に重点を置き、数量表現が前置される構文の特徴を分析することによって、数量表現が果たす機能を明らかにする。論文の概要は以下の通りである。

第１部では、最初に、数量表現の主語性の問題を取り上げ、日中対照の観点から数量表現の指示・代用機能を確認し、日本語と比べると中国語の数量表現は指示・代用機能が弱いことを指摘する。さらに、先の 2 節で取り上げた数量詞並列構文について、数量表現が指示・代用機能を果たすのは、同構文が一種の分割構文であり、数量詞の後ろにくる名詞の表す集合の分割式部分量を表すためであることを指摘する。次に、数量表現の連用修飾性の問題について論じるが、本論文は明らかに連用修飾語として機能する（24）のようなものは取り上げず[④]、（25）のような問題となりやすい数量対応構文における数量表現を考察の対象とする。数量対応構文における述語の前の数量表現は、従来、主語と看做されてきたが（李艳惠、陆丙甫 2002 参照）、“三个人”（三人）のような数量表現は不定（indefinite）であり、「主語は通常定（definite）でなければならない」という中国語の大原則に違反する。そこで、筆者はこの場合の“三个人”（三人）を連用修飾語と看做すことによって問題の解

---

④ 次の例が示すように、“昨天晚上”（昨日の夜）のような時間名詞が連用修飾語になる場合には“就”（すぐに）は省略できるが、これに対して、（24）のように“五分钟”（5 分間）といった数量表現が連用修飾語になる場合には、“就”（すぐに）は省略できない。このことから、明らかに連用修飾語として機能する数量表現も制約をうけることが分かる。

老王昨天晚上（就）到了。（王さんは昨日の夜（もう）着いた）

決策を提示する。

（24）　老王 五分钟　就　　到了。
王さん　5 分　　すぐに　着く-PFV/MOD
（王さんは 5 分で到着した）
（25）　三个人 坐　一条 板凳。
3CL 人　坐る　1CL　ベンチ
（三人で一つのベンチに坐る）

第 2 部は本論文の中核となる部分である。ここでは、数量表現の役割を構文機能の面から解釈することを試みる。2 節で触れたように、“一个陌生人”（一人の見知らぬ人）は動詞“来”（来る）の前に用いられるときには、（27）に示すように“到门外”（玄関の外に）のような補語を付けなければならない。本論文は、このように一定以上の具体性が必要となるのは、不定名詞の定性が弱く、不定名詞主語文が場面描写機能を果たさなければならないからだと考える。

（26）??昨天一个陌生人来了。（=（16））
（27）　昨天一个陌生人来到门外。（=（17））

また、“一个下午”（午後の最初から最後までの時間）のような時間量表現が動詞の前に現れる際、述語は通常（29）に示すように“都”（みな）のような副詞を伴わなければならないが、本論文は、“都”（みな）には終結点が含まれ、“都”（みな）の付加は、時間量表現前置構文が求める「終結点を持つ線的な述部」という特徴を満たすためだということを主張する。また、“一个下午”（午後の最初から最後までの時間）のような時間量表現のみならず、“从～到～”（～から～まで）、“从～以来”（～以来）、“从～起”（～から）、“从～以后”（～以降）のような線的概念が文頭に来る場合も、その述部はいずれも限界点を持つ線的な述部である。本論文はこのような線的概念前置構文の構文的意味を統一的に解釈し、述部の特徴を明らかにする。

（28）　*一个 下午 老王　在　睡。
1CL　午後　王さん　DUR 寝
（午後、王さんは寝ていた）
（29）　一个 下午 老王 都　在　睡。
1CL　午後　王さん 皆　DUR 寝
（午後、王さんはずっと寝ていた）

さらに、不定名詞主語文と線的概念前置構文の連続性についても考察を行い、不定名詞主語文と線的概念前置構文にはそれぞれ点的（瞬間性を有する）、線的（限界点を有し、一定の幅を持つ）な特徴があり、非典型的な特徴を持つ複数の個体を表す概念が文頭に来る場合、述語が点的であれば不定名詞主語文（例えば（30））、線的であれば線的概念前置構文（例えば（31））になるということを指摘する。

（30）　“现在 做事　　还　就　　得　　这样”。
今　事に当たる　やはり　ほかでもなく　しなければならない　そのように
三个人 奉承地　　笑起来。
3CL 人　へつらって　笑う-始める
（今はそうしなくちゃ、と三人（=於関、楊重、馬青）が追従して笑った）
——王朔《顽主》

（31）　三个人 都 笑了。　　笑中　　都 深　藏着　　酸楚。
3CL 人　皆　笑う-PFV/MOD　笑いの中　皆　深く　潜む-DUR　苦しみ
（三人（=孫少平、蘭香、仲平）とも笑った。笑いの中に苦しみが滲んでいた）
——路遥《平凡的世界》

終章では、本論文で取り上げる数量詞並列構文、数量対応構文、不定名詞主語文、線的概念前置構文の全般的特徴を、文の機能という観点から考察し、これらの構文はいずれも事態発生の報告には不向きであり、描写・説明の機能を持つということを指摘する。さらに、数量表現前置構文がこのような機能を有するのは、数量表現が動詞の前、つまり文頭に置かれることに起因するということを示す。

本論文は、以上に述べたように、動詞の前に現れる数量表現について、その弱い指示・代用機能、弱い主語性、構文の機能という面から考察しようとするものである。本論文は構文文法的な視点に基づいて考察を行うが、取り上げる問題点はいずれも教育現場で実際に直面するものであるため、中国語教育にも役立ちうるような分析を提示することを目指している。

最後に、考察対象について補足したい。本論文は動詞の前に現れる数量表現について検討するが、「量」を表すもののみを考察対象とする。したがって、次の（32）のような数量表現は考察の対象外となる。

（32）　一个 中国男人，最好　是　拥有　美国　的　绿卡　　和　房产，
1CL　中国人の男　最も良い　COP　持つ　アメリカ　SUB　グリーンカード　と　家屋敷
拥有 日本 的　汽车 和 老婆。
持つ　日本　SUB　自動車　と　妻
（一人の中国人の男として、アメリカのグリーンカードと家屋敷、日本の自動車と妻を持つことが最も理想的だ）

——梁晓声《感觉日本》

刘丹青 2002:419 はこの種の数量表現を総称（generic）と看做し、主題標識として機能する間投助詞の“么”が後続できることと、“一个”（一人の）を取っても指示性が変わらないことから不定名詞と区別している。（32）では、“一个中国男人”（一人の中国人の男として）の後ろに（33a）のように“么”を付けることができるが、これに対して（33b）における不定名詞主語の後ろには“么”は来られない。また、（34a）における“一个”（一人の）を伴わない“中国男人”（中国人の男）は（32）における“一个中国男人”（一人の中国人の男として）と同じく総称（generic）で指示性が変わらないのに対し、（34b）における“中国男人”は定（definite）であり、不定名詞主語文における“一个中国男人”（一人の中国人の男）とは指示性が異なる。

（33）a. 一个 中国男人 么， 最好 是 拥有 美国 的 绿卡 和 房产，拥有
1CL 中国人の男 MOD 最も良い COP 持つ アメリカ SUB グリーンカード と 家屋敷 持つ
日本 的 汽车 和 老婆。
日本 SUB 自動車 と 妻
（中国人の男はね、アメリカのグリーンカードと家屋敷、日本の自動車と妻を持つことが最も理想的だ）

b. *一个 中国男人 么， 悄悄 走了过来。
1CL 中国人の男 MOD こっそり 歩く-PFV-通る-来る
（一人の中国人の男がね、こっそり歩いてきたんだ）

（34）a. 中国男人 最好 是 拥有 美国 的 绿卡 和 房产，拥有 日本 的
中国人の男 最も良い COP 持つ アメリカ SUB グリーンカード と 家屋敷 持つ 日本 SUB
汽车 和 老婆。
自動車 と 妻
（中国人の男はアメリカのグリーンカードと家屋敷、日本の自動車と妻を持つことが最も理想的だ）

b. 中国男人 悄悄 走了过来。
中国人の男 こっそり 歩く-PFV-通る-来る
（中国人の男はこっそり歩いてきた）

そして、（32）における“一个中国男人”（一人の中国人の男として）は「量」の表示という点においても、不定名詞とは異なるのである。次の（35）に示すように、（32）における“一个中国男人”（一人の中国人の男として）は“两个中国男人”（二人の中国人の男として）、“三个中国男人”（三人の中国人の男として）にすることはできない。これに対して、不定名詞主語文の場合、（36）に示すように、“一个中国男人”（一人の中国人の男）を“两

个中国男人”（二人の中国人の男）、“三个中国男人”（三人の中国人の男）に置き換えても成立する。

（35）a. *两个 中国男人， 最好　 是　拥有 美国　的　 绿卡　　和 房产， 拥有
2CL　中国人の男　最も良い COP　持つ　アメリカ SUB グリーンカード　と　家屋敷　持つ
日本　的　汽车　和 老婆。
日本　SUB　自動車　と　妻
(*二人の中国人の男として、アメリカのグリーンカードと家屋敷、日本の自動車と妻を持つことが最も理想的だ)

b. *三个 中国男人， 最好　 是 拥有 美国　 的　绿卡　　和　房产， 拥有
3CL　中国人の男　最も良い COP 持つ　アメリカ SUB グリーンカード　と　家屋敷　持つ
日本 的　 汽车　和 老婆。
日本　SUB　自動車　と　妻
(*三人の中国人の男として、アメリカのグリーンカードと家屋敷、日本の自動車と妻を持つことが最も理想的だ)

（36）a.　两个 中国男人　悄悄　 走了过来。
2CL　中国人の男　こっそり　歩く-PFV−通る−来る
（二人の中国人の男がこっそり歩いてきた）

b.　三个 中国男人　悄悄　 走了过来。
3CL　中国人の男　こっそり　歩く-PFV-通る-来る
（三人の中国人の男がこっそり歩いてきた）

つまり、（32）のような文における“一个中国男人”（一人の中国人の男として）は「量」を表すのではなく、本論文でいう数量表現には含まれないため、考察対象とはしない。なお、房玉清 1984 のように、“一个一个”、“一个个”、“个个”などの数量詞の重ね型と、“这些个”、“哪一个”のような指示代名詞や不定語を伴う表現を数量表現として扱う先行研究もあるが、これらも「量」を表すものではないため、本論文では考察対象としない[⑤]。

4. 本論文の構成

本論文は序章、第 1 部、第 2 部、終章から構成されている。以下に、それぞれの概要を記す。

序章では、本論文の考察対象、取り上げる問題点、全体的な考え方などについて述べる。

第 1 部は 2 つの章から成っており、本論の前半にあたる。ここでは、中国語数量表現の弱い主語性・主題性について論じる。第 1 章では日中対照の観点から、中国語の数量表現

⑤ 郭锐 2004:222 は“许多”、“大量”、“有的”といった「量」を表す語彙も数量表現として扱っているが、本論文では取り上げないことにする。

は指示・代用機能が弱く、主語になりにくいということを述べる。第 2 章では数量対応構文における動詞の前に用いられる数量表現を連用修飾語と看做すことの優位性を示す。

第 2 部は第 3 章から第 6 章までの 4 つの章から成り、本論の後半にあたる。第 2 部は本論文の核心となる部分である。ここでは、不定名詞主語文及び時間量表現、“从～到～”、“从～起”、“从～以后”、“从～以来”といった表現を含む線的概念前置構文について論じる。第 3 章では不定名詞主語文の場面描写機能について論じ、第 4 章と第 5 章では線的概念前置構文の描写的性格について述べる。そして第 6 章では不定名詞主語文と線的概念前置構文の連続性について考察する。

終章は結論部分である。第 1 部と第 2 部の内容をまとめ、数量表現前置構文の全体的な特徴を指摘し、文のタイプから同構文の位置づけについて述べる。

なお、本論文における表記及び例文の扱いについては、以下を参照されたい。

1〉本論文の用例は、主に王朔、王小波、张贤亮などの現代作家の作品（小説やエッセイ）から引用したものである。“亦凡公益图书馆 http://www.shuku.net/”より引用した例文もあるが、その場合、例文の後ろに“网:张贤亮《浪漫的黑炮》”のような形で出典を示している。参考文献から間接的に引用した場合は例文の後に引用元を記している。「(対)」と示した用例は北京日本学研究センターの『中日対訳コーパス』から収集したものである。日本語訳は対訳コーパスからの用例以外はいずれも筆者がつけたものである。出典を明示していない例は作例であるが、最低でも五人のネイティブチェックを経たものである。

『中日対訳コーパス』から引用した作品は次のとおりである。

書 名	著 者	訳 者	出 版 社
五体不満足	乙武洋匡	郑颙	講談社 山东文艺出版社
我的父亲邓小平	毛毛	長堀祐造	中央文献出版社 徳間書店
邓小选文选	邓小平	中央编译局	人民出版社 外文出版社
日中飛鴻	朝日/人民日報	朝日/人民日報	
毛泽东选集	毛沢東	中央编译局	人民出版社 外文出版社
坊ちゃん	夏目漱石	陈德文	海峡文芸
同	同	刘振赢	人民文学
同	同	胡毓文	人民文学
越前竹人形	水上勉	吴树文	上海译文
破戒	島崎藤村	柯毅文	人民文学
金閣寺	三島由紀夫	唐月梅	作家
こころ	夏目漱石	董学昌	湖南人民
同	同	周大勇	上海译文

野火	大岡昇平	王杞元	昆仑
ノルウェーの森	村上春樹	林少华	漓江
砂の女	安部公房	杨应辰	珠海
丹鳳眼	陈建功	岸陽子	早稲田大出版
女の人について	谢冰心	竹内実	朝日新聞社
応報	王蒙	林芳	白帝社
赤い高粱	莫言	井口晃	徳間書店
輝ける道	浩然	神崎勇夫	東方書店
家(上)	巴金	飯塚朗	岩波書店
車椅子の上の夢	张海迪	飯塚容	新潮社
吶喊	鲁迅	竹内好	筑摩書房
彷徨	鲁迅	竹内好	筑摩書房
青春の歌	杨沫	島田・三好	青年出版社
傾城の恋	张爱玲	池上貞子	平凡社
ﾁｬﾝﾋﾟｮﾝ(棋王)	阿城	立間祥介	徳間書店
人到中年	谌容	林芳	中央公論社
同	同	田村年起	第三文明社
ああ、人間よ	戴厚英	大石智良	ｻｲﾏﾙ出版会
霜葉紅似二月花	茅盾	立間祥介	岩波書店
駱駝祥子	老舍	立間祥介	岩波書店
鐘鼓楼	刘心武	苏琦	恒文社

2〉本論文の作例については、三人以上のインフォーマントが不自然と判断した場合、それを不自然な文と見なし、「?」、「??」、「*」などの印を付している。

3〉先行研究に言及する際、「陆俭明 1988」、「湯廷池 1979」のように、原文が簡体字であれば簡体字で、繁体字であれば繁体字で引用する。

4〉例文のグロスにおける符号およびその意味は次の通りである。

1	一人称（first person）
2	ニ人称（second person）
3	三人称（third person）
CL	量詞（classifier）
COMP	補語（complementizer）
COP	コピュラ（copula）
DUR	進行相（durative）

EXP	経験相（experiential）
FOC	焦点（focus）
GEN	所有格（genitive）
MOD	叙法詞（modal）
NEG	否定語（negative）
PFV	完了相（perfective）
PL	複数（plural）
SG	単数（singular）
SUB	従属詞（Subordinative particle）

本論（上）

第１部　数量表現の弱い主語・主題性

第１章　数量表現の指示・代用機能

第２章　中国語の数量表現の連用修飾

第１章　数量表現の指示・代用機能

1. はじめに
2. 日本語と中国語の不定表現の差異
2.1 「誰か」と“谁”　2.2 「何か」と“什么（东西）”
3.「二人」と“两个人”から見る数量表現の指示・代用機能の差異
4. 数量表現の指示・代用機能について
4.1. 非同一指示　4.2. 動機付け
5. おわりに

1. はじめに

本章は数量表現の性質の一つである指示・代用機能について論じる。数量表現の文法機能の中でも、指示・代用機能は以前から重視されており、例えば房玉清 1984 および陆俭明 1988 はいずれもそれを数量詞がもつ文法機能の最初の項目として掲げている。

(1)　数量短语的主要语法功能是修饰名词或代替名词。数量短语在一定的上下文里，可以代替名词。(数量フレーズの主要な文法機能は名詞を修飾する、或いは名詞の代わりをするというものである。数量フレーズは一定の文脈において名詞の代わりに使用できる)

走上　　车道，一个 奔　　西，一个 往　　东。(周立波)
走る-上がる　車道　　1CL　駆ける　西　　1CL　向う　東
(車道に入ると、一人は西へ、一人は東へ向かった。(周立波))

——房玉清 1984:278

(2)　起指代作用。(指示・代用機能を果たす)

今天　你　吃　　的　　鱼，一条 是　　鲤鱼，一条 是　　鲫鱼。
今日　2SG　食べる　SUB　魚　　1CL　COP　鯉　　1CL　COP　フナ
(今日あなたが食べた魚は、一匹は鯉で、もう一匹はフナだ)

——陆俭明 1988:146

(1) における二つの“一个”(一人) は、それぞれ異なる方向に行く人のことを指す。(2) における“一条”(一匹) は、それぞれ異なる魚を指す。このように、数量表現が指示・代用機能を果たし得るものであるということはすぐに分かる。しかし、実際には (1) におけ

る二つの“一个”（一人）はどちらも聞き手にとって同定できるとは限らず、二人の人が異なる方向に向かったという情報しか把握できない。(2）のケースも同様であり、二匹の魚の違いは指摘されているものの、それぞれどう対応するかは（2）のみによっては判断がつくものではない。次の（3)、(4）のように、数量表現を人の名前に変えたり、数量表現の前に代名詞を含めた修飾語を付けたりして指示・代用性を高めることによって、初めて指されるものが特定できるようになる。

(3)　走上　　车道，杜善发 奔　　西，唐田　往　　东。
走る-上がる　車道　杜善発　駆ける　西　唐田　向う　東
（車道に入ると、杜善発は西へ、唐田は東へ向かった）

(4)　今天 你　吃　　的 鱼，清蒸　　的　那　一条　是　鲤鱼，炖汤　的　那 一条
今日　2SG　食べる SUB 魚　蒸籠で蒸す SUB　あの　1CL　COP　鯉　煮込む　SUB　あの 1CL
是　鲫鱼。
COP　フナ
（今日あなたが食べた魚は、調味料を使わずに蒸籠で蒸して作ったのは鯉で、スープにしたのはフナだ）

このように、数量表現が果たす指示・代用機能は、固有名詞や代名詞などと比べると弱いものであることがわかる。また、(3)、(4）における“唐田往东”（唐田は東へ向かった)、“炖汤的那一条是鲫鱼”（スープにしたのはフナだ）の部分は次の（5)、(6）のように省略できるのに対して、(1）の二つ目の“一个”（一人）と（2）の二つ目の“一条”（一匹）を削除して、(7)、(8）のようにした場合はいずれも自然度が落ちる。

(5)　走上　　车道，杜善发 奔　　西。
走る-上がる　車道　杜善発　駆ける　西
（車道に入ると、杜善発は西へ向かった）

(6)　今天　你　吃　的　鱼，清蒸　　的　那　一条　是　鲤鱼。
今日　2SG　食べる SUB　魚　蒸籠で蒸す SUB　あの　1CL　COP　鯉
（今日あなたが食べた魚は、調味料を使わずに蒸籠で蒸して作ったのは鯉だ）

(7) ??走上　　车道，一个 奔　　西。
走る-上がる　車道　1CL　駆ける　西
(?車道に入ると、一人は西へ向かった）

(8) ??今天　你　吃　的　鱼，一条 是　鲤鱼。
今日　2SG　食べる　SUB　魚　1SG　COP　鯉
(?今日あなたが食べた魚は、一匹は鯉だ）

したがって、数量表現は制約を受けやすく、所謂「一定の文脈」の助けを必要とすると言うことができる。(6) のような修飾構造や“其中”（そのうち）のような修飾語を伴わない場合には、通常“一个…，一个…”（一つは～、もう一つは～）のような並列構文（以下、数量詞並列構文と呼ぶ）にしなければならない。以下では、日中対照の観点から、中国語数量表現の指示・代用機能の特徴を見ていくが、数量表現は不定（indefinite）表現の一種であるため、数量表現の分析に入る前に、2 節ではまず不定表現全般の特徴として指示・代用機能に見られる日本語と中国語の差異を明らかにする。3 節では数量表現の分析に戻り、「二人」と“两个人”を例に日中両語の数量表現がもつ指示・代用機能の特徴を検討する。更に 4 節では本章の冒頭に示した数量詞並列構文に戻り、同構文における数量詞の指示・代用性について論じる。

2. 日本語と中国語の不定表現の差異

中国語の数量表現は不定 (indefinite) の典型と看做されている。そもそも、中国語では“谁”（誰か)、“什么（东西）”（何か）のような同定されない（対応物が聞き手の知識内には存在しない）ものを表す不定表現[①]を用いて、目の前にいない人や物を呼んだり指し示したりすることが不可能であり、日本語とは異なる特徴を持つ。本節では、日本語の「誰か」、「何か」と中国語の“谁”（誰か)、“什么（东西）”（何か）を比較することによって、中国語の不定表現の指示・代用機能がより制約を受けやすいことを示す。

日本語では、誰か vs.誰が、何か vs.何が、いつか vs.いつがのように、不定表現は疑問詞と異なる形式を有する。これに対して、中国語においては、不定表現は形式上疑問詞と区別がつきにくく、むしろ疑問詞の一つの用法と看做されている。言い換えれば、中国語の不定表現は“谁”、“什么”、“哪儿”などの不定指示（“虚指”）の用法のことを指す。刘月华等 2001 はこれについて（9）のような例を挙げ（10）のように説明している。

（9）a. 这　件 事情 好像　谁　告诉　过　我。

その　CL　事柄　まるで　誰か　告げる　EXP　1SG

(そのことは誰かが私に話してくれたことがある)

b. 我　应该　在 中国　买 点儿 什么 送　给　我　的　朋友。

1SG　すべきである で　中国　買う　少し　何か　送る　に　1SG　GEN　友達

(わたしは中国で何か買って友だちにあげなければなりません)

c. 你　坐　哪儿　等　我　一下儿，我　就　来。

2SG　坐る　どこか　待つ　1SG　ちょっと　1SG　すぐに　来る

(どこかに座ってちょっと待っていてください。わたしはすぐ来ますから)

（10）　疑问代词用于虚指时也不要求回答，它只表示不知道或说不出来或无须指明的人或

① 坂原 2000:214 によれば、不定表現は「同定を必要としない要素を新たに導入する言語表現」であり、定表現は「要素の同定を必要とする言語表現」であるという。

事物。
（疑問代名詞が不定指示に用いられた場合も回答を要求するわけでなく、その疑問代名詞は、「わからない、言えない、或いははっきり言う必要のない人または事物」の代わりをするだけである）

——刘月华等 2001:105、相原（監訳）1996:90

本稿は、中国語の不定表現は形式的に、次の基準によって疑問代名詞のその他の用法と区別できると考える。まず平叙文に使用される疑問代名詞は不定表現である。この場合は朱德熙 1982 が指摘しているようにストレスが置かれない。次の（11）では、b における“什么”（何か）がそうである。

（11）a.　他　叫　　什么　绊了　　一交？
3SG　によって　何　　躓く-PFV　1CL
（彼は何に躓いて転んだか？）
b.　他　叫　　什么　绊了　　一交。
3SG　によって　何か　　躓く-PFV　1CL
（彼は何かに躓いて転んだ）

——朱德熙 1982:89

次に、疑問文の場合について、朱德熙 1982:202 は、疑問代名詞疑問文（“特指问句”）は“呢”（だろうか）、“啊”（なあ）を伴うことができるが、“吗”（か）は伴えないと指摘している。実際には、疑問代名詞疑問文は“吗”（か）のみならず、“吧”（だろう）を使用することもできない。このようなことから、“吗”（か）、“吧”（だろう）と共起する疑問代名詞は不定表現と看做すことができる。また、次の（12）において、“谁”は「誰か」としか理解できず、「誰」という意味で用いられる場合は（12a）も（12b）も成立しない。

（12）a.　你　在　　跟　谁　较劲　吗？
2SG　DUR　と　誰か　競う　か
（あなたは意地を張って誰かと競っているのですか）
b.　你　在　　跟　谁　较劲　吧？
2SG　DUR　と　誰か　競う　だろう
（あなたは意地を張って誰かと競っているのでしょう）

以上の考察から、（13）のような疑問代名詞は不定表現と捉えることができる。

（13）a.　平叙文に使用され、ストレスが置けない疑問代名詞

b.　疑問文に使用され、“吗”（か)、“吧”（だろう）と共起できる疑問代名詞

前述のように、本稿は動詞の前に用いられる数量表現を考察対象としているため、ここでは通常主語の位置に用いられる“谁”（誰か)、“什么（东西)”（何か）だけを取り上げることにする。以下「誰か」と“谁”、「何か」と“什么（东西)”の違いを見ていく。

2.1 「誰か」と“谁”

前述のように、日本語の不定詞である「誰か」に相当する中国語の表現として、“谁”を挙げることができるが、指示・代用機能の面においては、“谁”は「誰か」よりも弱いことがわかる。

日本語では「誰か」を用いて呼びかけることができ、例えば、(14)、(15）のように、目の前にいない人に対して、その場に来るように声を掛けることができる。

（14）　誰か！誰か来て！
（15）　大変、誰か来て！

これに対し、このような場面において、中国語では“谁”を用いて（14’)、(15’）のように呼びかけることはできない。通常は（14”)、(15”）に示すように、“有人吗？”（誰かいますか)、“快来人！”（誰か早く来て）のように言わなければならない。

（14’）　*谁！　谁　快　来！
　　誰か　誰か　早く　来る
　　（誰か！誰か来て）
（15’）　*不得了了，谁　快　来！
　　大変-MOD　誰か　早く　来る
　　（大変、誰か来て）
（14”）　有　人 吗？　快　来　人！
　　いる　人　か　早く　来る　人
　　（誰かいますか。誰か来て）
（15”）　不得了了，快　来　人！
　　大変-MOD　早く　来る　人
　　（大変、誰か来て）

また、このような呼びかけのケースだけではなく、言及の場合も同様の特徴が伺える。日本語では（16a)、(17a）のように「誰か」を用いて不定の人物を指すことができるのに対して、中国語では“谁”（誰か）を主語の位置において、(16b)、(17b）のように叙述の対

象にすることはできない。

（16）a. 誰かが空から見ているよ。
b. ?谁 在 从 上空 往 下 看。
誰か DUR から 上空 へ 下 見る

（17）a. あなたの隣に誰かいる。
b. ?谁 在 你 旁边。
誰か いる 2SG そば

この場合、通常文頭の“谁”（誰か）を“有人”（誰か）に置き換える必要がある。

（16）b'. 有（个）人 在 从 上空 往 下 看。
誰か DUR から 上空 へ 下 見る

（17）b'. 有（个）人 在 你 旁边。
誰か いる 2SG そば

現に、日本語から中国語に訳されたものを見ると、「誰か」に対応する表現として、(18)、(19) に示すような“有人”と、(20)、(21) に示すようなその他の形が用いられ、訳文ではいずれも主語の位置に“谁”（誰か）が来ることが避けられている。

（18）a. 誰かが、彼のことを、メビウスの輪のようだと評したことがある。
b. 有人 把 他 叫做 “美比乌斯圈圈”。
誰か ~を 彼 呼ぶ メビウスの輪

——（対）砂の女

（19）a. 「あーあ」と誰かが溜息をした。
b. “唉——”有人 长 叹 一声。
あーあ 誰か 長く 嘆く 1CL

——（対）野火

（20）a. 「ガチャ」とドアが開き、誰かが入ってくる。事務局長・篠塚さんだ。
b. 这时，我 听到 开门 的 声音。抬 头 一 看，进来 的
その時 1SG 聞こえる 戸を開ける SUB 音 擡げる 頭 ちょっと 見る 入る-来る SUB
是 筱冢 先生。
COP 篠塚 さん

——（対）五体不満足

（21）a. みんな砂の上にしゃがんでいたが、工員の一人が「誰か火を入れてくれ」と云って立ちあがった。

b. “谁 来 点火？”一个 职工 说着 站了起来。

誰 FOC 点火する 1CL 従業員 言う-DUR 立つ-PFV-起きる-来る

——（対）破戒

2.2 「何か」と“什么（东西）”

日本語では（22a）のように、「何か」で物を指し示すことができるのに対して、中国語では“什么”（何か）や“什么东西”（何か）を用いて（22b）、（22c）のように叙述するのはやや不自然である。

（22）a. 何かが落ちている。

b. ?什么 掉了。

何か 落ちる-PFV/MOD

c. ?什么东西 掉了。

何物か 落ちる-PFV/MOD

対訳コーパスの用例を見ると、主語の位置に現れる「何か」は、（23b）、（24b）に示すように、通常“有什么东西”という形で中国語に訳される。

（23）a. 僕は何か言おうとしたが喉に何かがつまっているみたいに言葉がうまく出てこなかった。

b. 我 想 说 句 什么，但 喉头 似乎 有 什么东西 堵着， 一时 未 能 出口。

1SL ~したい 言う CL 何か しかし 喉 らしい ある 何物か 詰まる-DUR しばらく NEG できる 言葉に出す

——（対）ノルウェーの森

（24）a. ふと立ちどまった。草の根元で、何かが動いた。クモだった。

b. 忽地，他 站住了， 草 根处 有 什么东西 动了 一下。 仔细 一 看，原来 是 只 蜘蛛。

急に 3SL 立ち止まる-PFV/MOD 草 根元 ある 何物か 動く-PFV ちょっと 注意深く ちょっと 見る なんと COP CL クモ

——（対）砂の女

以上の議論から、中国語の不定表現である“谁”（誰か）、“什么（东西）”（何か）は日本語の「誰か」、「何か」より指示・代用機能が弱いことが明らかになった。次の 3 節では、数量表現の分析に戻り、人を指す「二人」と“两个人”の比較を通して、数量表現における日本語と中国語の指示・代用機能の差異を示す。

3. 「二人」と“两个人”から見る数量表現の指示・代用機能の差異

人間を表す数量表現は、“谁”、“什么（东西）”といった不定表現同様、日本語と異なり、呼びかけにも、言及にも用いることができない。

例えば、目の前にいる二人の人に対して、日本語では「二人」と呼ぶことができるが、中国語では“两个人”（二人）を用いることはできない。例えば、(25）において、薫ははると葉に対して「二人はどう思う？」と発話しているが、これに対して、(26）に示すように、中国語では“两个人”（二人）を用いた発話は成立しない。この場合は通常（27）のように“两个人”（二人）の前に“你们”（あなたたち）という修飾語を付けたり、“二位”（お二人）のような敬語に変えたりして、指示・代用性を高めなければならない。

（25）　薫　　「模倣犯」　宮部みゆき著。まずは、あらすじ。

（中略）

薫　　登場人物が多いし、話も複雑だしね。

そういえば、私の知り合いにあのラストは納得できないって言う人がいたのね。

あのピースがあまりに馬鹿だって。二人はどう思う？

はる　　いや、私は良かったと思うけど。

葉　　私もアレでいいと思う。

薫　　私もそう。っていうかアレ以外のラストはあり得ないって思う。

――「模倣犯」2004 年 9 月 18 日の井戸端会議記録（「薫の庵」http://www.h7.dion.ne.jp/~kaoru-hp/）

（26）　*那个 片段　太　　蠢　了。　两个 人 觉得 怎么样?

あの　ピース　あまりにも 馬鹿　MOD　2CL　人　感じる どう

（27）a. 你们 两个 觉得 怎么样?

2PL　2CL　感じる どう

(あなたたち二人はどう思う)

b. 二位　觉得　怎么样?

お二人　感じる　どう

(お二人はどう思いますか)

また、第三者に言及する場合においても、日本語は「二人」で指すことが可能であるが、中国語は“他们”（彼ら）という表現を用いることが多い。次の（28)、(29）のような対訳例において、「二人」と“他们”（彼ら）が対応している②。

② 以下（28b)、(29b)、(32b）のように、例文が長いテクストで出る場合においては、グロスを省略することがある。

（28）a.　私の気づかぬうちに、漱清のほうへ行っていた男女のあいだに、口論が起っていた。諍いはだんだん烈しくなったが、私には一語も聴きとれなかった。女も何か強い言葉でやり返しているのだが、それが英語であるか日本語であるかわからなかった。二人は諍いながら、もう私の存在は忘れて、法水院のほうへ立戻って来た。

b.　我丝毫没察觉到那对男女是何时向漱清亭走去的。直到他们发生了口角，才引起我的注意。二人[③]越吵越凶，我听不懂他们在吵些什么。女人高声大嗓地回敬美国兵，也不知说的是英语还是日语。他们忘掉还有我这个导游了，一边口角一边又返回法水院。

——（対）金閣寺

（29）a.　目鋭い叔父は直にそれと看て取って、一寸右の肘で丑松を小衝いて見た。どうして丑松も平気で居られよう。叔父の肘が触るか触らないに、その暗号は電気のように通じた。幸い案じた程でも無いらしいので、漸と安心して、それから二人は他の談話の仲間に入った。

b.　目光敏锐的叔父一眼看到了这种情景，用右肘抵了抵丑松。其实丑松哪能浑然不觉呢，叔父用肘一抵，那暗号就像电一般迅速传了过来。幸而他们的举动没被别人注意，他们终于定下心来，又同另外一些人闲聊起来。

——（対）破戒

（28）、（29）における“他们”（彼ら）を“两个人”（二人）に置き換えて（30）、（31）のようにすると、いずれも容認しにくいものとなる。

（30）　?两个人忘掉还有我这个导游了，一边口角一边又返回法水院。
（31）　?两个人终于定下心来，又同另外一些人闲聊起来。

次の（32b）は“两个”という数量表現が用いられているが、（32b’）で示すように、“丑松叔侄”のような指示性を持たせる修飾語を削ることはできない。この事実も中国語の数量表現そのものは指示・代用機能が弱いということを示している。

（32）a.　例の種牛は朝のうちに屠牛場へ送られた。種牛の持主は早くから詰掛けて、叔父と丑松とを待受けていた。二人は、空車引いて馳けて行く肉屋の丁稚の後に随いて、やがて屠牛場の前まで行くと、門の外に持主、先ず見るより、克く来てくれたを言い継ける。

b.　那头种牛一清早就送到了屠宰场。牛的主人很早就来到这里，一直候着叔父和丑松。

③ “二人”（二人）、“三人”（三人）のような表現は、やや古い文体においては用いられることがあるが、この使い方は現代中国語の会話文にはなく、一般性を欠くと考えられる。

肉铺的小伙计拉着一辆空车，丑松叔侄两个跟在后边，不一会就到了屠宰场。
b'. ?肉铺的小伙计拉着一辆空车，两个跟在后边，不一会就到了屠宰场。

——（対）破戒

さらに、複数の第三者のみならず、話者を含めた「一人称＋三人称」に言及する際にも、日本語は「二人」を用いることができるが、中国語では（33b）、（34b1）、（34b2）、（35b）が示すように、通常“我们”（私たち）、“我俩”（私たち二人）という形で対応させている。

（33）a. それを笑った私も忽ちぶつけた。二人はもう一曲りして段を昇り、楼上へ出たのである。
b. 光顾笑他，没留神我也撞上了。我们拐了一个弯，登梯继续向楼顶攀去。

——（対）金閣寺

（34）a. 二人は大きな金魚鉢の横から、「どうも御邪魔をしました」と挨拶した。
b1. 我们从大鱼缸旁边招呼了一声：“真是打扰你们了。”
b2. 我们两人在那只饲养着金鱼的大水盆旁招呼：“对不起，打搅了！”

——（対）こころ

（35）a. 鶴川も私を見て微笑した。二人はこの二三時間が自分たちの時間であることをしみじみと感じていた。
b. 鹤川看着我会心地笑了起来，我俩深深感到，唯有这两三个小时才真正属于自己的。

——（対）金閣寺

そして、次の（33c）～（35c）に示すように、中国語では“两个人”（二人）という形は用いられない。

（33）c. *光顾笑他，没留神我也撞上了。两个人拐了一个弯，登梯继续向楼顶攀去。
（34）c1. *两个人从大鱼缸旁边招呼了一声：“真是打扰你们了。”
c2. *两个人在那只饲养着金鱼的大水盆旁招呼：“对不起，打搅了！”
（35）c. *鹤川看着我会心地笑了起来，两个人深深感到，唯有这两三个小时才真正属于自己的。

次の（36'）の『坊ちゃん』の三種類の中国語訳においては、「二人」はそれぞれ“我们”（私たち）、“俺们”（僕たち）、“我俩”（私たち二人）と訳されており、いずれも人称代名詞が用いられている。（36''）に示したように、この場合も上の例と同様に、“两个人”と訳すことはできない。

（36） 二人が着いた頃には、人数ももう大概揃って、五十畳の広間に二つ三つ人間の

塊まりが出来ている。

（36’）a. 我们到场时，人已经差不多到齐了。在五十铺席的大客厅里，人们分成两三堆围坐着。

b. 俺们两个人到了会场的时候，人数差不多到齐了。在一百平方米的大房间里，显得只有那么两、三堆人。

c. 我俩到那儿之后，看到人数大多到齐了，五十铺席的厅堂里，客人分两三堆坐着。

——（対）坊ちゃん

（36”） *两个人到场时，人已经差不多到齐了。

要するに、日本語において数量表現を用いて人を指し示す場合、すなわち「二人」、「三人」のような表現を使って人を指し示す場合、中国語では通常人称代名詞を使い、数量表現そのままの形は用いられない。日本語と中国語の対応関係を表にまとめると以下のようになる④。

（37）

人　称	日	中
二人称複数	二人	你们/ *两个人
一人称＋三人称	二人	我们/ *两个人
三人称複数	二人	他们/ *两个人

4. 数量表現の指示・代用機能ついて

3 節では「二人」と“两个人”を比較することによって、中国語の数量表現は全般的に日本語よりも指示・代用機能が弱いことが明らかになった。本節では本章の冒頭に示した数量詞並列構文に戻り、改めて同構文における数量詞の指示・代用性について検討する。

前述のように、数量詞並列構文における数量詞の指すものは、聞き手にとって同定しにくいものである。そのため、数量詞は、聞き手が特定されていることを前提にするような命令文に使いにくく、このことも数量詞の弱い指示・代用性を反映している。例えば、二人に同時に働きかける（38）のような文脈において、数量詞並列構文の使用は不適切である⑤。この場合は、(39）に示すように、数量詞の代わりに“小张”（張くん)、“小王”（王くん）といった定の表現を用いなければならない。

④ 本章の後ろにある注御参照。

⑤ “快”（早く）を取った次のような文は自然である。しかし、この場合は命令文というより、むしろ一種の説明文であり、後述する構文の意味機能と関係する。

你们两个，一个趴床底，一个躲门后。

（あなたたち二人、一人はベッドの下に潜る、もう一人はドアの後ろに隠れる）

（38）　??你们 两个，一个 快　趴　　床底！　一个 快　躲　门后!
2PL　2CL　1CL　早く　腹ばいになる　ベッドの下　1CL　早く　隠れる　ドアの後ろ
（あなたたち二人、一人は早くベッド下に潜って、もう一人は早くドアの後ろに隠れて）

（39）　小张　快　趴　　床底！　小王　快　躲　门后!
張くん　早く　腹ばいになる　ベッドの下　王くん 早く 隠れる ドアの後ろ
（張くんは早くベッド下に潜って、王くんは早くドアの後ろに隠れて）

しかし、このように数量詞の指示・代用性は弱いにもかかわらず、(40)、(41）がものを指し示しているように感じられるのも事実である。

（40）　今天你吃的鱼，一条是鲤鱼，一条是鲫鱼。(＝（2))

（41）　昨天 来　的　老外，　一个 是　西班牙人，一个 是　葡萄牙人。
昨日　来る SUB　外人さん　1 人　COP　スペイン人　1 人　COP　ポルトガル人
（昨日来た外人さんは、一人はスペイン人で、もう一人はポルトガル人だ）

そこで、本節では、数量詞並列構文において、数量表現がどのように指示・代用機能を果たしているのかについて考える。4.1 では数量詞が「非同一指示」で前方の情報を同定することを示し、4.2 ではその動機付けとなる構文の意味機能を明らかにする。

4.1. 非同一指示

（40）の“一条”(一匹)、(41）の“一个”(一人）は、所謂「非同一指示」の方式で前方にある要素を同定していると見なすことができる。坂原 2000 によれば、名詞の照合には、（42）のような同一指示と、(43）のような非同一指示があるという。

（42）a.　I’m going to tell you the story of a man that lived next to us about three years ago. One evening the man visited me…
b.　三年ばかり前に隣に住んでいた男の話をしよう。ある晩、男がやってきて…

（43）a.　I’m going to tell you the story of a married couple that lived next to us about three years ago. One evening the man visited me…
b.　三年ばかり前に隣に住んでいた夫婦の話をしよう。ある晩、男がやってきて…
――坂原（2000:220-221）

非同一指示について、坂原 2000:222 は次のように説明している。

（44）　非同一指示照応の典型的例は、先行文脈が設定したフレームの中にすでに存在す

るが、まだ言語化されていない要素を同定する用法である。これは、定冠詞句の解釈を先行文脈に結びつけるため、連合照応、橋渡し推論などと言われる。また、同一指示を直接的照応と呼び、非同一指示の照応を間接的照応と呼ぶこともある。

a. I read an interesting book. The author is a good friend of mine.

b. 私は面白い本を読んだ。著者は私の親友だ。

——坂原 2000:222-223、下線は引用者

（44a）において、「The author」は非同一指示の機能を果し、「an interesting book」のフレームの中に存在する要素を同定している。英語では非同一指示は定冠詞句で導入されるが、日本語では、裸名詞がこの種類の照応に使われるという。以下の（43c）、（44c）に示すように、同様の例に限って言えば、中国語の場合も裸名詞が非同一指示を果たしているようである。

（43）c. 我 给 你 讲 一个 三年前 住 在 我 隔壁 的 一对 夫妻 的 故事。
1SG に 2SG 話す 1 CL 三年前 住む に 1 SG 隣 SUB 1 対 夫婦 SUB 物語
一天 晚上，男的 来 找 我…
ある日 夜 男 来る 探す 1 SG

（44）c. 我 读了 一本 很 有意思 的 书，作者 是 我 好 朋友。
1 SG 読む-PFV 1CL とても 面白い SUB 本 著者 COP 1SG 良い 友達

しかし、非同一指示に使われるのは裸名詞だけではない。数量詞もまた非同一指示に使われうる。

（45） 今天你吃的鱼，一条是鲤鱼，一条是鲫鱼。（＝（2）＝（40））
（46） 昨天来的老外，一个是西班牙人，一个是葡萄牙人。（＝（41））

数量詞の後ろに“鱼”（魚）、“老外”（外人さん）のような名詞が省略されていることからも分かるように、（45）の“一条”（一匹）、（46）の“一个”（一人）は、それぞれ前方の魚、外国人のフレームの中で存在しながら言語化されていない要素を同定している。興味深いことに、日本語はこのような数量表現並列構造にはなりにくい。

（47） ?今日あなたが食べた魚は、一匹は鯉で、一匹はフナだ。
（48） ?昨日来た外人さんは、一人はスペイン人、一人はポルトガル人だ。

3 節で指摘したように、日本語の数量表現は指示・代用性が強く、「一匹」、「一人」等は比較的はっきりした個体となっている。そのため、そのまま（47）、（48）のように並べるこ

とはできず、通常次の（47’）、（48’）のように、前方の数量表現と区別できるように、二つ目の数量表現の前に「もう」のような修飾語を付加しなければならない。

（47’）　今日あなたが食べた魚は、一匹は鯉で、もう一匹はフナだ。
（48’）　昨日来た外人さんは、一人はスペイン人、もう一人はポルトガル人だ。

これに対し、中国語の場合、数量表現の指示・代用性が弱いため、“一个…，一个…”（一つは～、もう一つは～）のような並列構造を成すことができる。このような数量表現は、集合である叙述対象を分割して得られる部分量を表すことによって、集合にある要素を同定するのだと考えられる。

部分量とはある集合における部分的なメンバーのことを指し、英語においては some がその典型的文法形式である（徐烈炯、刘丹青 1998、以下（49）、（50）も同様）。

（49）　He has a lot of friends from Asia. Some are Chinese, Some are Japanese.
‘他 有　很多 来自　亚洲　的 朋友，有的 是　中国人，有的　是　日本人’
3SG 持つ　沢山　~から来る　アジア SUB　友達　ある人 COP　中国人　ある人　COP　日本人
（彼にはアジアから来た友達がたくさんいる。一部は中国人であり、一部は日本人である）

（50）　We can plant some trees here.
‘我们 可以 在 这儿 种　一些　树’
1PL　できる で　ここ　植える　いくつか　木
（私たちはここで木を植えることができる）

徐烈炯、刘丹青 1998 によると、中国語の部分量を表す形式には二種類あり、（49）に示すような分割式部分量（“瓜分式分量”）を表す“有的”と、（50）に示すような純粋な不確定の部分量（“纯粹无定的分量”）を表す“一些”である。更に、後者の単数形式に“一个”があると指摘されている（徐・劉は“一个”について言及しているものの、例を挙げての説明はしていない）。しかし、筆者は“一个”のような数量表現は分割式部分量を表すのにも用いられると考える。（51）、（52）はそれぞれ食べた魚、来ている外国人という集合を分割するような文脈にあると言える。その証拠として、（51’）、（52’）のような、関係するメンバーを挙げ尽くしていない言い方は成立しない。

（51）　今天你吃的鱼，一条是鲤鱼，一条是鲫鱼。（＝（2）＝（40））
（52）　昨天来的老外，一个是西班牙人，一个是葡萄牙人。（＝（41））
（51’）　*今天 你　吃　的　三条 鱼，一条　是　鲤鱼，一条　是　鲫鱼。
今日　2SG　食べる SUB　3CL　魚　1CL　COP　鯉　1CL　COP　フナ

（?今日あなたが食べた三匹の魚は、一匹は鯉で、一匹はフナだ）

（52’） *昨天 来 的 三个 老外， 一个 是 西班牙人，一个 是 葡萄牙人。

昨日 来る SUB 3CL 外人さん 1CL COP スペイン人 1CL COP ポルトガル人

（?昨日来た三人の外人さんは、一人はスペイン人で、一人はポルトガル人だ）

次の（53）、（54）は叙述対象を分割したあと、数量表現を連続して用いて順次説明を加えており、一部の数量表現を省略した（53’）、（54’）は明らかに不自然である。

（53） 爽门下有客五百人，内有五人以浮华相尚：一是何晏，字平叔；一是邓飏，字玄茂，乃邓禹之后；一是李胜，字公昭；一是丁谧，字彦靖；一是毕轨，字昭先。

——三国演义 106 回:862

（彼の家の食客は五百人を数え、中に五人、軽薄なことをもって互いに気心を通じ合っている者たちがあった。すなわち、何晏、字は平叔、鄧禹（光武帝の功臣）の末孫である鄧颺、字は玄茂、李勝、字は公昭、丁謐、字は彦靖、畢軌、字は昭先の面々）

——『三国志演義（下）』、羅貫中作、立間祥介訳、平凡社、1968：400

（54） 毛主席在《〈共产党人〉发刊词》中指出，中国革命的三个基本问题，一个是统一战线问题，一个是武装斗争问题，一个是党的建设问题。

（毛主席は、「『共産党人』刊行のことば」のなかで、中国革命の三つの基本問題は統一戦線の問題、武装闘争の問題、党建設の問題である、と指摘している）

——（対）邓小平文选

（53’）??爽门下有客五百人，内有五人以浮华相尚：一是何晏，字平叔；一是邓飏，字玄茂，乃邓禹之后；一是李胜，字公昭；一是丁谧，字彦靖。

（?彼の家の食客は五百人を数え、中に五人、軽薄なことをもって互いに気心を通じ合っている者たちがあった。すなわち、何晏、字は平叔、鄧禹（光武帝の功臣）の末孫である鄧颺、字は玄茂、李勝、字は公昭。）

（54’）??毛主席在《〈共产党人〉发刊词》中指出，中国革命的三个基本问题，一个是统一战线问题，一个是武装斗争问题。

（?毛主席は、「『共産党人』刊行のことば」のなかで、中国革命の三つの基本問題は統一戦線の問題、武装闘争の問題、と指摘している）

4.2. 動機付け

4.1 で述べてきたように、中国語の数量表現は「分割式部分量」を表すことによって非同一指示の機能を果たすことができるが、これは、数量詞並列構文の意味機能に動機付けられていると考えられる。

本稿は、数量詞並列構文を、ある集合内のメンバーの異なる性質を叙述するものである

と見なす。先に論じたように、同構文は集合内のメンバーを尽きるまで逐次紹介する。当然のことながら、メンバー皆に共通する特徴について説明する場合は、(55) に示すように同構文を用いることはできず、通常 (56) のように叙述しなければならない。

(55) *昨天 来 的 老外， 一个 是 西班牙人，一个 是 西班牙人。
昨日 来る SUB 外人さん 1CL COP スペイン人 1CL COP スペイン人
(*昨日来た外人さんは、一人はスペイン人で、一人はスペイン人だ)

(56) 昨天 来 的 老外， 两个 都 是 西班牙人。
昨日 来る SUB 外人さん 2CL いずれも COP スペイン人
(昨日来た外人さんは、二人ともスペイン人だ)

したがって、数量詞並列構文の存在価値は、集合内部に差異が存在する際、その差異について説明をするところにあると言える。そのため、数量詞の後ろに来る成分は異なるものでなければならない。例えば 2 つ目の“西班牙人”(スペイン人) を“葡萄牙人”(ポルトガル人) に換えた (55') のような文は自然になる。

(55') 昨天来的老外，一个是西班牙人，一个是葡萄牙人。(= (41) = (46))

実際の作品においても、数量詞に後続する成分はいずれも異なるものである。

(57) 我们 中国 的 少数民族 最多 的 地区，一个 是 西北，一个 是 西南。
我々 中国 GEN 少数民族 最も多い SUB 地区 1CL COP 西北 1CL COP 西南
(わが中国で少数民族が最も多いのは、一つは西北地区、もう一つは西南地区である)
——(対) 邓小平文选

(58) 桌子 旁边 坐着 两个 人，一个 面 朝 里，是 朱铁汉， 一个 面 朝 外，
机 側 坐る-DUR 2CL 人 1CL 顔 向う 中 COP 朱鉄漢 1CL 顔 向う 外
是 周丽平。
COP 周麗平
(その両側に二人の男女が坐っている。内を向いたのが朱鉄漢で、表を向いたのが周麗平だ)
——(対) 輝ける道

二つのメンバーが最も異なっている状況というのは、それらが相反する特徴をもっている場合であると考えられるため、同構文は典型的には“一个A、一个－A”という二者対立的な構造を成す。なお、次の (59)、(60) に示されるように、メンバーの対立性がはっき

りした場合、動詞を省略することも可能になる[⑥]。

（59）　他们　两个 人，一人 率　一部，一个 里，一个 外；一个　在 重敌
彼ら　2CL　人　1 CL　率いる 一部隊 1 CL　中　1 CL　外　1 CL　で　重武装の敵
围攻　中 坚守　大别山，一个 在　外线　实施
包囲・攻撃する 中 死守する 大別山　1 CL　で　敵を包囲する形の戦線　実施する
运动展开。
流動的な侵攻作戦
（二人は、一人が一部隊ずつを統率し、一方は内側へ、もう一方は外側へいった。一方は重武装の敵が包囲・攻撃する中で大別山を死守し、もう一方は敵を包囲して流動的な進攻作戦を行うことになった）

——（対）我的父亲邓小平

（60）　那　是　从　西藏　传来　的　喇叭，两 米　多　长，只能
それ　COP　から　チベット 伝わる-来る SUB ラッパ　2 メートル あまり 長さ　するほかない
发　两个 音，一个 高音，一个 低音。
出す　2CL　音　1 CL　高音　1 CL　低音
（ガンドンっていうのはチベットから伝わった長さ二メートルあまりのラッパで、高音と低音の二つの音しか出せないものです）

——（対）钟鼓楼

---

⑥ 数量詞並列構文の述語の意味素性と、数量詞の持つ指示性との関係も見逃せない。同構文を用いた例で最も多く見られる動詞は“是”である。“是”は通時的に「一致を表す」同動詞と呼ばれ、近称を表す指示代名詞から変化してきたとされている（太田 1958:189）。現代中国語において、“是”は断定を表す動詞と看做されているものの、代名詞だった時の指示・代用性が完全に消えているとは言いがたい。時間軸と深くかかわる次のような例から、“是”には現場指示性機能が残っていることが分かる。

（A）（荷造りしているのを見て）
a. 明天你要去哪儿？（明日あなたはどこに行くつもりですか）
b. ?明天你要去的是哪儿？（明日あなたが行くのはどこですか）
（B）（午後教室で会って）
a. 今天中午你吃的什么？（今日のお昼、あなたは何を食べましたか）
b. ?今天中午你吃的是什么？（今日のお昼、あなたが食べたのは何ですか）
（C）你吃的是什么？（あなたが食べているのは何ですか）

（A）に示すように、未来の行く先を尋ねる場合、通常（Aa）のような表現を用いるが、（Ab）のような言い方は不自然である（荷物を指しながら行く先を確認する意味においては、自然な言い方と見なせるが、この場合、現場指示の文脈があるためだと考えられる）。また、（B）に示すように、已然のことについても、（Bb）のような“是”を用いる表現は適切ではない。（A）、（B）から分かるように、未来、過去のことには“是”の使用は制限されやすい。なお、時間詞を伴わない（C）のような文においては、“是”を使用することによって、目の前の状況であることが明確になる。また、物の値段を尋ねる場合は、通常次の（D）のような表現を用いるが、“是”を伴った（E）はお金そのものを指しながら問う表現となり、一層現場指示性の強い言い回しである。

（D）（洋服などを指差して）这个多少钱？（これはいくらですか）
（E）（はじめて見た外国の貨幣を指差して）这（个）是多少钱？（これはいくらですか）

このような性格を持つ“是”は数量詞並列構文に入り、数量詞の持つ指示性に影響を与えうると考えられる。

以上、本節では数量詞並列構文の意味機能について述べたが、数量詞が「分割式部分量」を表すのは、この構文が集合内の異なるメンバーの差異に注目するということに動機付けられていると考えられる。

5. おわりに

本章の分析から、以下のようなことが明らかになった。

1）日本語と比べて、中国語の数量表現は指示・代用機能が弱く、数量表現を用いて指示・代用を行うには、修飾語をつけたり数量詞並列構文にしたりする必要がある。

2）数量詞並列構文において、数量詞は「分割式部分量」を表すことによって、非同一指示で前方にある情報を同定する。数量詞が非同一指示の機能を果たすのは、同構文の意味機能に動機づけられる。

3）数量詞並列構文は、ある集合内のメンバーの異なる性質を叙述するものである。同構文は並列構造の形を用いて、集合のメンバーを逐次的に説明する。数量表現は並列構造の中で対比性が付与され、主題として機能するものと捉えられる。即ち、数量表現は対比性を有する分割式構文におかれて、前方で言及した特定の要素を同定し、非同一指示の機能を果たすものと見なせる。

注

英語は中国語のように、数量表現の代わりに人称代名詞を用いる傾向がある。実際に英語から日本語に訳されたものを見ると、they のような英語の代名詞を、日本語では「四人」、「二人」のような数量表現で対応させるケースが多く見受けられる。

> Harry, Ron, Fred, and George were planning to go up the hill to a small paddock the Weasleys owned. It was surrounded by trees that blocked it from view of the village below, meaning that they could practice Quidditch there, as long as they didn't fly too high.
> *They* couldn't use real Quidditch balls, which would have been hard to explain if they had escaped and flown away over the village; instead they threw apples for one another to catch. They took turns riding Harry's Nimbus Two Thousand, which was easily the best broom; Ron's old Shooting Star was often outstripped by passing butterflies.
> Five minutes later *they* were marching up the hill, broomsticks over their shoulders. They had asked Percy if he wanted to join them, but he had said he was busy. Harry had only seen Percy at mealtimes so far; he stayed shut in his room the rest of the time.
> ……
> Bill was the oldest Weasley brother. He and the next brother, Charlie, had already left Hogwarts. Harry had never met *either of them*, but knew that Charlie was in Romania studying dragons and Bill in Egypt working for the wizard's bank, Gringotts.
> ——*Harry Potter and the Chamber of Secrets,* J. K. Rowling，Bloomsbury，1998

> ハリー、ロン、フレッド、ジョージは、丘の上にあるウィーズリー家の小さな牧場に出かける予定だった。その草むらは周りを木立で囲まれ、下の村からは見えないようになっていた。つまり、あまり高く飛びさえしなければクィディッチの練習ができるというわけだ。本物のボールを使うわけにはいかない。もしもボールが逃げ出して村のほうに飛んでいったら、説明のしようがないからだ。代わりに、**四人**はりんごでキャッチボールをした。みんあで、代わりばんこにハリーのニンバス 2000 に乗ってみたが、ニンバ

ス 2000 はやっぱり圧巻だった。ロンの中古の箒「流れ星」は、そばを飛んでいる蝶にさえ追い抜かれた。

五分後、四人は箒を担ぎ、丘に向かって進行していた。パーシーも一緒に来ないかと誘ったが、忙しいと断られた。ハリーは食事の時しかパーシーを見たことがなかった。あとはずっと、部屋に閉じこもりきりだった。

（中略）

ビルはウィーズリー家の長男だった。ビルも次男のチャーリーもボクワーツを卒業している。ハリーは、二人にまだ会ったことはなかったが、チャーリーがルーマニアにいてドラゴンの研究をしていること、ビルがエジプトにいて魔法使いの銀行、グリンゴッツで働いていることは知っていた。

——『ハリー・ポッターと秘密の部屋』、松岡佑子訳、静山社、2000:69-70

哈利、罗恩、乔治和弗来德老早就打算今天爬山上威斯里家的小围场了。那儿四处都是树，把围场通得严严实实。从山下的小村在望上来，什么都看不到。这就是说，只要他们不飞太高的话，他们就可以在　这练习可尔夫球了。他们还不能用真的可尔夫球，因为如果一不小心球没有被接住，飞过村子被人发现的话，就很难向别人解释清楚了。但是，他们可以用苹果当球，相互投掷练习一下。他们轮流坐了哈利的灵光 2000，一眼就能够看出，那可是最好的扫帚。罗恩的流星扫帚飞起来甚至比身边翩翩起舞的蝴蝶还要慢。

五分钟后他们走在了上山的小路上，人人肩上都扛着扫帚。他们问过伯希想不想一起去，但是伯希说他太忙了。至今为止，哈利只是在吃饭时间看到伯希；其余时间他都把自己反锁在房间里。

（省略）

“比尔是他们的大哥，他和二哥查理已经在霍格瓦彻毕业了。”哈利从来没见过他们两个，但是听说查理在罗马尼亚研究龙，而比尔在埃及的巫师银行——格林高斯工作。

——《哈利波特和密室》，马爱新译，人民文学出版社，2000

上記のデータから考えれば、日本語の数量表現の指示・代用性は、英語、日本語、中国語の中で最も強いように思われる。これには、日本語の代名詞が未発達であることが関わっているかもしれない。いずれにせよ、本稿で論じているように、中国語の数量表現は日本語より指示・代用性が弱いことは事実である。英語を含めた分析は今後の課題にしたい。

第２章　中国語の数量表現の連用修飾

1. はじめに
2. 数量表現を主語と捉えることの問題点
3. 数量表現の述語指向
3.1 数量表現の連用修飾
3.2 統語的、意味的な面から見る数量表現の文法的振る舞い
3.2.1　ポーズが挿入できる位置
3.2.2　数量表現の述語指向性
4　おわりに

1. はじめに

第 1 章では、数量表現が数量詞並列構文に用いられる際、非同一指示を果たし、非典型的な主題として機能することを述べた。本章では、数量表現が非典型的な主語、若しくは述語内成分（連用修飾語）として機能する構文――数量対応構文について考察する。前述のように、中国語では数量表現が動詞の前に用いられる文は有標の構文である。数量表現が動詞の前に来る場合、中国語では、通常、（1b）で示すように動詞の後に“到～”のような要素を付加しなければならない。

（1）a. *昨天 两个　老外　　来了。
昨日　2CL　　外人さん　来る-PFV/MOD
（昨日 2 人の外人さんが来た）
b.　昨天 两个　老外　　来到　　剧院。
昨日　2CL　　外人さん　来る-着く　劇場
（昨日 2 人の外人さんが劇場に来た）

（1b）のような手段[①]以外には、動詞の後に更に数量表現を付加して、（2）のような構文にするという手段もある。

（2）a.　两个人　骑　　一辆　车。
2CL 人　乗る　1CL　　自転車
（二人で一台の自転車に乗る）

① “到～”をつけるという手段が用いられる理由については第 3 章で述べる。

b.　三个人 吃　　俩　盒饭。
3CL 人　食べる　2CL　弁当
（三人で二つの弁当を食べる）

（2a）、（2b）はそれぞれ「人」と「自転車」、「人」と「弁当」との量的対応関係を表し、分配文（“分配句”、沈家煊 1999）、或いは配給文（“供应句”、任鹰 2000）、数量対応構文（“数量对应句”、殷志平 2002）、容納文（“容纳句”、陆俭明 2004）と呼ばれるものである。これらの文は量的対応関係が際立っており、ペアとなる数量表現は、動詞を軸に交換できることが多く、（2a）は（3a）のように、（2b）は（3b）のように書き換えられる。

（3）a.　一辆　车　　骑　两个人。
1CL　自転車　乗る　2CL 人
（一台の自転車に二人が乗る）
b.　俩　盒饭　吃　　三个人。
2CL　弁当　食べる　3CL 人
（二つの弁当を三人で食べる）

本稿では、以上のような数量の対応関係に注目し、このような文を数量対応構文と呼ぶ。数量対応構文は、二つの事物が量的対応関係にあり、動作者、受動者の役割が背景化されており、位置の置換ができるため、語順、主題、主語、目的語の問題を議論する際にしばしば取り上げられる。次の（4）から（10）はいずれも先行研究において考察対象となっている文である。

（4）　十个人　吃　　两磅　肉。/两磅　肉　吃　十个人。
10CL 人　食べる　2 ポンド　肉　2 ポンド　肉　食べる　10CL 人
（10 人で肉 2 ポンドを食べる）
——赵元任 1978

（5）　四个人 坐　一条 板凳。/一条 板凳　坐 四个人。
4CL 人　坐る　1CL　ベンチ　1CL　ベンチ　坐る　4CL 人
（4 人で一つのベンチに座る）
——同上

（6）　十个人 吃　　一锅　饭。/一锅 饭　吃　十个人。
10CL　食べる　1CL　ご飯　1CL　ご飯　食べる　10CL 人
（10 人でご飯を 1 釜食べる）
——同上

（7）　四个人 住　一间房。/一间房 住　四个人。
4CL 人　住む　1CL 部屋　1CL 部屋　住む　4CL 人
（4 人で 1 部屋に宿泊する）

——沈家煊 1999

（8）　一张 纸　包　三本 书。三本 书　包 一张 纸。
1CL　紙　包む　3CL　本　3CL　本　包む　1CL　紙
（紙 1 枚で本を 3 冊包む）

——殷志平 2002

（9）　三个　大饼　夹　两根 油条。 /两根　油条　夹　三个 大饼。
3CL　ビン　挟む　2CL　揚げパン　2CL　揚げパン　挟む　3CL　ビン
（ビン三枚で揚げパンを 2 本挟む）

——同上

（10）　三个 童子军 睡　一张　床。/一张　床　睡　三个 童子军。
3CL　少年兵　寝る　1CL　ベッド　1CL　ベッド　寝る　3CL　少年兵
（少年兵 3 人で 1 台のベッドに寝る）

——李艳惠、陆丙甫 2002

（4）～（10）では、動詞の前の数量表現は名詞的であり且つ文頭に現れているため、文の主題若しくは主語に該当すると思われやすい。主題と主語の判定については、中国語学において長年議論されてきており、未だ定説はないと言える。しかし、石毓智 2000[②]の「主題は連体修飾構造に入りにくい」、湯廷池 1979bの「主題には“说到”、“至于”、“关于”のような標識を付けることができる」という観点に従えば、明らかに、数量対応構文における動詞の前の数量表現は主題ではないと考えられる。

② 石毓智 2000 によれば、“从句是句子的构成成分，它不受语境因素的制约，所以凡是能够进入从句的格式代表的都是汉语的基本结构（default structure）”（従属文は文の一部であり、文脈という要因から制約を受けない。そのため、従属文に入る構造は中国語の基本構造なのである）。また、“话题是篇章话语里的概念，只适用于独立应用的句子层面上，但是不能进入句子内部的成分－从句的层面上”（主題はテクストの概念であり、独立して用いられる文のレベルにのみ用いられ、文の内部成分——従属文には入らない）。この観点に従えば、従属文に入るものは主語とは限らないが、通常主題ではないと捉えられるため、従属文に入るかどうかというテストは主題を識別するのに有効であると考えられる。

（11）

主語		主題
小王　吃了　　两斤 面。 王君　食べる-PFV　2CL　麺 （王君は麺を一キロ食べた）	三个人　吃　　两斤 面。 3CL 人　食べる　2CL　麺 （三人で麺を一キロ食べる）	面 小王 吃了　　两斤。 麺　王君　食べる-PFV　2CL （麺は王くんは一キロ食べた）
小王 吃了　　两斤　面 的 王君　食べる-PFV　2CL　麺　SUB 时候 時 （王君は麺を一キロ食べた時）	三个人 吃　两斤 面　的 3CL 人　食べる　2CL　麺　SUB 时候 時 （三人で麺を一キロ食べる時）	??面 小王 吃了　　两斤 麺　王君　食べる-PFV　2CL 的　时候 SUB　時 （麺は王君は一キロ食べた時）
??说到　　小王　吃了 について言えば　王君　食べる-PFV 两斤 面。 2CL　麺 （??王君について言えば、麺を一キロ食べた）	??说到　　三个人　吃 について言えば 3 人　食べる 两斤 面。 2CL　麺 （??三人について言えば、麺を一キロ食べる）	说到　　面　小王 について言えば　麺　王君 吃了　　两斤。 食べる-PFV　2CL （麺について言えば、王君は一キロ食べた）

（11）が示すように、典型的な数量対応構文の“三个人吃两斤面”（三人で麺を一キロ食べる）は主語-述語構造をもつ“小王吃了两斤面”（王くんは麺を一キロ食べた）と同じように“时候”（時）の連体修飾語になる。また、前に“说到”（について言えば）のような主題標識を付けることができない。したがって、これらの例から動詞の前にある数量表現は主題の性質を欠いており、ある程度主語の特徴を持つということが伺える。実際、先行研究の多くはこのような数量表現を主語と看做している。例えば、李艳惠、陆丙甫 2002 は Number Phrase という概念を設け、数量表現を主語と捉えている。徐烈炯 1999、殷志平 2002、Yang(2003)なども同様に数量表現を主語として看做している。

しかし、数量表現を主語と捉えるこのような見方は十分に説得力を持つものとは思えない。本章はこのような捉え方の問題点を明らかにし、様々なデータに基づき、数量表現が連用修飾語的特徴を持つということを主張する。

2. 数量表現を主語と捉えることの問題点

数量表現を主語と看做す李艳惠、陆丙甫 2002 は、中国語の主語③は定（defenite）である

③ 杨成凱 2000 は马建忠 1898 の《文通》以来の、中国語学における主語に対するさまざまな考え方を整理し、二つに大別している。一つは動詞の前にある成分はいずれも主語であるという形式に基づく考え方で

と見なしているが、数量表現を定と解釈することには実際に無理がある。李・陸論文は、中国語の主語は定でなければならないという制約を受けるにもかかわらず、通常不定（indefenite）とされる数量表現がなぜ数量対応構文の主語になれるのかということを明らかにしようとしたものであり、この種の数量表現をNumber Phraseと看做し、一般名詞句のように個体を表すのではなく、数量のみを表すと定義している。Number Phraseが名詞的表現から除外されれば、「主語となる場合、定でなければならないという主語にかかる制約を受けなくなる。なぜなら、名詞的成分にのみ定か不定かの区別があるからである④」（徐烈炯 1999）。

しかし、中国語の主語は定であるため、Number Phrase が主語とされる場合、定表現と解釈せざるを得なくなる。これについては、李・陸論文は Number Phrase を次のように処理している。

（12）　李艳惠、陆丙甫 2002:

（前略）数目短语不表示具体个体的存在，只表示量的概念。换言之，数目短语不能解读成“存在着 X 个个体，这些个体……”。数量性表达中的量同表示个体的名词短语并不对应。根据解读，也许可以把数量性短语分析成专门表示“量”的结构，相当于“……的量”，例如“五个人”就是“五个人”的量。既然表示“确定的量”，这个解释可以理解为定指性的（后略）。（p330.）

（Number Phrase は具体物としての個体を表さず数量的概念のみを表す。言い換えれば、Number Phrase は「メンバーが X 個存在しており、これらのメンバーは～」という読みにはならない。数量を表す NP は個体を表す名詞句とは対応しないのである。場合によっては Number Phrase を、「～の量」に相当する、もっぱら量を表す構造と理解しても良いだろう。例えば“五个人”は“五个人”の量である。確定の量を表す以上、定であると理解できる）

しかし、「量」が確定であることを、Number Phrase が定であることに結びつけようとする李、陸論文のこのような解釈には、次のような問題がある。

まず、李、陸論文の定義を見ると、Number Phraseは一般名詞句と違って、もっぱら数量を表すものであり、個体性は持たず、指示性もない。定性は名詞的成分の指示性に関する概念であり、指示性のないNumber Phraseは当然定の特徴は帯びない。Lyons1977 と陈平 1987

あり、もう一つは文頭の成分と動詞との意味関係によって、時間詞、場所詞、前置詞句などの成分を主語から除外するような意味に基づく考え方である。形式のみに基づく考え方はシンプルではあるが、杨成凯 2000 も指摘しているように文頭にあるものを全部主語と定義することは、外国語として中国語を学習する際に理解しにくく、必ずしも実用的ではない。本論文は外国語としての中国語教育の立場から、文頭の成分を一概に主語とは見なさず、Li & Thompson(1976)、吕叔湘 1979、徐烈炯、刘丹青 1998 などと同様に、動詞との意味関係を中心に主語を捉える。本論文では、主語は典型的に、文頭に現れ、述語によって叙述される対象であり、しかも従属文に入る成分のことを指す。

④ “当数量词组用作主语时，不必受主语有定的限制，因为只有名词性成分才有有定无定的区别。”

によれば、定性は指示性の下位範疇であり、定であれば必ず指示的（referential）であるという。Number Phraseは、非指示的（nonreferential）と定義される以上、定と見なすことは不可能である⑤。

次に、個体の定性と量の確定とは同一レベルのものではない。陈平 1987 によると、定というのは、「話し手がある名詞的成分を使用する際、聞き手が指される対象と文脈にある特定のものとを同定でき、同一文脈にあるその他の実体と区別できると予測できる場合、その名詞的成分は定である」⑥と定義される。さらに、同論文は、「強調しておきたいのは、定と不定という二つの概念に関わる核心的な問題は、話し手にとって、聞き手が名詞的成分の指す事物を同一文脈における同類の事物から識別できるかどうかということである」と述べている⑦。このような観点からNumber Phraseについて考えてみると、Number Phraseの表す量は確定したものではあるが、その量によって事物を区分することはできない。「事物の量を数えるために用いる数量詞が一般に“的”を伴って名詞を修飾することができないという事実が示しているように（“*三本的书”）、数量は通常事物を区分限定するための基準にはなり得ない。事物を数え上げるという行為はそれ自体が事物の存在を認識し、主張するものであって、特定の事物の存在を前提にした上でそれに区分的限定を加え、その属性を規定するという性格のものではない。そのことは、“我的书”と“他的书”との対立が意味するところと“三本书”（本 3 冊）と“五本书”（本 5 冊）の対立が意味するところの違いを考えれば明らかであるし、また、“这是我的书，那是他的书。”に対して、“*这是三本书，那是五本书。”の不自然さを考えてみても明らかである。数量とは本来「その事物」自身が内包する属性ではあり得ず、したがって区分限定の基準にはなり得ないということである」（木村 2002a:12）。

また、Number Phrase という概念には形式上の明確な基準がない。次の（13）、（14）は李、陸論文から引用したものである。

（13）a. 张三　打了　　他　两个 钟头。
　　張三　殴る-PFV　3SG　2CL　時間
　　（張三は彼を二時間殴った）
　　b. 张三　打了　　那个人　两个　钟头。
　　張三　殴る-PFV　あの人　　2CL　　時間
　　（張三はあの人を二時間殴った）

---

⑤ 指示性の分類については、Stockwell et al（1973）（何元建 2000 の紹介による）、张伯江 1977 などのように Lyons（1977）と異なるものもある。しかし、いずれにせよ、定であれば必ず指示的であり、非指示的な Number Phrase を定と解釈することはできない。

⑥ “发话人使用某个名词性成分时，如果预料听话人能够将所指对象与语境中某个特定的事物等同起来，能够把它与同一语境中可能存在的其他同类实体区分开来，我们称该名词性成分为定指成分。”

⑦ “需要强调的是，定指与不定指这对概念涉及到的核心问题，是发话人对于受话人是否有能力将名词性成分的实际所指事物从语境中同类事物中间辨别出来。”

c. ?张三 打了　　几个人　两个 钟头。
　張三　殴る-PFV　数 CL 人　2CL　時間
　(?張三は数人を二時間殴った)
d.??张三　打了　　两三个人　两个 钟头。
　張三　殴る-PFV　二三 CL 人　2CL　時間
　(?張三は二、三人を二時間殴った)
e. *张三　打了　　三个人 两个　钟头。
　張三　殴る-PFV　3CL 人　2CL　時間
　(?張三は三人を二時間殴った)

同論文では、(13c)、(13d)、(13e) は通常不自然であるが、数量表現が Number Phrase と見なされる場合は、いずれも自然な文になると指摘されている。しかし、数量表現がどのような場合に Number Phrase として理解できるかという点については明示されていない。つまり、数量表現を Number Phrase と見なす基準が明確に示されていないのである。次の (14) における“三个人”も Number Phrase として解釈されているが、(14) における“三个人”は特定の時間・状況と関わり、個体性を持つため、Number Phrase の定義に合わない。

(14)　三个人　只　　交来　　一篇　文章，太　　少　　了。
　三 CL 人　ただ　提出する-来る　1CL　文章　過ぎる　少ない　MOD
　(3 人で 1 篇の文章しか提出しないとは、少なすぎだ)

このように、数量表現を Number Phrase と見なし、Number Phrase を主語と捉える見方には説得力が欠けている。Number Phrase は定とは解釈できないため、Number Phrase を主語と見なしてしまうと、「主語は定でなければならない」という規則に反するのである。

3. 数量表現の述語指向

本節では数量対応構文における動詞の前の数量表現が一定の「主語らしさ」を備えつつも、述部内要素の特徴が色濃く現われており、連用修飾語として理解されやすいことを示す[⑧]。3.1 では中国語の数量表現が連用修飾語と捉えられる可能性を提示し、3.2 では統語的、

---

⑧ 中国語は格表示がはっきりしない言語である。数量表現が主語なのかその他の文法成分なのかという問題を考えるには、日本語や朝鮮語のような膠着語における格表示が良いヒントとなる。日本語では、数量表現が動詞の前におかれる場合、しばしば連用修飾語として機能している。例えば次の (A) の「二人」、(B) の「三人」はいずれもデ格である。
(A) 二人で一緒におふろに入り、音楽を聞きながらゆっくりビールを飲み交わす、というのも「恋愛関係」続行に有効だという。――毎日新闻 1994 年 7 月 12 日
(B) いつも三人で一回練習してから本番に。――毎日新闻 1995 年 5 月 5 日
次の『中日対訳コーパス』の用例においても、数量対応構文と対応する日本語の訳文には、連用修飾を表わす格が用いられている。
(C) 一根圆木能换回几斗麦！已经有两根圆木从靠近对岸的地方飘走，(丸太なら一本で数斗の麦になる。

意味的な面から、数量表現を連用修飾語と見なすことの優位性を示す。

3.1 数量表現の連用修飾

数量対応構文の詳しい分析に入る前に、本節では体言（“体词”）としての数量表現が連用修飾語と捉えられる可能性を示す。

朱德熙 1985 も認めているように、時間詞、場所詞のような一部の体言性成分に連用修飾機能が認められるほか、数詞と動量詞の組み合わせによる数量句にも連用修飾機能が観察される（佐藤 2002:18）。例えば次の（15）における“一次”（一回）は連用修飾語である。

（15） 这 种 药 一天 吃 三次，一次 吃 两片。
この 種 薬 1CL 飲む 3CL 1CL 飲む 2CL
（この薬は一日三回、一回二錠飲む）

——佐藤 2002:18

刘宁生 1986 は代名詞の“自己”（自分）が動詞の前におかれて連用修飾語として機能することを指摘している。次の（16）から（18）における“自己”（自分）はいずれも方式を表し、連用修飾語として機能している（例文及び訳文は佐藤 2002:18 により引用）。

（16） 他 将 自己 去。
3SG となるだろう 自分 行く
（彼は自分で行くことになる）

（17） 他 能 自己 去。
3SG できる 自分 行く
（彼は自分で行くことができる）

（18） 他 在 家 里 自己 玩。
3SG で 家 中 自分 遊ぶ

すでに二本の丸太が対岸の岸近くから流されてしまい）——（対）插队的故事

（D）乡下人一顿吃八个包子，你吃三个，他也是一饱，你也是一饱。！（田舎の人は一食に包子八つ、貴方は三つで事足りる）——（対）活动变人形

（E）“我睡得香着哪。一天吃一斤六两，活得舒坦着哪！”（「ぐっすり眠れるし、一日に一斤半以上も飯を食って毎日快調だよ」）——（対）丹凤眼

（C）はデ格、（D）、（E）はニ格となっており、量的対応という意味では、いずれも主語をマークするガ格に置き換えることはできない。

朝鮮語でも同じような事実が観察されている。金岩 1996 によると、次の数量対応構文の（F）、（G）における“一斤”と“一公顷”はそれぞれ“에”と“에서”によってマークされ、主語ではなく、連用修飾語と見なすべきだということである。

（F）a.一斤五元钱。（500 グラムにつき五元）b. [한근에] 오원이다.

（G）a.一公顷产五千公斤。（1 ヘクタールにつき 5000 キログラムできる）
b. [한헥타르에서] 오천키로그람 난다.

——金岩 1996:33

（彼は家では自分で遊ぶ）

佐藤 2002 は、数量表現の“一次”（一回）や代名詞の“自己”（自分）よりも実詞（“实词”）性がより強い名詞句の“一个人”（一人）にも連用修飾機能があると指摘している。佐藤論文は刘宁生 1986 で挙げられている連用修飾の“自己”（自分）のほとんどは“一个人”（一人）に置き換えることができ、例えば（16）から（18）は、次のような置換操作を行っても文の意味は基本的に変わらないと説明している（例文及び訳文は佐藤 2002:18 により引用）。

（16’）　他　将　一个人 去。
3SG　となるだろう　1CL 人　行く
（彼は今回一人で行くことになる）
（17’）　他　能　一个人 去。
3SG　できる　一 CL 人　行く
（彼は一人で行くことができる）
（18’）　他　在 家 里 一个人　玩。
3SG　で　家　中　1CL 人　遊ぶ
（彼は家では一人で遊ぶ）

さらに、佐藤 2002 は現代中国語の小説における“一个人”（一人）の用例を対象に詳細で綿密な考察を行い、“一个人”（一人）のような数量表現の連用修飾機能について検証している。

以上の研究は、数量表現を連用修飾語と捉えることが十分に可能であるということを示している。

3.2 統語的、意味的な面から見る数量表現の文法的振る舞い

3.2.1　ポーズが挿入できる位置

文のどこにポーズが入れられるかというテストは、文法成分を判断する際に役に立ち、刘宁生 1986、佐藤 2002 もこのような方法を使っている。朱德熙 1985 が指摘するように、通常、主語の後にはポーズを置くことができる。（19）では、“小王”（王くん）の後にポーズを入れることができ、更に（20）のように連用修飾語の“急匆匆地”（急いで）を挿入することもできる。この場合、“小王”（王くん）は主語であり、“急匆匆地”（急いで）は後方指向で、動詞“走”（行く）を修飾し、述部の一部となる（「...」はポーズを表す、以下同）。

（19）　小王 . . . 走了。
王くん　　行く-PFV/MOD
（王くんは行った）
（20）　小王 . . . 急匆匆地　走了。
王くん　　急いで　　行く-PFV/MOD
（王くんは急いで行った）

これに対して、連用修飾語の後には通常ポーズが来にくい。（28）が示すように連用修飾語の“急匆匆地”（急いで）と述語の“走”（行く）の間にはポーズが入らない。

（21）　?小王　急匆匆地 . . . 走了。
王くん　急いで　　行く-PFV/MOD
（王くんは急いで行った）

朱德熙 1985 は、主語の後には、語気助詞、接続詞（“连词”）、反復疑問詞（“反复疑问词”）を挿入することができると指摘し、次の三つの基準で主語を連用修飾語と区別することを提案している[⑨]。

（22）a.　主語の後には“啊、呢、吧、么”などの語気助詞を挿入することができる。
b.　主語の後には“要是、如果、虽然、即使”などの接続詞を挿入し、複文の前項に変えることができる。
c.　主語の後には“是不是”を挿入し、反復疑問文に変えることができる。

そこで、以下では、“小王”（王くん）が主語となる“小王吃了两斤面。”（王くんは麺を一キロ食べた）と、“马上”（すぐに）が連用修飾語となる“马上吃了两斤面。”（すぐに麺を一キロ食べた）という二つの文を比較することによって、“三个人吃两斤面”（三人で麺を一キロ食べる）における“三个人”（三人）の文法的性質を考える。

⑨ この三つの基準は、朱德熙 1985 では主述構造と偏中構造を区別するのに用いられているが、主語と連用修飾語を区別する基準とも見なせる。

（23）

主語		連用修飾語
小王 吃了　　两斤　面。 王君　食べる-PFV　2CL　麺 （王くんは麺を一キロ食べた）	三个人 吃　两斤　面。 3CL 人　食べる 2CL　麺 （三人で麺を一キロ食べる）	马上　吃了　　两斤 面。 すぐに 食べる-PFV　2CL　麺 （すぐに一キロの麺を食べた）
小王 么　吃了 王君　MOD　食べる-PFV 两斤 面。 2CL　麺 （王くんはね、麺を一キロ食べた）	?三个人 么　吃　　两斤 3CL 人　MOD 食べる　2CL 面。 麺 （三人でね、麺を一キロ食べる）	?马上 么　吃了　　两斤 すぐに MOD 食べる-PFV　2CL 面， 麺 （すぐにはね、麺を一キロ食べた）
小王 不但　　吃了 王君 だけではなく 食べる-PFV 两斤　面， 2CL　麺 （王くんは麺を一キロ食べただけではなく）	?三个人 不但　　吃 3 人　だけではなく 食べる 两斤 面， 2CL　麺 (?三人で麺を一キロ食べるだけではなく）	?马上　不但 すぐに　だけではなく 吃了　　两斤　面， 食べる-PFV　2CL　麺 （すぐに麺を一キロ食べただけではなく）
?不但　　小王 吃了 だけではなく 王君　食べる-PFV 两斤 面， 2CL　麺 （王くんは麺を一キロ食べただけではなく）	不但　　三个人　吃 だけではなく 3 人　食べる 两斤　面， 2CL　麺 （三人で麺を一キロ食べるだけではなく）	不但　　马上　吃了 だけではなく すぐに 食べる-PFV 两斤　面， 2CL　麺 （すぐに一キロの麺を食べただけではなく）
小王　是不是 王君　であるか否か 吃了　　两斤　面? 食べる-PFV　2CL　麺 （王くんは麺を一キロ食べたか）	?三个人　是不是 3 人　であるか否か 吃　两斤 面? 食べる 2CL　麺 （三人で麺を一キロ食べたか）	?马上　是不是 すぐに　であるか否か 吃了　　两斤　面? 食べる-PFV　2CL　麺 （すぐに麺を一キロ食べたか）

（23）から分かるように、典型的な数量対応構文においては、動詞の前にある数量表現は通常、語気助詞、接続詞、“是不是”を後続させることができず、連用修飾語的な特徴を示している。

さらに、朱德熙 1985 が挙げている上記の三種類の成分に加えて、副詞、助動詞などの副詞的成分の挿入位置も文法成分の性質を反映すると考えられる。

（24） 我们中文系学生，一般七人住一房间。和留学生同住，四人一房间。除了我、小莫、申・沃克而外，还有一位黑人留学生。
（私たち中国語学部の学生は、普通七人で一部屋に住んでいる。私は留学生と相部屋で四人で一部屋。私、莫くん、シン・ワークくんのほかに、ある黒人さんの留学生も一緒だ）

――梁晓声《我的大学》

（25） 他更瘦了些，可是身量又高出半寸来，他的脸晒得乌黑，可是腮上有棱有角的显出结实硬棒。没法子和乡下青年打篮球，他学会和他们摔跤，举石墩。摸着自己的筋肉，他觉得他能一枪把儿打碎两个敌人的头颅。
（彼はもっと痩せてきたが、身長は 1.6 センチぐらい伸びた。顔は黒く焼けていて、彫りが深くて丈夫に見える。田舎の若者とバスケットボールはできないが、彼らとモンゴル相撲をしたり大きな石を持ち上げたりするようになった。自分の筋肉を触って、彼は、自分は銃把を振り回せば同時に二人の敵の頭を打ち砕けると思った）

――老舍《四世同堂》

（24）の“一般”（一般的に）と（25）の“能”は数量表現の前に現れていることから、直後の“七人”（七人）と“一枪把儿”（銃把を一回振り回す）は述語の中に入っていると見なせる。“能”については、刘宁生 1986 が“只用在谓词性结构之前充当修饰语”（修飾語として述語性構造の前に用いられるだけである）と指摘しており、これに従えば、“能”の後ろにある“一枪把” （銃把を一回振り回す）は述語内部の成分であり、“他能一枪把打碎两个敌人的头颅”（彼は銃把を振り回せば同時に二人の敵の頭を打ち砕ける）という単文の連用修飾語となる。

無論、一部の数量対応構文においては、数量表現の後に副詞的成分が現れることがある。例えば次のような場合である。

（26） 一人 只 吃 一个 包子。
1CL ただ 食べる 1CL 饅頭
（1 人で饅頭を 1 個しか食べない）

（27） 三个人 可以 吃 两斤 面。
3CL 人 できる 食べる 2CL 麺
（3 人で麺を 1 キロ食べられる）

（26）の“只”と（27）の“可以”はいずれも数量表現の後に用いられているため、その前の数量表現がある程度主語の特徴を備えていることが伺える。しかしながら、この種の使い方は、実際のデータではそれほど多く見られない。そして、典型的な数量対応構文、特に動詞が省かれる凝縮された数量対応構文においては、副詞的成分の現れる位置は通常数量表現の前となる。

（28）a.　这些　烂　梨 两块五　一斤。
これら　腐る　梨　2.5 元　1CL
（これらの安っぽい梨は 500 グラムで二元五角だ）

b.　这些　烂　梨 居然 两块五 一斤。
これら　腐る　梨　何と　2.5 元　1CL
（これらの安っぽい梨が 500 グラムで二元五角するなんて）

c.??这些　烂　梨 两块五 居然 一斤。
これら　腐る　梨　2.5 元　何と　1CL

（29）a.　在短短的几天之内，双水村的第一生产队就化成了十几个责任组。一般一个组四五户人家。都是自愿结合在一起的，大都是父子或亲近的门中人在一块。
（短い数日間で、双水村の第一生産隊は十いくつの生産責任組に変わった。普通は一組四五世帯。みな自らくっついたもので、大概親子か親戚の人たちが一緒になっている）

——路遥《平凡的世界》

b. ?在短短的几天之内，双水村的第一生产队就化成了十几个责任组。一个组一般四五户人家。……

（28）において、“居然”（意外にも）は“两块五”（二元五角）の前に置くことができるが、“两块五”（二元五角）と“一斤”（500 グラム）の間に挿入することはできない。（39a）は小説から取ったデータであるが、副詞の“一般”（一般的に）を“一个组”（一組）と“四五户人家”（四五世帯）の間に移動させた（39b）は容認度が下がる。このように、典型な数量対応構文ほど、数量表現は連用修飾語になりやすいのである。

以上、本節ではポーズの現れ得る場所や、語気助詞、接続詞、反復疑問詞、副詞的成分の挿入位置に注目し、形式的に数量表現の文法的性質を観察した。各成分の挿入可否状況は次の表 1 にまとめた。〇は挿入可、×は挿入不可、△は部分的に挿入可を表す。

表１　各成分の挿入位置及び挿入可否状況

位置＼成分	語気助詞	接続詞	是不是	副詞的成分
典型的な主語の直後	○	○	○	○
数量表現の後、動詞の前	×	×	×	△
典型的な連用修飾語の後	×	×	×	×

表１から分かるように、数量表現は主語よりも連用修飾語の特徴をより多く備えている⑩。

3.2.2　数量表現の述語指向性

本節は述語指向という面から数量表現を述語内部要素と解釈することの優位性を示す。周知のように、典型的な主語は文頭に現われ、述語によって叙述される対象である。また、典型的な連用修飾語は動作行為を限定し修飾するためのものである。典型的な主語−述語構造をもつ“小王吃两斤面。”（王くんは麺を一キロ食べる）について言えば、次の（30）のように質問することができる。

（30）　谁　吃　两斤　面?　　--- 小王　吃　两斤　面。
　　誰　食べる　2CL　麺　　王くん　食べる　2CL　麺
　　（誰が麺を１キロ食べる？）　　（王くんが麺を１キロ食べる）

しかし、典型的な数量対応構文である“三个人吃两斤面。”（三人で麺を一キロ食べる）という答えを引き出す場合は、同じ尋ね方は成立しないだろう。

（31）　谁　吃　两斤　面?　　--- ?三个人　吃　两斤　面。
　　誰　食べる　2CL　麺　　3CL 人　食べる　2CL　麺
　　（誰が麺を１キロ食べる？）　　（?3 人で麺を一キロ食べる）

これに対し、“蘸着酱油”（醤油をつけて）が連用修飾語となっている“蘸着酱油吃。”（醤油をつけて食べる）という答えを引き出す際は、（32）のように方式を聞くのが一般的であるが、同じような遣り取りは数量対応構文の（33）にも通用する。

（32）　怎么　吃?　　--- 蘸着　酱油　吃。
　　どう　食べる　　付ける-DUR　醤油　食べる

⑩ 同じ数量表現でも、(2) の“两个人”（二人）、“三个人”（三人）ように項（argument）として現れる場合もあれば、注⑧における（D）の“一顿”（一食）、(E) の“一天”（一日）のように非項として用いられる場合もある。項として現われる場合と比べれば、非項として用いられる数量表現のほうがより連用修飾語的性格を備えていると見なせる。

（どうやって食べる？）　　（醤油をつけて食べる）

（33）（賞味期限ギリギリの 3 キロの麺を 9 人で食べなければならない状況において）

怎么　吃?　　--- 三个人　吃　　两斤（面）。

どう　食べる　　3CL 人　食べる　2CL　麺

（どうやって食べる？）　　（3 人で（麺を）1 キロ食べる）

したがって、数量対応構文における“三个人”（三人）は意味的には叙述の対象ではなく、むしろ後ろの動詞の“吃”（食べる）と共に述語の構成要素になっていると考えられる。この点については、再帰代名詞、代名詞と呼応できないということからも確認できる。湯廷池 1979a、柴谷 1985 によれば、文法機能から見れば、典型的な主語は再帰代名詞や代名詞と呼応させることができるという。次の例を比較されたい。

（34）a.　小王　吃了　　两斤　面。

王くん　食べる-PFV　2CL　麺

（王くんは麺を一キロ食べた）

b.　小王　<u>自己</u>　吃了　　两斤　面。

王くん　自分　食べる-PFV　2CL　麺

（王くんは自分で麺を一キロ食べた）

（35）a.　三个人　吃　　两斤　面。

3CL 人　食べる　2CL　麺

（三人で麺を一キロ食べる）

b.??三个人　<u>自己</u>　吃　　两斤　面。

王くん　自分　食べる　2CL　麺

（?三人で自分で麺を 1 キロ食べる）

典型的な主述文の（34）では、“自己”（自分）を“小王”（王くん）に後続させることができるが、数量対応構文の（35）の場合は“自己”（自分）と“三个人”（三人）を呼応させることは不可能である。また、以下の例が示すように、代名詞の場合も同様である。

（36）a.　小王　夫妇 赡养 四个 老人。

王くん　夫婦　扶養　4CL　親

（王くん夫婦は四人の親を扶養している）

b.　小王　夫妇 赡养 <u>他们 的</u>　四个 老人。

王くん　夫婦　扶養　3PL　GEN　4CL　親

（王くん夫婦は彼らの 4 人の親を扶養している）

（37）a.　一对 夫妻 赡养 四个 老人。
1 組　夫婦　扶養　4CL　親
（夫婦二人で親を四人扶養する）
b. ?一对 夫妻 赡养 他们 的 四个 老人。
1 組　夫婦　扶養　3PL　GEN　4 人　親
（?夫婦二人で彼らの親を 4 人扶養する）

典型的な主述文の（36）において、代名詞の“他们”（彼ら）は“小王夫妇”（王くん夫婦）と呼応しているが、数量対応構文の(37)では、“他们”（彼ら）は不特定の“一对夫妻”とは呼応できない。

つまり、数量対応構文における数量表現は典型的な主語とは違い、再帰代名詞や代名詞で指すことは不可能である。そして、これは、数量表現が真の主語ではないことを意味する。

では、数量対応構文の真の主語は何であろうか。

通常、数量表現の前には、論理上の主語を補うことができる。この点については、周辺性（“周遍性”）成分構文が示唆的である。

陆丙甫 2003 は周辺性成分に連用修飾語的な特徴があることを指摘し、ほとんどすべての周辺性成分文は、文頭に主語を加えることができると捉えている。例えば（38）の文頭には、“他们”（彼ら）のような論理上の主語を補うことができる。

（38）　他们　谁　/个个 /一个人/连　张三 都　不 知道 这　件　事。
3PL　誰　CL CL　1CL 人　さえ　張三　も　NEG 知る　この　CL　こと
（彼らは、誰も/みな/一人も/張三さんでさえ　この事を知らない）

——陆丙甫 2003:89

杉村 2003 も次の（39）、（40）を挙げ、“谁”（誰）、“什么”（何）を述語内部の要素と理解することの合理性を指摘している。

（39）　我们　谁 也　不　说　一句 话，默默地　吃　饭。
1SG　誰　も　NEG　言う　1CL　話　黙々と　食べる　ご飯
（私たちは誰も一言も言わず、黙々と食べている）

——杉村 2003:58

（40）　我　除了 不　敢　走　夜路，别的　什么 也　不　怕。
1SG　除く　NEG　できる　歩く　夜道　他の　何　も　NEG　恐れる
（私は夜道を歩けないことを除いては、ほかに何も怖いものはない）

——同上

数量対応構文における数量表現は周辺性成分と似た特徴を持ち、次の例のように、通常、前に論理上の主語を補うことができる。

（41）　我们 三个人　吃　　两斤　面。
1PL　3CL 人　　食べる　2CL　　麺
（私たちは 3 人で麺を 1 キロ食べる）

（42）　这　群　孩子 两个人　　骑　一辆　车。
この CL　子供　　2CL 人　　乗る　1CL　　自転車
（この子供たちは 2 人で自転車一台乗る）

（41）の主語は“三个人”（三人）ではなく、文脈にある“我们”（私たち）のような成分である。（42）も同様に、論理上の主語は文脈に隠れている“这群孩子”（この子供たち）であると考えられる。

また、実際のデータに現われる数量対応構文を見ると、通常論理上の主語を見つけることができる。

（43）　这天，江风从地区开会回来，吃饭时组三个组员布置：一人写一篇“欢呼镇压天安门广场反革命事件”的文章，说要贴在公路边的黑板报上。
（この日、江風は地区の会議から帰ってきて、食事の時三人の平社員に仕事を割り当てた。『歓呼の声を上げ天安門広場反革命事件を鎮圧』の文章を一人一篇書き、大通りの道端にある黒板の壁新聞に貼るように言った）
——路遥《夏》

（44）　他们几个被包工头引到南关一个半山坡上的主家，一人吃了两碗没菜的干米饭。另外的三个人就在旁边的一个敞口子窑里住下了。
（彼ら数人は親方に南関の山腹にある主人の家まで連れて行かれ、おかずのないご飯を一人二杯食べた。残りの三人は隣にある扉のない洞窟式住居に宿泊した）
——路遥《平凡的世界》

（45）　他们默默无语地相跟成一串来到食堂。一人发一只大老碗。一碗烩菜，三个馒头。
（彼らは黙々と一列になり次々と食堂まで来た。古い丼一人一個、炊き込み料理一碗、マントウ三個が配られた）
——同上

（46）　我带领十四个人进了那屋，俩人收拾一个：一个用麻袋套脑袋，捎带着用麻袋上剩余的部分堵嘴；一个就用那鍬把狠揍二十下……整个过程都以我事先约定好的手势来进行，我让停止一定要停止……
（私は十四人連れて部屋に入り、二人で一人をやっつけた。一人は麻袋を頭に被せ、

ついでに麻袋の残った部分で口を塞ぐ。もう一人はスコップで思い切り二十何回叩きつける。すべての過程は事前に約束してあった私の手の合図で行われ、やめると言ったら必ずやめてくれた）

——刘心武《栖凤楼》

上記の（43）から（46）において、二重下線で示したところには、いずれも論理上の主語が含まれている。つまり、数量対応構文は典型的には数量表現の前に主語があり、その主語は文脈に現れているか、若しくは、隠れていても補うことができるものである。

4　おわりに

本章では、形式と意味の両面から、数量対応構文における動詞の前の数量表現を考察し、連用修飾語と看做すことの優位性を示した。

本章の考察対象である数量対応構文は、形式上アスペクト助詞“了”を伴わない典型的な非事件文である。この構文では、数量表現はイントネーション上、後ろの動詞や動詞の後の部分と一体となり、構文全体が意味を担う一つの文法形式となっている。また、数量表現は再帰代名詞や代名詞と呼応することができず、叙述の対象になりにくい。数量対応構文のもつこのような特徴は、第 1 章で論じた数量詞並列構文に見られる特徴とともに、数量表現が非典型的な主語／主題として機能することを示すものである。

本論（下）

第２部　数量表現前置構文の機能

第 3 章　不定名詞主語文の場面描写機能

第 4 章　時間量表現前置構文の描写的特徴

第 5 章　広義の線的概念が文頭に来る場合

——数量表現の範囲を超えて——

第 6 章　2 種類の数量表現前置構文

——点的事象と線的事象——

第 3 章　不定名詞主語文の場面描写機能

1. はじめに
2. 中国語の無テンス性と述語の受ける制約
3. 述語の描写的性格
　3.1. 非事態文の描写的述語
　3.2. 事態文に見られる動きの局面
4. 不定名詞主語にも必要とされる描写性
5. 構文の場面描写性機能
6. まとめ

1.　はじめに

本稿は、第 1 部第 1 章において日中対照という観点から中国語数量表現の指示・代用機能が弱いということを明らかにし、第 2 章では非事態文の典型である数量対応構文を取り上げ、このような非事態文の数量表現は主語ではなく、述語の一部として機能する連用修飾語と見なすことがより適切であるということを述べてきた。第 1 部では数量表現の主語性（subjecthood）が弱いことに注目してきたのに対して、第 2 部からは構文機能に重点を置き、いくつかの有標な数量表現前置構文について検討する。

本章は不定名詞（indefinite noun）主語文を中心に、事態文における数量表現の主語の問題について考察する。事態文においては、“一个人”（一人の人）のような数量表現は具体的な時空間内に存在しており、個体性が比較的強くなる。

（1）　两个人　抬　一张 书桌。
　　2CL 人　運ぶ　1CL　机
　　（二人で一つの机を運ぶ）
（2）　昨天，两个 留学生　来到了　　我们　班。
　　昨日　2CL　留学生　来る-着く-PFV　1PL　クラス
　　（昨日、2 人の留学生が我々のクラスに来た）

数量対応構文（1）においては、人と机の量的対応関係、つまり 2:1 という比率が最も重要な伝達情報であり、人の様態などには特に関心が払われていない。そのため、“大鼻子”（大きな鼻）のような表現を加えて行為者の様態が描写された次の（1’）は不自然に感じられる。これに対して、不定名詞主語文（2）においては、主語の“两个留学生”（二人の留学生）は具体的な時空間内に存在するため、次の（2’）のように様態を伴った形がより具体性を持つのに対し、具体性の乏しい“两个人”（二人の人）のような形式を用いた（2”）は

不自然となる。

（1’）　?两个　大　鼻子 留学生 抬　一张 书桌。
2CL　大きい　鼻　留学生　運ぶ　1CL　机
（??2 人の大きな鼻の留学生で一つの机を運ぶ）
（2’）　昨天，两个　大　鼻子 留学生 来到了　　我们　班。
昨日　2CL　大きい　鼻　留学生　来る-着く-PFV　1PL　クラス
（昨日、2 人の大きな鼻の留学生が我々のクラスに来た）
（2”）　?昨天，两个人 来到了　　我们　班。
昨日　2CL 人　来る-着く-PFV　1PL　クラス
（昨日、2 人の人が我々のクラスに来た）

また、不定名詞主語文の述語については、通常の主語文より制約を受けやすいという特徴がある。“约翰和汤姆”（ジョンとトム）が主語となる（3a）は（3b）のように“到我们班”（我々のクラスに）を省くことができるのに対して、不定名詞主語文の（4a）はそれを省略することはできず、（4b）のように言うことはできない。

（3）a.　昨天，约翰 和 汤姆 来到了　　我们 班。
昨日　ジョン と　トム　来る-着く-PFV　1PL　クラス
（昨日、ジョンとトムが我々のクラスに来た）
b.　昨天，约翰 和 汤姆　来了。
昨日　ジョン と　トム　来る-PFV/MOD
（昨日、ジョンとトムが来た）
（4）a.　昨天，两个留学生来到了我们班。（=（2））
b. ??昨天，两个 留学生　来了。
昨日　2CL　留学生　来る-PFV/MOD
（昨日、二人の留学生が来た）

中国語学では、不定名詞は通常主語にならないというのが一般的な見方であったが、范继淹 1985 は、不定名詞主語文が実際には大量に存在していることを報告し、新聞に見受けられる（5）、（6）のような実例を紹介している。

（5）　一个 星期日，两位　外宾　　来到　　这　家　餐厅……
ある　日曜日　2CL　外国人の客　来る-着く　この　CL　レストラン
（ある日曜日、2 人の外国人のお客さんがこのレストランに来た）
——范继淹 1985:324

（6）　除夕　的 前一天 晚上，湘　西 山区 雪 雨 交加，　一辆 吉普车　翻
大晦日 SUB 前日　夜　湖南省 西　山地　雪　雨　同時にやってくる 1CL　ジープ　ひっくり返る
到　河 里。
-着く　川　中
（大晦日の前夜、湖南省の西の山地では雪と雨が激しく降り、一台のジープが川の中に転落した）

——范继淹 1985:323

論文は更に、これらの不定名詞主語文の成立条件として、不定名詞主語文は複雑な述語構造を持たなければならないということを指摘している。しかし、なぜそのような条件が必要なのかという点については分析を行っていない。

唐翠菊 2005:9-16 は述語の特徴に目を向け、不定名詞主語文は他動性の高い構文であると主張している。しかし、他動性という視点では、（4b）が許容されないのにも関わらず、“到我们班”（我々のクラスに）を伴った同じ自動詞の（4a）が自然な文になることをうまく説明できない。

黄师哲 2004 は中国語と英語との違いに着目し、中国語は文法的にテンス形式を持たない言語であるため、事態文としての不定名詞主語文の述語は、時間、場所、様態などの連用修飾語による制約を受けなければならないと指摘している。例えば、（7）のような不定名詞主語文は“昨天”（昨日）のような時間詞を伴うことが多く、こうしたケースでは“昨天”は通常省略されないという。张伯江 2007 も、不定名詞主語文は“靠时间关系定位”（時間関係によって位置づけられる）と述べている。

（7）　昨天，两个留学生来到了我们班。（=（2）=（4a））

不定名詞主語文の成立要因を中国語の無テンス性に求めるという新たな視点は近年注目を集めている（木村 2002:298-299、井上 2003:97 など）[①]。本章では、黄論文の分析を紹介し、それに基づいて考察を進め、不定名詞主語文の構文的特徴を明らかにしたうえで、同構文の成立条件を探ってみたい。

---

① 不定名詞主語文の成立要因をめぐって、さまざまな研究がなされている（詳細は邓思颖 2003、魏红、储泽祥 2007 参照）が、比較的影響の大きいものとして、この他に Xu（1997）を挙げることができる。Xu（1997）は、Grice（1975）の協調の原理の一つである「量の公理」を用い、“??一个人来了。”（一人が来た）のような文が言えないのは伝達する情報の量が少なすぎるからだと述べている。しかし、主語の“一个人”（一人）を“一个留学生”（一人の留学生）、“一个大鼻子留学生”（一人の大きな鼻の留学生）のように変え、情報を増やした形にしても、述語が変わらない限り成立しにくく、また、実際のデータからもそのような実例は見当たらない。

??一个留学生来了。（一人の留学生が来た）

?一个大鼻子留学生来了。（一人の大きな鼻の留学生が来た）

2.　中国語の無テンス性と述語の受ける制約

黄师哲 2004:101 によれば、現実世界の事態（event）を述べる事態文では、当該事態に関与する項（event argument）が現実の時空間内に存在する具体物でなければならず、その反映として、事態に関与するすべての項は言語上何らかのかたちで時空間的な制約を受ける。時空間的な制約を受けない項は純粋概念的なものに過ぎず、現実世界の事実的なことを表すことができない。黄論文は、「述語は「事態項」を導入することができ、例えば、自動詞は主語の位置に現れる項と事態項の二つの項を持ち、他動詞は主語、目的語、事態項の三つの項を持つ。事態項は変項であるため、直接時空間的な制約を受け得る」という Davidson（1966）の捉え方（黄师哲 2004:101 の紹介による）に従い、英語はテンス形式によって述語に具体的な時間性（過去・現在・未来）を付与し、事態項に対して制約的機能を果たしていると見なしている。

（8）a.　She left.
　　b.　She is leaving.
　　c.　She will leave.

（8）では、‘left’、‘is leaving’、‘will leave’のテンス形式はそれぞれ事態項に過去、現在、未来という時間性を与え、現実世界の事態と関係付けているが、中国語にはこのような文法形式としてのテンスがないため、事態項を制約する手段として時間、場所、様態などの連用修飾語を用いなければならないという。例えば次の（9）において、“这时”（この時）、“飞快地”（素早く）などの連用修飾語を伴う動詞句はいずれも時空間の中の具体的な事態を表す。

（9）a.　这　时，一只　小　松鼠　蹿了过去。
　　その　時　1CL　小さい　リス　跳ぶ-PFV-通る-行く
　　（その時、一匹のリスが跳んで行った）
　　b.　一只　小　松鼠　飞快地　蹿了过去。
　　1CL　小さい　リス　飛ぶように速く　跳ぶ-PFV-通る-行く
　　（一匹のリスがぴょんぴょんと跳んで行った）

コミュニケーションが具体性を伴う言語行動であることから見れば、中国語の無テンス性に着目している黄論文は、大河内 1967b:104-105 が提唱した「素表現」という観点や Xu（1997）の「文には十分な情報量を持たせなければならない」という観点と合致しており、言語の本質的なところを突いた説得力を持つ見解である。しかし、黄論文は動詞の前におかれる時間、場所、様態表現などの連用修飾語には目を向けているものの、動詞の後ろの

補語等は視野に入れていない。実際、補語等は事態項を制約するのに重要な機能を果たすようである。

（10）　几天 前 一个 老外　　来到了　　我们 办公室。
数日　前　1CL　外人さん　来る-着く-PFV　1PL　事務室
（先日一人の外人さんが我々の事務室に来た）

（11）　“不好。” 一个 女人 影子 走过来。
まずい　1CL　女　影　歩く-過る-来る
（「まずいな」と、一人の女の影がやってきた）

——王朔《玩的就是心跳》

上記の（10）、（11）の下線部の補語的成分はいずれも省略できない要素である。そして、次の（12）に示すように、補語は連用修飾語よりも省略しにくいように思われる。時間、様態を表す連用修飾語を伴わない（12a）、（12b）は容認されるのに対して、補語を省いた（12c）、（12d）は不自然である[②]。

（12）a.　____，一个 小孩 哇哇　　哭了起来。
1CL　子供　わあわあ　泣く-PFV-始める
（一人の子供がわあわあ泣き出した）

b.　一个小孩____哭了起来。
1CL　子供　泣く-PFV-始める
（一人の子供が泣き出した）

c. ?这 时，一个小孩 哇哇　　哭了____[③]。
その 時　1CL 子供　わあわあ　泣く-PFV/MOD
（その時、一人の子供がわあわあ泣いた）

---

② 次の例で分かるように、補語を伴わない“?两个留学生来了”（二人の留学生が来た）のような不定名詞主語文は時間、場所、様態表現などの連用修飾語をつけても不自然である。
??昨天下午，两个留学生来了。（昨日の午後、二人の留学生が来た）
??广场上，两个留学生来了。（広場には、二人の留学生が来た）
??两个留学生急匆匆地来了。（二人の留学生が急いで来た）
なお、本章では、補語のような動詞の後の成分が動詞の前の成分より省略しにくいという事実を指摘したが、二者の具体的な関係などについては、紙幅の関係上これ以上深入りしない。

③ 次の例に示すように、（12c）、（12d）のような不定名詞を定名詞等にした場合は成立する。
a. 可是，一看见她得意的样子，我就不想磕了，反而刮了刮自己的脸皮，说她不知羞。她哇的一声哭了。
（しかし、姉の得意気な顔を見たとたん、叩頭するのがいやになり、アカンベーをして、バカと言ってやった。姉はわっと泣きだした）——（対）ああ、人間よ
b. 百岁吓一跳，立刻哭了。（百歳はびっくりして、ワッと泣きだした）——（対）輝ける道
c. 许宁噗哧一声笑了。母亲吓了一跳。
（不意に、彼女がフフフと笑って言った。「解放直後のことを思い出したわ」）——（対）ああ、人間よ
d. 爷爷怔怔地看着这个魔物，突然凄凉地笑了。
（その化け物を茫然と眺めながら、祖父はいきなり悲しげに笑いだした）——（対）赤い高粱

d. ?一个 小孩　哇哇　　哭了。
　1CL　子供　わあわあ　泣く-PFV/MOD
（一人の子供がわあわあ泣いた）

また、（13）が“半天”（半日、長い時間）を必要とすることからも分かるように、数量補語も文を成立させるのに重要な役割を果たしているが、黄論文は数量補語の機能についても特に触れていない[④]。

（13）a. *在 走廊上，　一个 女孩　笑了。
　で　廊下-方位詞　1CL　女の子　笑う- PFV/MOD
（廊下で、一人の女の子が笑った）
b. 在 走廊上，　一个 女孩　笑了半天。
　で　廊下-方位詞　1CL　女の子　笑う-PFV-半日
（廊下で、一人の女の子がずっと笑っていた）

このように、不定名詞主語文が複雑な述語構造を持たなければならないことの理由については、黄論文の解釈も不十分であり、新たな議論を加えざるを得ない。本論文は、不定名詞主語文が成立するには、場面内容の描写機能を果たさなければならず、述語構造が複雑になるのは、場面内容の描写を表す要素を伴わなければならないためだと考える。以下、3 節では述語が描写的特徴をもつことを示し、4 節では主語も描写性要素を伴うことを述べ、不定名詞主語文が一定以上の具体性を持つことを確認する。5 節ではこのような具体性が要求されるのは、同構文が状況描写的な機能を果たすためであると主張する。

3.　述語の描写的性格

本節では不定名詞主語文の述語の特徴について考察し、非事態文においても事態文においても述語は描写的特徴を備えているということを示す。以下それぞれについて見ていく。

3.1.　非事態文の描写的述語

非事態文の述語は状態的な特徴を示している。范继淹 1985:324 によると、不定名詞主語

---

④（13b）が成立するのは、数量補語が事態項に制約を与えているからであろうか。数量という範疇は連続的な概念であり、離散的な特徴を欠いている（木村 2003）。事態とは現実世界における特定の時空間内に起きる境界線のある事象のことを指し、通常人々に点的に認識される。この点的な事象を位置づけるのには、時点、地点、人、ものなど離散的な関与項が相応しく、量という非離散的な概念はそれには相応しくない。“三个小时”（三時間）と“五个小时”（五時間）の差は質量的な連続体における多寡の差であって離散的な項目の位置づけにはそぐわない。したがって、数量補語の付加によって上記の（13）が成立するようになるのは、数量表現が事態項を制約するのに十分機能しているからではなく、ほかの要因があると考えざるを得ない。

文の述語はみな動詞であり、形容詞述語文は見当たらないという⑤。確かに、典型的な形容詞述語文の不定名詞主語文は見つからないが、次のような静態的な述語を含む用例は少なからず存在する⑥。

（14） 此后 不久 我 到 东单 一家 工艺品 店 买 镇尺，一位 女 售货员 同样 年轻
その後 間もなく 1SG 行く 東単 1CL 工芸品 店 買う 文鎮 1CL 女 店員 同様 若い
貌美、衣着 入时，大概 因为 顾客 不 多，她 坐 在 那儿 看 书。
綺麗 身なり モダン 恐らく なので 顧客 NEG 多い 3SG 坐る に そこ 読む 本
（その後間もなく東単にある工芸品の店へ文鎮を買いに行った。客が少ないからか、一人の（同じく）若くて綺麗でお洒落な女店員が座って本を読んでいた）
——陈建功《消费六记》

（15） 一台 双开门 大 冰箱 一尘不染，装饰着 桃花 台布。
1CL 左右開きのドア 大きい 冷蔵庫 塵一つもない 飾る-DUR 桃の花 テーブルクロス
（左右開きのドアの冷蔵庫が置かれていて、塵一つもなく、桃の花の模様のテーブル・クロスが飾りとしてかけてある）
——池莉《城市包装》

（14）の“年轻貌美、衣着入时”（若くて綺麗でお洒落）は店員に対する静態的な描写である。（15）の“一尘不染，装饰着桃花台布”（塵一つもなく、桃の花の模様のテーブル・クロスが飾りとしてかけてある）も形容詞的な機能を果たし、冷蔵庫の清潔さを描いている。また、次の（16）、（17）における“挂着”（掛けてある）、“垂着”（ぶら下がっている）は動作・変化のもたらす結果が持続した状態にあることを表し、描写性のある述語構造を形成している。

（16） 阴森森的 古柏 中 飘游着 紫蒙蒙的 雾气，一株 古柏 的
薄暗い 古いコノテガシワ 中 漂う-DUR 紫がかった 霧 1CL 古いコノテガシワ SUB
树干 赫然 挂着 一面 暗红色 的 锦旗。
木の幹 いきなり かかる-DUR 1CL くすんだ赤 SUB 錦の旗
（薄暗い古いコノテガシワの中を紫がかった霧が漂っている。一本の古いコノテガ

⑤ 范继淹 1985 が指摘した不定名詞主語文の文法的特徴は次の通りである。
a. 谓语都是动词，没有发现形容词谓语句。
（述語はみな動詞であり、形容詞述語文は見当たらない）
b. 不及物动词句，谓语要用复杂形式。
（自動詞述語文では、述語は複雑な構造を用いなければならない）
c. 某些文体中似乎以用无定 NP 主语为宜。
（文体によっては、不定名詞主語を用いることが適切のようである）

⑥ 刘安春、张伯江 2004 は不定名詞主語文を分析する際、事態文のみを対象にしているが、本稿は不定名詞主語文の意味機能を明かにするためには、非事態文も視野に入れ、非事態文、事態文に共通する特徴を見出だす必要があると考える。

シワの木の幹にくすんだ赤の錦の旗が掛かっているのにはっと気づいた）

――陈建功《放生》

（17）　一串 红　灯笼 在 暮色 里　垂着。

1CL　赤い　提灯　で　暮色　中　ぶら下がる-DUR

（ひとつながりの赤い提灯が暮色の中でぶら下がっている）

――陈建功《“天桥乐”的红灯笼》

次の（18）、（19）の“在嚎”（鳴っている）、“卸着”（おろしている）、“正在前面的马路中央‘跳房子’”（門前の道の真ん中で石蹴り遊びしている）などの述語構造は、状態・動作が持続したままの状態にあることを表すため、同じく一種の描写性を伴う叙述である。

（18）　“轰隆隆”、“轰隆隆”，脚手架 边儿上，一台 搅拌机　在 嚎。“咣咣咣”、

どん　どん　足場　傍　1CL　攪拌機　DUR 鳴る　ごおん

“咣咣咣”，脚手板　上，　运　洋灰　的　两轮车　在　颠……

ごおん　足場　上　運ぶ セメント SUB　二輪車　DUR　振動する

（足場の傍にある攪拌機がどんどんと鳴っている。足場の台の上にあるセメントを運ぶ二輪車ががんがん振動している）

――陈建功《放生》

（19）　一个 老头儿，一耸一耸地 努着　嘴 里 的 牙签儿，蹒跚地　走出来，

1 CL　お爺さん　上下に　突き出す- DUR　口 中　SUB　爪楊枝　よろよろと　歩く-出る-来る

在 路旁 支　他 的　帆布 躺椅。一个 女人，在 院 门口　卸着　自行车

で　道端　支える 3SG GEN　ズック 寝椅子　1 CL　女　で　庭　入口　卸す-DUR　自転車

后架　上 的　菠菜。　几个 孩子 正　在 前面 的 马路　中央“跳房子”……

後ろの棚 上 SUB　ほうれん草 数 CL　子供　まさに　で　前　の　大通り 真ん中 石蹴り遊びする

（一人のお爺さんが口の中の爪楊枝を上下に動かしながらよろよろと出てきて、道端でズックの寝椅子を広げる。一人の女が庭の門前で自転車の後ろの棚に積んだほうれん草をおろしている。数人の子供が門前の道の真ん中で石蹴り遊びしている）

――陈建功《前科》

このように状態的な述語が用いられることから、不定名詞主語文は描写的性格を備える構文であることが伺える。また、上記の（14）から（19）の実例が示すように、不定名詞主語文の述語構造はしばしば描写性要素を伴う。このような描写性要素は通常必要不可欠である。例えば、

（20）a.??窗外，一个 女人 笑了。

窓の外　1CL　女　笑う-PFV/MOD

（窓の外、1CL の女が笑った）

b. 窗外，一个 女人 笑 弯了腰。

窓の外 1CL 女 笑う 曲がる-PFV- 腰

（窓の外、一人の女が腹の皮を捩って笑っている）

c. 窗外，一个 女人 笑 得 直 不 起 腰 来。

窓の外 1CL 女 笑う-COMP まっすぐにする NEG-起きる 腰 -来る

（窓の外、一人の女が腰が立たなくなるほど笑っている）

様態の描写がない（20a）は明らかに不自然であり、具体的な様態を表す“弯腰”（腰を曲げて）を加えた（20b）や“直不起腰来”（腰がまっすぐにならない）のような描写性要素を付加した（20c）は許容度が高まる。

3.2. 事態文に見られる動きの局面

本節では議論の中心となる事態文に戻り、改めて事態文の複雑な述語構造を描写性機能の面から検討する。3.1 で考察した形容詞的な述語構造を持つ非事態文と同様、事態文にも描写的要素が用いられている。

（21） 多年 前，一个 循规蹈矩 的 中学 历史 教师 突然 失踪。 扔下 了

数年 前 1CL しきたりどおりにやる SUB 中学 歴史 教師 突然 失踪する 捨てる- PFV

年轻 的 妻子 和 三岁 的 女儿。

若い SUB 妻 と 3 歳 SUB 娘

（数年前、あるまじめな中学の歴史の教師が突然行方不明になり、若い妻と 3 歳の娘を置いて行った）

——余华《一九八六年》

（22） 我 又 连 踹 几踹， 一个 物体 轰然 倒下 发出 巨大 的 声响，

1SG また 続けざまに 蹴る 数 CL 1CL 物体 どかんと 倒れる 発する 巨大である SUB 音

门大 开了。

ドア大きく 開く-PFV/MOD

（私はまた何回か蹴ったら、ひとつの物体がどかんと倒れ、ドアが開いた）

——王朔《玩的就是心跳》

（23） 一个 不幸 的 预感 蓦地 震动了 他。他 在 马圈 里 慌慌张张地

一 CL 不幸である SUB 予感 突然 揺るがす-PFV 3SG 3SG で 厩 中 慌てて

卸着 牲口，魏 老汉 的 老伴 就 找 他 来了。

卸す-DUR 役畜 魏 お爺さん GEN 連れ合い すぐに 訪ねる 3SG 来る-PFV/MOD

（彼は突然不幸な予感に襲われた。厩で慌てて馬から鞍を外したところへ、魏お爺さんの連れ合いが訪ねてきた）

――张贤亮《邢老汉和狗的故事 序》

（21）から（23）の述語はそれぞれ“突然”（突然）、“轰然”（どかんと）、“蓦地”（突然）のような連用修飾語を伴っており、これらの描写性要素は省略しにくい。“突然”（突然）、“轰然”（どかんと）、“蓦地”（突然）を省略した次の（24）～（26）はいずれも許容度が落ちる。

（24）??多年 前，一个 循规蹈矩　　的　中学 历史 教师 失踪。
　数年　前　1CL　しきたりどおりにやる SUB　中学　歴史　教師　失踪する

（25）?我 又　　连　　踹　几踹，一个 物体 倒下　发出　巨大的　声响，门　大
　1SG また 続けざまに 蹴る 何回蹴る　1 つ　物体　倒れる　発する　巨大な　音　ドア　大きく
　开了。
　開く-PFV/MOD

（26）??一个 不幸　　的 预感 震动了　　他。 他 在 马圈 里 慌慌张张地　卸着
　一つ　不幸である SUB 予感　揺るがす-PFV　3SG　3SG で　厩　中　慌てて　卸す-DUR
　牲口，魏 老汉　　的　老伴　　就　　找　　他　来了。
　役畜　魏　お爺さん　GEN　連れ合い　すぐに　訪ねる　3SG　来る-PFV/MOD

動詞は文のさまざまな成分の中で最も中核的な部分である。それ故、不定名詞主語文の事態文がもつ描写的特徴は、動詞句が描写性を持つことにも反映されなければならない。次の（27）の“笑了”（笑った）と比べると、（28）の“笑了起来”（笑い出した）は描写性を有するものと考えられる。

（27）??这时，　一个 小　　女孩　<u>笑了</u>。
　そのとき　1CL　小さい 女の子　笑う-PFV/MOD
　（そのとき、1 人の小さい女の子が笑った）

（28）　这时，　一个 小　　女孩　<u>笑了起来</u>。
　そのとき　1CL　小さい 女の子　笑う-PFV-始める
　（そのとき、1 人の小さい女の子が笑い出した）

大河内 1970 は、“笑了起来”（笑い出した）を含めた「動詞・了・X・Y」（X、Y は方向補語）のような構造は、（29）に示すような特徴をもつと述べている。

（29）a. 否定形が見当たらない。
　　b. 疑問文が見当たらない。
　　c. 後に目的語、動量詞、他の補語をとらない。

d. 命令文を構成しない。
e. 小説などで使われるとき、しばしばことばの引用を伴う。

大河内論文は（29）に示した文法的な振る舞いを踏まえて、「動詞・了・X・Y」を次のように特徴づけようとしている。

（30）動詞述語とはいいながら、はなはだその一般的性格を欠くものである。もち論「誰かが何かをする」こと、つまり動作を叙述する動詞述語ではないし、また「様態を写す」といっても一般のものとはずいぶん異なる。いわば可視的な様態の即物的表出であって、述べられる事実として「命題化を経ないもの」といえる。少なくともその点を意識して利用されているのである。

——大河内 1997:168、下線は引用者

大河内論文はさらに、「動詞・了・X・Y」を「動詞・X・Y・啦」（啦=文末語気助詞）と比較し、両者をそれぞれ「現実の状態のリアルな描写」、「事実の客観的な叙述」として捉えている。大河内氏の観点に従えば、“哭了”（泣いた）は動作・状態を叙述するものであり、いわゆる「事実の客観的叙述」になるが、これに対して、“起来”（し始める）を伴った動詞句の“哭了起来”（泣き出した）は、（31）に示されるような、泣き出しているという状態のリアルな描写に用いられると見なせる。

（31）　蓦的，一个 男人 哭了起来， 那　是 男人 的　号啕大哭。
不意に　1CL　男　泣-PFV-始める それ COP　男　SUB　号泣
（一人の男がいきなり泣き出した。それは男の号泣だ）

——梁晓声《钳工王》

事態とは現実世界における特定の時空間内に起きる具体的事象のことを指す。不定名詞主語文の事態文は、描写性を有する動詞句を用いることによって、動きの具体的な局面が細かく描かれ、始まり、終わりなどの相が明確になる。上述の“哭了起来”（泣き出した）においては、泣くという動きの始まりの相が明示されている。また、“来了”（来た）がそのまま不定名詞主語文の述語にはなれず、（32b）のように“到我们班”（私たちのクラスに）のような成分を必要とするのは、“来”（来る）という動きの終わりの相を明確にしなければならないためだと考えられる。

（32）a.??昨天 一个 留学生 来了。
昨日　1CL　留学生　来る-PFV/MOD
（昨日一人の留学生が来た）

b.　昨天 一个 留学生 来　到了　　我们　班。
昨日 1CL　留学生　来る -着く-PFV　1PL　クラス
（昨日一人の留学生が私たちのクラスに来た）

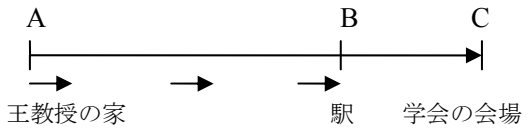
（32a）では“来了”（来た）によって表される動きの相が不明確であるが、これについては次のように解釈できる。意味的に言えば、“来”（来る）と“去”（行く）は直示方向動詞であり主として話し手の主観的方向を表す。“来”（来る）、“去”（行く）は瞬間性（punctuality）の特徴が弱く、限界点がはっきりしない。次の（33）、（34）で示すように進行中を表す“正”、“在”と共起できる。

（33）　但　走　的 是　走　了，　来 的　还 正　来，我们 可以　使
しかし いく もの 確かに 行く PFV/MOD 来る もの　まだ ちょうど 来る　1PL　できる させる
它们 走，我们 不　能　禁止　它们　来，……
3PL　行く　1PL　NEG できる 禁止する 3PL　来る
（行くものは行ったが、来るものはこっちに向かっている。我々は行かせることはできるが，来ることを禁じることはできない）
――俞平伯《浆声灯影里的秦淮河》

（34）　去　的　在 去，来 的　倒 也　在来。
行く もの　DUR 行く　来る もの　まあ も　DUR 来る
（行く人は向かう途中で、来る人は来る途中だ）
――刘心武《曹叔》

また、“了”は動詞に限界性を付与する機能を持たない（柯理思 2004）。“来”（来る）の限界性を付与する機能が弱く、“了”に限界性を付与する機能がない以上、“来了”（来た）が述語となった場合は動きの終わりが明確にならない。例えば、

（35）



（35）が示す状況で、学会に来る王教授が会場 C に到着せず、まだ駅 B にいる時点においても、次の（36）のような会話が成立すると考えられる。

（36）a.　王教授 来了　　吗？
王教授　来る-PFV　か
（王教授来ましたか）

b. 来　了，　　刚才 电话 里 说　已经 到 车站 了。
来る-PFV/MOD　さっき　電話　中 言う　既に　着く 駅　　-MOD
（今向かっているそうです、もう駅に着いているとさっき電話がありました）

これに対して、“来”（来る）＋位置変化の到達点の形によって表される移動イベントは限界点が明確であり、同じく（35）のような状況において、次の（37）のような発話は不可能である（「#」は当該の状況では成立しにくいことを意味する。以下同）。

（37）　#王教授 来 到了　　会场。
王教授 来る　着く-PFV　会場
（王教授は会場に来ています）

このように、“来了”（来た）の限界性が弱いのに対して、“来到了”＋場所の形は限界性が強くなり、構造的にも意味的にもより具体性を持つ述語構造となる。定名詞が主語である（38）と比べればより明らかなように、不定名詞主語文の（39）はこのような終わりの相を明確にする述語構造を必要とする⑦。

（38）　　昨天 汤姆 来了。
昨日　トム　来る- PFV/MOD
（昨日トムが来た）

（39）a.??昨天一个留学生来了。＝（32a）
b.　昨天一个留学生来到了我们班。＝（32b）

本節では非事態文、事態文の述語の特徴について考察してきた。いずれの場合においても、不定名詞主語文の述語は描写的性格を帯びている。その描写性の現れとして、黄师哲 2004 が提唱した動詞の前の時間、場所、様態などを表す要素のほかに、動詞の後の補語なども重要な役割を果たしているということが指摘できる。これらの描写性要素の付加によって、文の中核である動詞の表す動きの局面が細かく描かれ、始まり、継続、終わりなどの相が明確になってくる。その結果、非事態文においては（40）のように様態が明示され（実際に継続の相も示される）、事態文の場合は、（41）、（42）のように動詞句が始まり、終わりといった明確な相を持つ構造を成している⑧。

---

⑦ 到達（achievement）を表す動詞は次に示されるように述部に入る。この場合、動きの始まりと終わりが重なっていると考えられる。
（A）“啪”的一声，一个大气球破了。（ぱんと、一つの大きな風船が破れた）
（B）在此前一小时，一个十一岁的女孩刚刚离去。（今から一時間前、ある 11 歳の女の子がいなくなった
――余华《世事如烟》

⑧ 本稿では、描写という概念を広義にとらえ、具体的事物のありさまのみならず、具体的事態のありさま（始まり、終わり、数量など）も含める。

（40）　在 走廊 上，　一个 年轻人　在　　傻笑。
で　廊下 方位詞　1CL　若者　　DUR　へらへら笑う
（廊下で、一人の若者がへらへら笑っている）

（41）　这时，一个 年轻人 笑了起来。
その時　1CL　若者　　笑う-PFV-始める
（その時、一人の若者が笑い出した）

（42）　在 走廊 上，　一个 年轻人 笑了　　半天。
で 廊下 方位詞　1CL　若者　　笑う-PFV　半日
（廊下で、一人の若者がずっと笑っていた）

4.　不定名詞主語にも必要とされる描写性

前節では不定名詞主語文の述語の描写的特徴を確認したが、本節では不定名詞である主語にも描写性要素が用いられることを示す。

一般的には、動詞の前にある主語の位置は定の位置であり、動詞の後ろにある目的語の位置は不定の位置である。例えば定名詞“那本书”（その本）は（43a）のように目的語の位置には置かれにくく、通常（43b）のように主語の位置に置かれる。また、“一本算卦的书”（一冊の占いの本）のような不定名詞が目的語となった（44a）は自然であるのに対して、主語となった（44b）は容認度が低下する。

（43）a. ?我 看了　　那 本 书。
1SG 見る-PFV　その CL　本
（私はその本を読んだ）

b.　那 本 书　我　看了。
その CL　本　1SG　見る-PFV/MOD
（その本は、私は読んだ）

（44）a.　我　看了　　一本 算卦 的　书。
1SG 見る- PFV　1CL　占い　SUB　本
（私は一冊の占いの本を読んだ）

b. ?一本 算卦 的　书 我　看了。
1 冊　占い　SUB　本　1SG　見る-PFV/MOD
（?一冊の占いの本は、私は読んだ）

したがって、定名詞、不定名詞の典型的な文中の位置は、(45) のように示すことができる。

（45）　主語　　述語
　　topic　　comment
　　［定］　　V　　［不定］

不定名詞が主語の位置に現れるためには、なんらかの描写性要素を伴わなければならない。例えば（46）のような “大鼻子”（大きな鼻）という修飾語を伴っている不定名詞は主語として機能しているのに対し、（47）のような描写性に乏しい純粋な不定名詞は主語にはならない。

（46）　昨天 一个 大　鼻子 老外　来到了　　我们 班。
　　昨日　1CL　大きな 鼻　外人さん 来る-着く-PFV　1PL　クラス
　　（昨日一人の大きな鼻の外人さんが我々のクラスに来た）
（47）??昨天 一个人　来到了　　我们 班。
　　昨日　1CL 人　来る-着く-PFV　1PL　クラス
　　（昨日ある人が我々のクラスに来た）

次の（48）、（49）に示すように、不定名詞フレーズ内の描写が少ないほど不自然になる。

（48）a.　一个 时髦 女郎 怔了　　一下，　茫然　　离去。
　　1CL　モダン 女性　呆然とする- PFV　ちょっと　茫然とする　立ち去る
　　（一人のお洒落な女性が呆然とし、あっけにとられたような顔で去った）
　　――王朔《一点正经没有》
　　b. ?一个女郎 怔了　　一下，　茫然　　离去。
　　1CL　女性　呆然とする- PFV ちょっと　茫然とする　立ち去る
　　（一人の女性が呆然とし、あっけにとられたような顔で去った）
　　c.??一个人 怔了　　一下，　茫然　　离去。
　　1CL 人　呆然とする-PFV ちょっと　茫然とする 立ち去る
　　（ある人が呆然とし、あっけにとられたような顔で去った）
（49）a.　一个 身穿　灯芯绒　茄克　　的 男子 坐 在 斜对面。
　　1CL　着ている コーデュロイ ジャケット SUB 男性 座る に　斜め向かい
　　（一人のコーデュロイのジャケットを着た男性が斜め向かいに座っている）
　　――余华《偶然事件》
　　b. ?一个 男子 坐　在　斜对面。
　　1CL　男性　座る　に　斜め向かい
　　（一人の男性が斜め向かいに座っている）

c.??一个人　坐　在　斜对面。
1CL 人　　座る に　斜め向かい
（ある人が斜め向かいに座っている）

朱德熙 1956:8 は描写と定性の関係について次のように指摘している。

（50）一类事物经过描写之后就不再是普遍的概念，而是特殊的概念了。因此，描写性定语往往带着潜在的指称作用，跟限制性定语比较起来，这是很明显的，譬如说‘白纸’的时候，指的是所有的白纸；说‘挺白的纸’，‘雪白的纸’的时候，往往是指特定的某一张或某些张白纸。
（描写された事物はもう普遍的な概念ではなく、むしろ特殊な概念となる。よって、描写的連体修飾語は潜在的に指示機能を持つ。そのことは限定的連体修飾語と比べれば明らかである。例えば“白纸”（白い紙）というときはすべての白い紙を指す。“挺白的纸”（とても白い紙）、“雪白的纸”（雪のように白い紙）というときは、通常ある特定の一枚か、ある特定の複数の白い紙を指す）

――朱德熙 1956:8

さまざまな修飾成分を併せ持っている不定名詞は意味的に内包が増え外延が縮まり、定名詞に近い存在として認識される。次の（51）の“一个人”（一人の人）は、修飾要素が増えるにつれ、より定的な色彩を帯びるようになり、定名詞に近い存在として（52）で示されるように主語の位置に現れる。

（51）　一个人　→　一个女人　→　一个外国女人　→　一个不穿衣裳的外国女人
（一人の人　→　一人の女　→　一人の外国の女　→ 一人の裸の外国の女）

（52）　其实只是一页画片，好像是从哪本画册上撕下来的，一个不穿衣裳的外国女人斜卧在草地上，她的每一寸肌肤都反射出粉红色的光亮，让民丰里的两个男孩触目惊心。
（実際は一枚の絵に過ぎず、どこかの画帖から千切ったものだ。一人の裸の外国の女が芝生に斜めに横になっている。体中はピンク色を反射しており、民豊里の二人の男の子をうずうずさせている）

――苏童《民丰里》

しかしながら、このような定名詞に近い情報を担った不定名詞は、主語の位置に用いられるものの、完全な定名詞にはなり得ず、定名詞と等価ではない。結局用法としては非典型的であるため、更に述語も描写性要素を伴わなければならないという制約をうける。そのため、不定名詞主語文の述語は、次の（53b）に示すように、“气势汹汹地”（恐ろしい形相で）という連用修飾語、“走”（歩く）という移動の様態、“过”（通過する）という移動

の経路のような、さまざまな具体性を示す成分を併せ持った複雑な構造を成している。

（53）a. ?一个 壮汉　　来了。
1CL　頑丈な男　来る-PFV/MOD
（一人の頑丈な男が来た）
b.　一个 壮汉　<u>气势汹汹地　走了过来</u>。
1CL　頑丈な男 恐ろしい様相で　歩く-PFV-通る-来る
（一人の頑丈な男が恐ろしい形相でやってきた）

不定名詞主語文の描写的特徴は存現文と比べるとより明確になる。任鷹 2000:30 は存現文について次のように述べている。

（54）　存现句中的动词主要不是用以表示具体的动作，而是用一表示抽象的存现状态，词义已在一定的程度上被抽象化，或者说，抽象的存现义是动词在句中获取或得以实现的语义。
（存現文における動詞は主として具体的な動作を表さず、抽象的な存在・出現・消失の事象を表すため、語彙の意味はある程度抽象化されている。言い換えれば、抽象的な存在・出現・消失という意味は文中において動詞が獲得した意味あるいは実現可能な意味である）

——任鷹 2000:30

例えば（55）のような存現文において、動詞構造は“走过来”（歩いてやってくる）→“过来”（やってくる）→“来”（来る）のように意味の抽象化が起こりうる。

（55）a.　前面 走过来了　　一个 大个子。
前方　歩く-通る-来る-PFV　1CL　大男
（前方から一人の背の高い人が歩いてきた）
b.　前面 过来了　　一个 大个子。
前方　通る-来る-PFV　1CL　大男
（前方から一人の背の高い人がやってきた）
c.　前面 来了　　一个　大个子。
前方　来る- PFV　1CL　大男
（前方から一人の背の高い人が来た）

存現文は人や事物の存在・出現・消失を表す構文であり、動詞が存在・出現・消失の情報を伝えられれば良く、様態の描写は特に必要としない。（56）のように、生き生きとした

様態を描く連用修飾が用いられると、文が成立しにくいことも指摘できる。

（56）　?磕磕绊绊　　晃晃悠悠地 走过来　　一个 醉汉。
よちよちと危なっかしく ふらりふらり　歩く-通る-来る　1CL　　酔っ払い
（一人の酔っ払いが躓いたりしてふらふらしながら歩いてきた）

これに対して、不定名詞主語文には描写性修飾語が現れやすく、しかも（57）で示されるように様態を描く要素が少ないほど成立しにくい傾向がある⑨。

（57）a.　一个 醉汉　磕磕绊绊　　晃晃悠悠地　走了过来。
1CL　酔っ払い よちよちと危なっかしく ふらりふらり　　歩く-PFV-通る-来る
（一人の酔っ払いが躓いたりしてふらふらしながら歩いてきた）
b.　一个 醉汉　　走了过来。
1CL　酔っ払い　歩く-PFV-通る-来る
（一人の酔っ払いが歩いてきた）
c.　一个 醉汉　　过来了。
1CL　酔っ払い　通る-来る-PFV/MOD
（一人の酔っ払いがやってきた）
d. ?一个 醉汉　　来了。
1CL　酔っ払い　来る-PFV/MOD
（一人の酔っ払いが来た）
e.??一个人　来了。
1CL 人　　来る-PFV/MOD
（ある人が来た）

以上の議論から、不定名詞主語文は描写性要素を持つ構文であることが明らかになったが、次節ではこのような成分が必要になる理由について構文機能の面から解釈を加える。

5.　構文の場面描写性機能

不定名詞主語文は場面性の強い構文である。その証拠として、このタイプの文の前にしばしば副詞、擬音語、擬態語、時間詞、場所詞が現われるということが挙げられる。次の

---

⑨　（55a）からも分かるように、存現文は場面描写機能を持ちうる。しかし、次の描写性要素を必要とする a と比べれば明らかなように、b のような出現を表す存現文は必ずしも事物の描写を伴わなくても良い。つまり存現文の基本的な機能は必ずしも場面描写とは限らない。存現文と不定名詞主語文の相違については、本稿は必要に応じて取り上げているが、紙幅の関係上でこれ以上の分析は別の機会に譲る。
a.??一个人来到门口。（ある人が玄関に来た）
cf. 一个彪形大汉来到门口。（ある頑丈な男が玄関にやってきた）
b. 门口来了一个 人。（玄関には誰かが来ている）

（58）の“蓦的”（いきなり）、（59）の“站住”（止まれ）、（60）の“突然”（突然）、（61）の“扑通”（どぶん）は聞き手の注意を喚起し、聞き手を話し手の設定した場面に引き込み、その場の状況に誘導する効果を持つ。

（58）　蓦的，一个男人哭了起来，那是男人的号啕大哭。（=（31））

（59）　“站住”，一个 威严的 声音 喊道。
　　とまれ　1つ　厳めしい　声　叫ぶ
　　（止まれと、厳しい声がした）

（60）　突然，一阵　雷声 把　我　惊醒。
　　突然　ひとしきり 雷　~を　1SG　目を覚まさせる
　　（私は突然の雷の音で目が覚めた）

（61）　扑通，一只 青蛙 跳进　水 里。
　　どぶん　1CL　蛙　跳ぶ-入る 水　中
　　（どぶんと、一匹の蛙が水に飛び込んだ）

――范继淹 1985：323

時代は大きく遡るが、《水浒传》における不定名詞主語文は、不定名詞の前に“只见”（見える）、“见”（見える）、“看见”（見える）が多く使用されていることが報告されている（张伯江 2007、訳文は駒田信二訳『水滸伝』、平凡社、1968 より引用）。

（62）　正想酒喱，只见远远地一个汉子，挑着一付担桶，唱上山来，上面盖着桶盖。
　　（しきりに酒のことを考えていると、ちょうどそのとき、むこうの方から桶をかついだひとりの男が歌をうたいながら山をのぼってきた。桶には蓋がしてある）

――第 4 回、p.55

（63）　店主带我去村里相赌，来到一处三叉路口，只见一个汉子挑两个桶来。
　　（翌日やつらが立って行ってから、宿の主人が村の賭場へおれを連れてってくれたが、その途中、三叉路のところで、桶を二つかついでいる男に出くわしたのだ）

――第 18 回、p.209

（64）　智深离了铁匠人家，行不到三二十步，见一个酒望子挑出在房檐上。
　　（智深が鍛冶屋の家を離れて、二三十歩を行かぬうちに、とある家の軒端に酒の看板が出ているのが目についた）

――第 4 回、p.59

（65）　约行了五六里水面，看见侧边岸上一个人提着把锄头走将来。
　　（このとき、日はすでに西に暮落ちていた。漕ぎすすむこと五六里、ふと見ればかたわらの岸のうえを、鋤を持った男がひとりやってくる）

――第 19 回、p.223

（62）、（63）の“只见”（見える）、（64）の“见”（見える）、（65）の“看见”（見える）は、後ろの不定名詞主語文で語られる主人公の目の前にある状況に読者を誘導し、目に見える状況として描写していくことを示している。张伯江 2007 も指摘しているように、“只见”（見える）などの後ろに来る目的語は不定名詞ではなく、不定名詞主語文というセンテンスである。これは、（62）に示されるように、“只见”（見える）と不定名詞の間に“远远地”（遠くから）という連用修飾語が入っていることからも明らかである。明清時代のデータのみならず、現代の中国語においても、次の（66）、（67）示すような“只见”（見える）の用例が観察できる。

（66）　肖科平 遁声望去，　只见　一个 高大　　白胖　　西服革履
肖科平　音を辿ってみる 見える　1CL　背が高くて体が大きい 色白で太る　スーツ姿に革靴
的　男人，庄重地　朝　　她　一下下　鼓掌。
SUB　男　　荘重に　に向かって 3SG　ぱちぱちと 拍手を送る
（肖科平が音のする方をたどってみると、背が高くて体が大きく、色白で太ったスーツ姿に革靴の男が、彼女に向かってぱちぱちと拍手を送っていた）
――王朔《无人喝彩》、张佩茹 2006:354

（67）　他　急忙　跑到　窗前，掀开　窗帘　往 楼下 看去，只见　一个 围着
3SG　急いで 走る-着く 窓の前 捲る-開く カーテン へ 階下　見る　見える 1CL 捲く-DUR
头巾、　穿　浅绿色　棉外衣　的　女孩子 慌慌张张地 跑出　大门 去。
スカーフ　着る 浅い緑色 綿の上着 SUB 女の子　慌ただしく　走る-出る　表門 -行く
（彼が急いで窓のところに走って、カーテンをめくり上げ、下を見ると、スカーフを巻いて、浅い緑色の綿の上着を着た女の子が慌しく表門を走って出ていった）
――冯骥才《铺花的歧路》、张佩茹 2006:357

张佩茹 2006:360 は、視覚感知を意味する“只见”（見える）を、複文においては「後続する事象を新たな『注意点』として割り込ませ、それを焦点化するという役割を担う」としている。その「注意点」は、不定名詞主語文が表す場面なのである。“只见”（見える）のほかに、次の（68）の“定神看”（注意してみる）、（69）“睁开眼睛”（目を開ける）のような表現も、目に見える場面を導く効果を持つと考えられる。

（68）　我 一　鞠躬，　地下 忽然 有 人 呜呜的　哭起来了，　<u>定神</u>
1SG ちょっと お辞儀をする 地上 突然 ある 人 ウッウッと 泣く-始める-PFV/MOD 気を落ち着かせる
<u>看</u>　时，一个 十多岁 的 孩子 伏　在　草荐 上，也 是　白 衣服，头发　剪
見る 時　1CL　10 何歳　SUB 子供　伏せる に　藁布団 上　も COP 白い 服　髪の毛　切る

得　很　光　的　头上　还　络　着　一　大　绺　苎麻 丝。
-COMP とても つるつる SUB 頭上 その上 巻きつける-DUR 1 大きい CL チョマ 糸
（私が死者への拝礼をしようとすると、不意に足もとでウッウッと叫び声をあげたものがいた。よく見ると、10 歳余りの子どもがひとり、筵の上に身を伏せていた。これも白い喪服を着け、テカテカに剃りあげた頭に、大束の麻糸を結びつけてあった）

——（対）《彷徨》

（69）　我 赶紧 睁开 眼睛：一个 看上去　比较　舒服的 男子 站 在　我 的 不　远
1SG 急いで　開く　目　1CL　見たところ わりに 心地良い　男性 立つ に 1SG SUB NEG 遠い
处。　我　左右 瞧瞧，　没　别的 人。
ところ　1SG　左右　見てみる NEG　別の　人
（私はぱっと目を開けた。一人の感じの良い男性が私の近くに立っていた。周りを見てみたが、他に誰もいなかった）

——池莉《绿水长流》

実際、不定名詞主語文は使用環境のみならず、述語にも意味的に場面性が強くなければならないという特徴がある。

（70）a. *一个 壮汉　很　穷。
1CL　頑丈な男 とても 貧乏
（?一人の頑丈な男は貧乏だ）
b. *一个 壮汉　穷巴巴的。
1CL 頑丈な男　貧乏くさい
（?一人の頑丈な男は貧乏くさい）
（71）a.*一个 壮汉　山东 人。
1CL　頑丈な男 山東　人
（?一人の頑丈な男は山東の出身だ）
b. *一个 壮汉　是　山东 人。
1CL　頑丈な男 COP　山東　人
（?一人の頑丈な男は山東の人だ）

“很穷”（貧乏だ）、“穷巴巴的”（貧乏くさい）は状態的な述語で描写性を持つものの、眼前性に乏しく、場面性が弱いため、（70a）、（70b）のような文は容認できない。名詞述語文と“是”を用いたコピュラ文はいずれも属性を表す構文であり、場面を描写するタイプの文ではないため、（71a）、（71b）も容認できない。また 3.1 で挙げた静態的な述語構造を持つ不定名詞主語文においては、（72）、（73）に示すように、“衣着入时，大概因为顾客不多，她坐在那儿看书”、“装饰着桃花台布”といった、場面性の特徴を有する部分は省略するこ

とができない。

（72）a.　一位女售货员同样年轻貌美、衣着入时，大概因为顾客不多，她坐在那儿看书。（=（14））

b.??一位女售货员同样年轻貌美。

（73）a.　一台双开门大冰箱一尘不染，装饰着桃花台布。（=（15））

b.??一台双开门大冰箱一尘不染。

したがって、不定名詞主語文の述語は、事物の恒常的な状態を表す個体レベル述語（individual-level predicate）の類ではなく、むしろ場面レベル述語（stage-level predicate）の性質を持つ（陆烁、潘海华 2009:530）と考えられ、一種の眼前性の特徴を持っている。

以上で見たように、不定名詞主語文の使用環境や述語の意味的特徴から、同構文が場面内容の描写機能を果たしていることは容易に理解できるが、これについては更に情報構造の面からも確認することができる。中国語には文末に来る成分が新情報を担う文末フォーカスと、“是”、“连”、音声の強勢などの標識によってマークされる対比フォーカスがある（张伯江、方梅 1996:73-81）。“是”の挿入可能な位置を考えた場合、（74）は（75）のように三種のフォーカス構造を持ち得る。

（74）　武松 被捕 前 杀了　三个 坏人。

武松　捕まる 前　殺す-PFV　3CL　悪人

（武松は捕まる前に三人の悪人を殺した）

（75）a.　武松 被捕 前 是 杀了　三个 坏人。

武松　捕える 前 FOC 殺す- PFV　3CL　悪人

（= 武松　是　因为 杀了　三个 坏人 被捕）

武松　FOC　なので 殺す-PFV　3CL　悪人　捕まる

（武松が捕まったのはその前に三人の悪人を殺したからなのだ）

b.　武松 是　被捕 前 杀了　三个 坏人。

武松 FOC　捕まる 前　殺す-PFV　3CL　悪人

（= 武松 杀了　三个 坏人 是　在 被捕 前）

武松　殺す-PFV　3CL　悪人　FOC　に 捕まる 前

（武松が三人の悪人を殺したのは捕まる前だった）

c.　是　武松 被捕 前 杀了　三个 坏人。

FOC　武松　捕まる 前　殺す-PFV　3CL　悪人

（=被捕　前 杀了　三个 坏人 的　是 武松）

捕まる　前　殺す-PFV　3CL　悪人　SUB COP 武松

（捕まる前に三人の悪人を殺したのは武松だ）

（75a）、（75b）、（75c）はそれぞれ“杀了三个坏人”（三人の悪人を殺した）という動目構造、“被捕前”（捕まる前）という時間詞、“武松”（武松）という動作主がフォーカスとなり、最も際立った情報を持っている。これに対して、存現文は次の（76）で示されるように、“是”で文全体を取り立てることができないため、フォーカスがなく、文全体を一つの情報形式と見なすことができる[⑩]。

（76）??是 前面 走过来了 一个 大个子 。
FOC 前方 歩く-通る-来る-PFV 1CL 大男
（前方から一人の背の高い人が歩いてきた）

存現文と同様に、不定名詞主語文にも“是”は挿入しにくい。

（77）a.??一个 醉汉 磕磕绊绊 晃晃悠悠地 是 走了过来。
1CL 酔っ払い よちよちと危なっかしく ふらりふらり FOC 歩く-PFV-通る-来る
b.??一个 醉汉 是 磕磕绊绊 晃晃悠悠地 走了过来。
1CL 酔っ払い FOC よちよちと危なっかしく ふらりふらり 歩く-PFV-通る-来る
c.??是 一个 醉汉 磕磕绊绊 晃晃悠悠地 走了过来。
FOC 1CL 酔っ払い よちよちと危なっかしく ふらりふらり 歩く-PFV-通る-来る

（77）の動詞の前、連用修飾語の前、文頭にはいずれも“是”が入らず、これは、不定名詞主語文もフォーカスがなく、構文全体が一つの情報形式を成していることを示している。同構文の主語の指示対象、述語が表わす行為はいずれも描写され、情報の際立ちが均等であり、主語と述語が共同で場面の説明に貢献する。そのため、不定名詞主語文の不定名詞は主題にはならず、主語として機能する。（78）における不定名詞の“一个醉汉”（一人の酔っ払い）は日本語では通常「が」でマークされ、「は」を用いた（79b）は不自然となる。

（78） 一个醉汉磕磕绊绊晃晃悠悠地走了过来。（=（57a））
（79）a. 一人の酔っ払い**が**躓いたりしてふらふらしながら歩いてきた。
b ?一人の酔っ払い**は**躓いたりしてふらふらしながら歩いてきた。

---

⑩ 文末フォーカスと対比フォーカスの他に、文全体が一つのフォーカスとなる文フォーカス構造（sentence-focus structure）を持つ文があると主張する見方もある（Lambrecht（1994:223））。しかし、文が一定の情報を持つ形式においてその中で特に際立っている部分がフォーカスとして認識されるため、際立っている部分が存在しない以上フォーカスがあるとは考えられない。物を認識する際も同様である。二つ（あるいは二つ以上）の物が目に入るとき、それぞれ地（ground）と図（figure）が分かれるように認識され、図が地を背景にフォーカスとして浮き上がる。図と地はお互いに依存しあう関係にある。物が一つしかない場合は、背景がない以上、フォーカスは存在しようがない。即ち、文全体が一つの情報を担う場合、フォーカスがあるとは考えにくい。

范继淹 1985:325 によると、第 23 回夏季オリンピックに参加したスポーツ選手が順次帰国する際、子供たちが選手に花束を贈ったことを叙述するのに、新華社の 4 回にわたる通信文はいずれも不定名詞主語文が用いられていたという。次の（80）から（83）はそれぞれ 8 月 4 日、7 日、13 日、14 日の通信文である。

（80）　两名 少先队员　向 许海峰 和 王义夫 献了　　鲜花 和　红领巾。
2CL　少年先鋒隊員　に　許海峰　と 王義夫　捧げる-PFV　生花　と　赤いケッカチーフ
（2 名の少年先鋒隊員<u>が</u>許海峰と王義夫に花束と赤いネッカチーフを捧げた）

（81）　六十名 首都 少年儿童 有节奏地　高呼　　“欢迎，欢迎，热烈欢迎” 的
60CL　首都　少年児童　リズムにのって 大声で叫ぶ　歓迎　歓迎　熱烈歓迎　SUB
口号，　并　依次 将 鲜花 献　给 他们。
スローガン また　順次　~を 生花 捧げる に　3PL
（60 名の首都少年<u>が</u>リズムにのって「歓迎、歓迎、熱烈歓迎」のスローガンを大声で叫び、順次花束を彼らに捧げた）

（82）　二十一名 首都 少先队员 在 机场 卫星厅　向 胜利归来 的 健儿 献了　　鲜花。
21CL　首都 少年先鋒隊員 で 空港　衛星ホール に　凱旋する　SUB　健児 捧げる-PFV 生花
（21 名の首都少年先鋒隊員<u>が</u>空港の衛星ホールで凱旋してきた選手に花束を捧げた）

（83）　首都 七十名 少先队员 向 健儿 们　献了　　鲜花。
首都　21CL　少年先鋒隊員 に　健児　PL　捧げる-PFV　生花
（首都 70 名の少年先鋒隊員<u>が</u>選手たちに花束を捧げた）

注意すべき点は、（80）から（83）のような文は描写の重点を子供たちに置いているわけではなく、また選手たちに置いているわけでもなく、歓迎の場面そのものにあるという点である。当該の場面を描く日本語の文は同じく動作主が「が」でマークされ、次に示されるように、主題を表す「は」には置き換えられない。

（80’）　?2 名の少年先鋒隊員<u>は</u>許海峰と王義夫に花束と赤いネッカチーフを捧げた。
（81’）　?60 名の首都少年<u>は</u>リズムにのって「歓迎、歓迎、熱烈歓迎」のスローガンを大声で叫び、順次花束を彼らに捧げた。
（82’）　?21 名の首都少年先鋒隊員<u>は</u>空港の衛星ホールで凱旋してきた選手に花束を捧げた。
（83’）　?首都 70 名の少年先鋒隊員<u>は</u>選手たちに花束を捧げた。

次の（84）は、日本語の訳文からも裏付けられるように、文頭にある“在走廊上”（廊下では）が主題となり、後続する文に対して廊下という場に対する叙述描写を求める。

（84）a.　在 走廊　上，一个 女孩 咯咯咯 笑了　　半天。
で 廊下　方位詞　1CL　女の子 けらけら 笑う-PFV　半日
（廊下では、一人の女の子がけらけらと笑った）
b. ?在 走廊　上，那个 女孩 咯咯咯 笑了　　半天。
で　廊下 方位詞　あの　女の子 けらけら 笑う-PFV　半日
（廊下では、あの女の子がけらけらと笑った）

（84a）では、不定名詞主語文の描写機能がうまく働き、自然な文になる。これに対して、（84b）では、定名詞“那个女孩”（あの女の子）も叙述描写の対象になりやすいため、この定名詞を含む主語文が、先行する主題である“在走廊上”（廊下では）が求めている場面内容への叙述描写を果たせず、容認度が落ちるのだと考えられる。

（85）a.??蓝蓝的　天 上，　那　只 苍鹰　在　自由　飞翔。
青々とした 空 方位詞　あの　CL オオタカ　DUR　自由自在に　飛ぶ
（青空では、あのオオタカが自由自在に飛んでいる）
b.　蓝蓝的　天 上，　一只 苍鹰　在　自由　飞翔。
青々とした 空 方位詞　1CL　オオタカ　DUR　自由自在に　飛ぶ
（青空では、一羽のオオタカが自由自在に飛んでいる）

（85）は描写の色彩が濃く、定名詞“那只苍鹰”（あのオオタカ）を含む主語文が青空の描写にそぐわないのに対し、不定名詞“一只苍鹰”（一羽のオオタカ）を含む不定名詞主語文は自然に用いられる。（85a）、（85b）の自然度の差は不定名詞主語文の場面描写機能を明確に示している。

不定名詞主語文の場面描写機能は、さらに“有”構文と比較することによっても確認することができる。刘安春、张伯江 2004 は不定名詞主語文の談話機能を検討し、同構文の主要な機能を「物語るテクストにおいてシーンの転換の機能を果たし、新しい参与者と新しい事態を導く」（“在叙述性篇章中起到转移情节的作用，引出一个新的参与者和一个新的事件”，pp.100）としている。しかし先にも述べたように、不定名詞主語文は、不定名詞によって表される新しい参与者を導入するのではなく、むしろアクティブに描写された新しい場面を割り込ませるのである。これに対し、“有”構文はアクティブな場面にはそぐわないようであり、次の（86）、（87）はいずれも不自然である。

（86）??“站住”，<u>有</u>　一个 威严的 声音 喊道。
とまれ　ある　1つ　厳めしい　声　叫ぶ
（止まれと、厳しい声がした）

（87）?? 有 六十名 首都 少年儿童 有节奏地　高呼　“欢迎，欢迎，热烈欢迎” 的
ある 60CL　首都　少年児童　リズムにのって 大声で叫ぶ　歓迎　歓迎　熱烈歓迎　SUB
口号，　并　依次 将 鲜花 献　给 他们。
スローガン また　順次　~を 生花 捧げる に　3PL
（60 名の首都少年**が**リズムにのって「歓迎、歓迎、熱烈歓迎」のスローガンを大声で叫び、順次花束を彼らに捧げた）

この現象に関しては、次のように解釈できる。即ち、“有”構文は所謂兼語文（“有”の目的語がそれに続く動詞の主語を兼ねる文）の一種であるため、“有”構文の「主語を叙述する」という機能と、不定名詞主語文の「場面を描写する」という機能が衝突を起こしているからだと考えられる。（88）のように、文中に“是”が入ることからも分かるように、“有”構文は一つの情報構造を成すのではない。また、述語は場面レベル（stage-level）でなくても良い。

（88）a.　有　个 山东人　是　姓　　谌。
ある CL　山東省の人　FOC　苗字は～である　　諶
（ある山東省の人は確かに諶と言う）

そもそも“有 NP VP”という構造を持つ“有”構文は、「モノの存在（導入）＋そのモノへの観察」という認識の順序に合うものである。NP は主語として機能するため、VP は NP に対する叙述描写の場合は成立するが、（86）、（87）のように場面全体を叙述描写する場合は容認できなくなる。これに対して、構文全体が一つの情報構造を有する不定名主語文は、アクティブな場面描写に用いやすいのである。

以上の観察から、不定名詞主語文はリアルな場面描写に用いる構文であることが明らかになった。同構文はまる一つの情報構造を持つところから、言語類型論でいう「措定発話（thetic utterance）」、つまり非主題文（non-topical sentence）の 1 種と見なせる。黄师哲 2004 が視野に入れていない部分（動詞の後ろに補語等を付加すること）も、前方にある不定名詞を目立たぬようにする非主題化の手段としてとらえられるだろう。

6.　まとめ

本章では、不定名詞が主語になりにくいにもかかわらず、不定名詞主語文が大量に存在しているという言語事実に対して、構文機能の面から同構文の成立する条件を探った。結論は次のとおりである。

不定名詞主語文は有標な（marked）構文であり、主語にも述語にも描写性要素が含まれる。同構文はフォーカスがなく一つの情報構造を成しているため、描写の対象は不定名詞

の表す事物ではなく、その事物の現れる場面である。不定名詞主語文の基本的な機能は場面の描写であると捉えられる。

不定名詞主語文が場面描写機能を果たすためには、文の中核である動詞の表す動きの局面を細かく描く必要があり、始まり、継続、終わりといった相を明確にしなければならない。その結果、非事態文においては様態がはっきり示され（継続相も明示される)、事態文の場合は動詞句が始まり、終わりといった相をもつ構造を成している。

第４章　時間量表現前置構文の描写的特徴

1. はじめに
2. 静態的な述語構造
　2.1 均質的な特徴
　2.2 形容詞述語文に類似した統語的特徴
3. 時間量表現前置構文の描写性
　3.1 時間量表現の主題性
　3.2 述部の描写的特徴
4. おわりに

1. はじめに

第 3 章では、“一个小伙子”（一人の若い男性）のような不定名詞が主語の位置に現れる際、述語は場面描写性を有するということを述べたが、本章では、別のタイプの不定名詞――“一个小时”(1 時間）のような時間量表現が文頭に来る構文の特徴について検討する。

通常、動作の量を表す数量表現は動詞の後ろに置かれる。例えば、(1）のように、“十二个小时”（12 時間）のような時間量表現は“睡”（寝る）の後ろに用いられ、寝るという動作行為（状態）が持続する時間を表している。

（1）　她　睡了　　十二 个 小时了。
　　3SG　寝る-PFV　12　　CL　時間-MOD
　　（彼女はもう 12 時間寝ている）

このような幅を持つ線的な時間量表現は、動詞の前、もしくは文頭に用いられた場合、次の（2)、(3）が示すように、しばしば“都”（みな)、“一直”（ずっと）のような副詞を伴う。

（2）　十二 个小时 她　都　　在　睡。
　　12　CL 時間　3SG いずれも DUR 寝る
　　（12 時間、彼女はずっと寝ていた）
（3）　三年 来，我们 一直　在　考虑 加强　同 欧洲 的　经济 联系，这　是　作为
　　3 年 以来　1PL　ずっと　DUR 考える 強める と　欧州　SUB　経済　繋がり これ　COP ～として

一项 政策 来　　考虑　的。
1CL　政策　方式とその目的を示すマーカー　考える MOD
（三年来、われわれはヨーロッパとの経済的連係を強めたいと考え続けてきました。これは、一つの政策として考えているものです）

――（対）邓小平文选第三卷

左思民 2005:11 に従えば、線的な時間量表現は通常“都”（みな）、“一直”（ずっと）のような副詞の助けによってはじめて動詞が表す事態を量化する働きを持つようになる（“表示时段的时间状语通常需要副词‘一直’、‘都’一类的帮助，才能具备修饰动词的能力”）。したがって、(2)、(3）における“都”（みな）、“一直”（ずっと）を削除すると不自然な文になる。

（2’）　?十二个小时他__在睡。
（3’）　?三年来，我们____在考虑加强同欧洲的经济联系，这是作为一项政策来考虑的。

しかし、左論文はこのような時間量表現前置構文において“都”（みな）、“一直”（ずっと）が欠かせないことを指摘しているものの、その理由については触れておらず、また、次の（4）、(5）が示すように、同構文は必ずしも“都”（みな）、“一直”（ずっと）を必要としないことから、さらなる考察が必要であると言える。

（4）　说不出 是　因为　什么 原因 的　驱使，　整整　一个 下午，他 悄悄地　跟
言えない COP のために 何　原因　SUB 駆り立てる まるまる 1CL　午後　3SG こっそり くつで
在 她　的　身后。
に 3SG　GEN　体の後ろ
（何かによって駆り立てられているからなのか、午後の間、彼はこっそり彼女の後ろについていた）

――张洁《谁生活得更美好》

（5）　整整　一个 上午，罗汉 大爷　就　　跟 没　魂 一样，死命地 搬着　石头。
まるまる 1CL　午前　羅漢 お爺さん ほかでもなく と NEG 魂 のようだ 懸命に　運ぶ-DUR　石
（午前中、羅漢大爺は魂のぬけがらのように、がむしゃらに石を運びつづけた）

――（対）赤い高粱

さらに、次の（6）のように、“都”（みな）、“一直”（ずっと）のような副詞が入りにくい文も観察される。“都”（みな）／“一直”（ずっと）を用いた（6b）は不自然である。

(6) a. 整整 一夜，凄惨 的 哭声 笼罩着 陶庄。
まるまる 一晩 痛ましい SUB 泣き声 包む-DUR 陶庄
(一晩中、痛ましい嘆きの声が村を包んでいた)
——(対)車椅子の上の夢

b. ?整整 一夜， 凄惨 的 哭声 都 ／ 一直 笼罩着 陶庄。
まるまる 一晩 痛ましい SUB 泣き声 いずれも／ずっと 包む-DUR 陶庄
(?一晩中、痛ましい嘆きの声がずっと村を包んでいた)

本稿は、時間量表現前置構文には静態的な形容詞述語文と類似した性格があるという点に注目し、その基本的な機能は時間量表現が表す期間全体の描写であると捉える。また、“都”(みな)、“一直”(ずっと)のような副詞が用いられるか否かは、同構文のこの描写機能と関係していると考えられる。以下では述語の意味的特徴、文法的特徴を考察し、同構文の描写的性格を明らかにする。

なお、本章でいう時間量表現は、一定の幅を持つ線的な概念であり、「どのぐらいの時間か」という質問の答えになるいわゆる“时段”(線的な時間の概念)のことを指す。したがって、“这几天”(ここ数日)、“昨天”(昨日)、“明年”(来年)のような、「いつか」という質問の答えになるいわゆる“时点”(点的な時間の概念)のタイプの時間詞は時間量表現として取り扱わない(線的な時間詞と点的な時間詞の違いについては、陆俭明 1991、郭锐 1993 を参照されたい)。

2. 静態的な述語構造

本節では述語の特徴について検討する。時間量表現前置構文は、均質的な(homogeneous)特徴を有し、静態[①]的な形容詞述語文に似た述語構造を持つ。以下では、意味的、文法的な面からそれぞれ考察を行う。

2.1 均質的な特徴

本節では、変化、動作、状態、属性、判断という五つの概念が述部に入るかどうかを検討することによって述語の意味的特徴を観察し、述部が均質性を持つ線的事象を表すことを示す。まず、述部の特徴を検討する前に、上に挙げた五種類の事象の性質について整理しておく。

木村1997:191によると、変化はある種の状態が瞬間的に変動することであり、起こる時点と終わる時点が重なっているため、点的事象をなす。動作は起点と終点を持ち、時間軸において動的な線状を呈する。状態は時間軸において展開せず、均質な状況を表す静的な線状である。属性は、“像”(似る)、“姓”((苗字は～)だ)、“新”(新しい)、“聡明”(頭

① 本稿は、仁田 2001:17、黄文溥 2004:158 に従い、動態を「事態が、あり様を変動させること」とし、静態を「変動させず同質的で一様なあり様を呈すること」とする。

がよい)、“老实”(誠実である)のような語が示すように、静的で均質な線状を呈するため、状態とつながっている。変化、動作、状態、属性の相互関係は（7）のように示すことができる。

（7）　動　　静

←→

変化>动作>状态>属性

●　―――――

――木村 1997:191

変化、動作、状態、属性という四つの概念のうち、変化は点的事象であり、動作、状態、属性は線的事象である。さらに、変化と動作は動的であるのに対して、状態と属性は静的であると言える。戴1997も指摘しているように、動的事象には異質性（heterogeneity）が含まれ、静的事象には均質性（homogeneity）が見られる。したがって、変化と動作は内部が均質ではない（＝異質な）事象であり、状態と属性は均質な事象として捉えられる。判断は時間軸と関係せず非運動の類に入る（木村1997:186）ため、判断も異質性を持たない（均質な）事象と考えられる。したがって、変化、動作、状態、属性、判断の性質は、（8）のように整理することができる。

（8）

異質	均質
変化、動作	状態、属性、判断[②]

ここで、時間量表現前置構文の述語の性質に注目すると、時間構造の内部が均質的であるという特徴が見られる。つまり、状態、属性、判断などの静的で均質的な概念は同構文と相性がよいのに対し、変化、動作などの動的で異質的な概念はそぐわないようである。まず、状態、属性、判断の例を見られたい。

（9）　整整　三天，校园　里 一片 喧闹。

まるまる 3 日　キャンパス 中 一面に 賑やか

（丸 3 日間、キャンパス内は隅から隅まで賑やかだった）

（10）　上　高中 以前，整整　十五年，他　始终 很　笨。

通う 高校　以前　まるまる 15 年　3SG　始終　とても 不器用

② 本論文では木村 1997 に従い、“像”（似る）、“姓”（（苗字は～）だ）、“新”（新しい）、“聡明”（頭がよい）、“老实”（誠実である）が示すような事物の有する特徴・性質を「属性」と見なし、“是”（だ）“不是”（ではない）“没有”（ではなかった）などが示す肯定/否定の断定を「判断」と見なす。但し、状態、属性、判断は重なる部分もあり、区別しにくい場合もある。

（高校に行く前、まるまる 15 年間、彼はずっと不器用だった）

（11） 多少年 来，书 一直 是 黎江 的 知心 朋友。 更深 夜半，它们 常常
長年 以来 本 ずっと COP 黎江 GEN 気心の知れた 友人 夜が更ける 真夜中 3PL 常に
伴着 黎江 在 灯 光 下 畅谈。
伴う-DUR 黎江 で 電灯 光 下 心おきなく話す
（幼いころから本は黎江の気心の知れた友だちで、彼らとは、しょっちゅう夜更けの明かりの下でおしゃべりをしたものだ）

——（対）車椅子の上の夢

（9）の“一片喧闹”（ずっとにぎやかだ）は一種の均質的な状態、（10）の“很笨”（（とても）不器用だ）は属性、（11）の“是”（だ）は判断を表すため、何れも均質性を伴う叙述であると見なせる。

これに対して、次の例が示すように、変化や動作を表す述語は容認されにくい傾向がある。

（12） ??整整 一个晚上，风 停了。
まるまる 一晩 風 止まる-PFV/MOD
（??一晩中、風が止まった）

（13） ?整整 一个 下午， 大猫 在 扛 滚木。
まるまる 1CL 午後 大猫ちゃん DUR 担ぐ 丸太
（午後の間、大猫ちゃんがずっと丸太を担いでいた）

（12）の“停”（止まる）は到達（achievement）動詞であり、変化を表し、（13）の“扛滚木”（丸太を担ぐ）は状態変化を伴う動作行為を表す。両者とも時間量表現前置構文には用いられにくい。さらに、本構文の述語構造が均質的であることを示すもう一つの証拠として、状態変化を表す副詞とは共起しにくく、均質性を持つ副詞は問題なく加えることができるということが挙げられる。

（14）??一个晚上，我 越来越 头疼。
1CL 晩 1SG ますます 頭痛がする
（??一晩中、私は頭がますます痛くなった）

（15） 一个晚上，我 一直 在 头疼。
1CL 晩 1SG ずっと DUR 頭痛がする
（一晩中、私はずっと頭が痛かった）

「ますます」という変化の意味を持つ“越来越”を用いた（14）は不自然であるのに対

して、何の変化も伴わず均質的な状況が続くことを意味する“一直”（ずっと）は（15）のように“头疼”（頭痛がする）と共起できる[③]。現代中国の小説などに現れる時間量表現前置構文の用例では、主に、“一直”（ずっと）、“都”（みな）、“净”（ばかり）、“始终”（始終）などの副詞が使用されている。

（16）　几天 来，不幸的　　惠英 一直　在 床上　　躺着。
数日 以来　薄幸である　恵英　ずっと　で　ベッドの上　横になる-DUR
（数日来、薄幸な恵英はずっと寝たきりである）

（17）　几天 来，他　一直　沉浸　　在 一种　异常　的　激动 中，　因为　　再
数日 以来　3SG ずっと 思いにふける　に　1 種　尋常でない SUB　興奮　中　～のために 更に
过　几天，就　到了　晓霞　和 他 约定　的 那个 充满 浪漫 意味 的 日子。
過ぎる 数日 すぐに 着く-PFV 暁霞　と 3SG 約束する SUB あの 満ちる 浪漫　趣　SUB 日
（数日来、彼はずっと気持ちが高ぶっていた。何日かすれば、暁霞と約束したあのロマンチックな日が来るからだ）

——路遥《平凡的世界》

（18）　整整　　一个 下午，他　都　　站 在 门旁，　从 门缝　里 窥视 祖父。
まるまる　1CL　午後　3SG いずれも 立つ に ドアの傍 から 戸の隙間 中　覗く　祖父
（午後の間、彼はずっとドアの裏に立って、隙間から祖父を覗いている）

——余华《在细雨中呼喊》

（19）　整个 上午，他　都　躺　在 门前 稻草堆 上 享太阳，　那天 太阳 特别 好，
全部　午前　3SG いずれも横になる に 門前 稲わらの山 上 日向ぼっこ その日 太陽　格別に 良い
似乎　是　特意　让　他　享用 的，他　就　　在 太阳底下 吃了
のようだ COP　わざわざ させる 3SG　楽しむ MOD　3SG ほかでもなく で　太陽の下 食べる-PFV
一碗 稀汤　当　　午饭，始终 没有 离开　那　温暖　的　草堆。
1CL　お粥　と看做す 昼ごはん 始終　NEG　離れる その 暖かい SUB　草の山
（午前中、彼はずっと門前の稲わらの山に横になって日向ぼっこをしていた。その日の太陽が格別に良くて、わざわざ彼が楽しむために現れたようであった。彼は太陽の下で昼ご飯代わりにお粥を食べて、ずっとその暖かい稲わらの山から離れなかった）

——高晓声《老清阿叔》

（16）～（19）における“一直”（ずっと）、“都”（みな）は、それぞれ「寝ている」、「浸かっている」、「立っている」、「横になっている」という状態が続いていることを示している。また、次の（20）の“听”（聞く）、（21）の“盘桓”（迷う）は、“净”（ばかり）、“始

③ 同じペースで加速していくように変化する場合もありうる。その場合は均質的な変化になり、場合によっては、変化ではない状況として捉えることも可能である。例えば「一晩中、気温が下がり続けた」という状況は、中国語では“一个晚上，气温U一直U在下降”のように、均質性を持つ“一直”（ずっと）を用いて表すことができる。

终”（始終）のような副詞を伴うことによって、述語全体が一種の恒常性を得ており、均質的な状況として捉えられている。

（20） ……，练唱 的 劲头儿 十足，一段 接 一段， 整个 晚上 <u>净</u> 听 他
稽古をする SUB 意欲 十分 1CL 続く 1CL 全部 夜 だけ 聞く 3SG
一人 在 那儿 嚎， 真正 的 内行 反倒 给 晾 那儿 了。
1CL で そこ 大声で叫ぶ 本物 SUB 玄人 かえって によって そっちのけにする そこ MOD
（京劇の稽古をしている者は意欲十分で、一節さらに一節と止むことがなく、夜の間中彼が一人で叫んでいるのをずっと聞いていた。本当の玄人はかえって入れないでいる）

——陈建功《找乐》

（21） 一连 许多 个 晚上，金祥曾善美 夫妇 <u>始终</u> 盘桓 在 第一个 晚上 的
続けざま 沢山 CL 夜 金祥曾善美 夫婦 始終 ぐるぐる回る で 最初 夜 SUB
问题 里。
問題 中
（何晩も、金祥と曾善美の夫婦はずっと初日の夜の問題を気にしている）

——池莉《云破处》

次の（22）～（24）では、（22）の“每晚”（毎晩）、（23）の“夜夜”（毎晩）、（24）の“源源不断地”（絶えず）は一定の恒常性をもつ副詞であり、述語構造の均質性を保障する機能を果たしている。

（22） 接连 几天，<u>每晚</u> 睡 前 我 燃起香来， 恭恭敬敬地 站 在 观音 像 前，
続けざまに 数日 毎晩 寝る 前 1SG お線香を燃やす 恭しく 立つ に 観音 像 前
双手 合十， 心中 虔虔诚诚地 为 她 祈祷 和 祝福。
両手 合掌する 心中 敬虔に ～のために 3SG 祈祷する と 祝福する
（数日の間、私は毎晩寝る前にお線香に火をつけて、恭しく観音像の前に立ち、手を合わせ、心から敬虔に彼女のために祈祷し祝福している）

——梁晓声《泯灭》

（23） 几天 来，她 为 出走 的 儿子 几乎 <u>夜夜</u> 在 流泪。
数日 以来 3SG ～のために 家出 SUB 息子 ほぼ 毎晩 DUR 涙を流す
（数日来、彼女は家出している息子のために、ほぼ毎晩涙を流している）

（24） 几天 以来，肩挑 手提 的 庄稼人 <u>源源不断地</u> 涌到了 这
数日 以来 天秤棒で担ぐ 手に提げる SUB 農民 続々と ドッと出る-着く-PFV この
地方；石圪节 的 那 条 土街 从 早 到 晚 人群 挤得 水泄不通。
場所 石圪節 GEN あの CL 土の通りから 朝 まで 夜 人の群れ 込む-COMP びっしりと立て込む

（数日来、荷物を天秤棒で担いだり手に提げたりする農民がどんどんここにやってきている。石圪節の土の通りは朝から晩まで人の群れでいっぱいである）

——路遥《平凡的世界》

以上、時間量表現前置構文の述語が意味的に均質的な特徴を持つということを述べた。この構文における述語のもう一つの特徴として、終結点を持つということが挙げられるが、それについては後で詳しく述べる。次節ではこの構文が文法的に形容詞述語文に類似する構造を持っていることを示す。

2.2 形容詞述語文に類似した統語的特徴

張国宪 2006:2 は、形容詞は静態的な形容詞（“静态形容词”）と動態的な形容詞（“动态形容词”）からなると捉えており、静態的な形容詞の最も顕著な特徴として、時間構造が均質的である点、通常、状態を表す文に入る点を挙げている④。

（25）a. 西山 的 景色 非常 优美。
西山 GEN 景色 非常に 美しい
（西山の景色は非常に美しい）

b. 小红 比 小兰 文静。
紅ちゃん より 蘭ちゃん 上品でおとなしい
（紅ちゃんは蘭ちゃんより淑やかである）

c. 陈红 并 不 漂亮， 但 眼 和 鼻子 的 完美 搭配 长 在 那 张
陳紅 別に NEG 綺麗 しかし 目 と 鼻 SUB 完璧な 組み合わせ できる に その CL
娃娃脸上 显得 非常 的 受看。
童顔方位詞 ～のように見える 非常に SUB 見た感じがよい
（陳紅は別にきれいではないが、目と鼻が完璧に組み合わさった童顔が非常に可愛く見える）

——张国宪 2006:3

（25）は状態を表す文として挙げられている。（25a）において、形容詞の“优美”（美しい）は副詞“非常”（非常に）によって修飾されており、通常副詞の省略は不可能である。

④ 张国宪 2006:7 は中国語の形容詞を次のように分類している。

形容词（形容詞）	静态形容词（静態的な形容詞）	性质形容词（性質形容詞）
		状态形容词（状態形容詞）
	动态形容词（動態的な形容詞）	

（25b）は動態性を持たない比較構文である。（25c）は、静態的な形容詞“漂亮”（綺麗だ）の否定詞は“不”であることを示している。したがって、静態的な形容詞の文法的振る舞いは、次の（26a）、（26b）、（26c）のように整理することができる。

（26）a. 通常、程度副詞等によって修飾される。
b. 比較構文に入る。
c. 通常“不”によって否定される。

以下では、これらの特徴が、時間量表現前置構文にも見られることを示す。

まず副詞との共起について、静態的な形容詞述語文と時間量表現前置構文との共通点が見られる。（25a）において、副詞の“非常”（非常に）が削除されると終止性が悪くなる（独立した文としては不自然になる）のと同様に、時間量表現前置構文においても次の（27）が示すように“无精打采”（しょんぼりしている）のようなハダカの述語では文は成立せず、（27’）のように“都”（みな）類副詞をつけなければならない[⑤]。

（27） ?接连 好几天 她__无精打采。
立て続けに 何日も 3SG しょんぼりしている
（数日来、彼女はしょんぼりしている）
（27’） 接连 好几天 她 都 无精打采。
立て続けに 何日も 3SG いずれも しょんぼりしている
（数日来、彼女はしょんぼりしている）

——刘心武《第八课馒头柳》

形容詞述語文に終止性を付与するには、副詞を付加するほかに、“优美、舒缓”（美しくて穏やかである）のように対を成す表現にしたり、“优美得让人无可挑剔”（完璧なほど美しい）のように補語を付けたりする手段（大河内 1983、鈴木 2001、张国宪 2006 等）もあるが、このような手段は、時間量表現前置構文に終止性を与える場合にも使うことができる。次の（28）、（29）は、述語を並列させた形であり、（30）、（31）は、補語を付加した構造であるが、何れもこのような表現方法をとることによって、文の据わりがよくなってい

⑤ 形容詞をはじめとする静態的な述語を、具体的な描写に用いるには、“很”（とても）、“非常”（非常に）のような程度副詞によって修飾する以外に、“一直”（ずっと）のような副詞を加える方法もある。
a. 小王一直乐呵呵的。（王くんはいつもニコニコしている）
b. 我搀了王一生慢慢走，光亮一直随着。（松明がずっと照らしだしてくれた）——（対）棋王
c. 半导体收音机一直开着。（トランジスタラジオがつけっ放しだ）——（対）人啊，人
これらの例における“一直”（ずっと）は通常省略できない。
a’. ?小王___乐呵呵的。
b’. ?我搀了王一生慢慢走，光亮___随着。
c’. ?半导体收音机___开着。
このような“一直”（ずっと）を伴う静態的な述語構造は描写的特徴を示している。

ると考えられる。

（28）　几天 以来，孙少安 心神　不宁，　目光　恍惚，　说话　常常
数日　以来　孫少安　精神状態 落ち着かない 眼光　ぼんやりしている 話す　しばしば
前言不搭后语。
話の前後のつじつまが合わない
（数日来、孫少安は気持ちが落ち着かず、眼光がぼんやりしていて、話しがしどろもどろである）

―路遥《平凡的世界》

（29）　几天 来　公司　经理 忙碌　又　亢奋，一忽儿　召集　某 部门 开会，
数日　以来 会社　社長　せわしい　また 興奮する したり　召集する　ある 部門 会議を開く
一忽儿　找　某　几个人　谈话。
したり　探す ある　数 CL 人　談話する
（数日来、社長はせわしなく動き回り、興奮している。ある部門の社員を集めて会議を開いたり、数人に会って談話したりしている）

――梁晓声《讹诈》

（30）　接连　几天，他　疼得　死去活来，　整个　完全　成了
立て続けに 数日　3SG　痛む-COMP　気絶したり生き返ったりする 全部　完全に　なる-PFV
行尸走肉，只　有　一个　念头，头疼！
生ける屍　ただ　ある 1CL　考え　頭痛がする
（数日来、彼は気絶するほどの痛みを感じている。まるで生ける屍のようになったようだ。頭に浮かぶことはただ一つ。すなわち、それは頭痛のことである）

――王朔《我是你爸爸》

（31）　短短 几天 假期（自己 颁布　的），　兴奋得　不　知　该　干　什么。
短い　数日　休暇　自分　公布する SUB　興奮する-COMP NEG 知る すべき する 何
（（自分で公布した）短い数日の休暇の間、何をすべきか分からないほど興奮していた）

――路遥《早上从中午开始》

次に、比較構文について見ていきたい。比較構文は静態的な構文であるため、先に挙げた（25b）が示すように、静態的な形容詞は比較構文に入りやすい。そして、以下の（32）～（34）が示すように、時間量表現前置構文も、比較、比況を表す文に使用できることが観察できる。

（32）　一连　四五年，附近 居民 中 种　葡萄 的　比　种　粮食 的　还要 多。
続けざまに　4、5 年　付近　住民　中　植える　葡萄 SUB　より 植える　穀物 SUB　なお　多い

（4、5 年続けて、付近の住民の中で葡萄を育てる人が穀物を作る人よりも多い状態が続いている）

（33）　几天 来，孙少平和 这 不幸　　的 母子 俩 同样　悲伤。

数日 以来　孫少平　と この 不幸である　SUB 母子　2 人 同様に 悲しむ

（数日来、孫少平はこの薄幸な二人の親子と同じように悲しんでいる）

——路遥《平凡的世界》

（34）　整整　一天，他 跟 温顺　　的　小绵羊　似的，　一句 话 也 不　说。

まるまる 1 日　　3SG と　おとなしい SUB　子山羊　のようだ　1CL　言葉　も　NEG　言う

（一日中、彼はまるでおとなしい子山羊のようで、一言も言わなかった）

さらに、形容詞述語文との三つ目の共通点である否定の方法について見ていくと、時間量表現前置構文は、静態的な形容詞述語文と同様に、已然のことにも“不”を用いて否定でき、同構文における述語の無標の否定詞は“不”であると見なせる。

井上・黄 2000：113 に従えば、中国語の否定詞である“不”と“没(有)”の使い分けは次のように整理できる。

（35）　1］一般論の否定:“不”

2］個別事象の否定：

a.‘状態’（静的事象）の否定：“不”

b.‘基準時以後の動的事象’の否定：“不”

c.‘基準時および基準時以前の動的事象’の否定：“没（有）”

——井上・黄 2000:113

以下の（36）、（37）、（38）は、何れも、“不”を用いて否定された文であるが、基準時やそれ以前のことに“不”が使用されているということは、これらの文は、単なる已然の状況に対する叙述ではなく、むしろ一種の状態（静的事象）的な述べ方であると捉えられる。

（36）　父亲 整个 晚上 不 说话，最后　把 可馨 叫进 书房，神情 严肃地 对 她 说，

父親　全部　夜　　NEG　喋る　最後に　～を　可馨 呼ぶ-入る 書斎　　表情　真剣に　　に 3SG 言う

你 可以　不 入 共产党，但　　除　此 之 外，你 不 许　　入　任何　党。

2SG できる NEG 入る 共産党 しかし 除く これ SUB 他 2SG NEG できる 入る いかなる 党

（親父は夜の間中ずっと黙っていたが、しまいには可馨を書斎に呼び、厳しい面持ちで彼女に言った。お前は共産党に入党しなくても良いが、共産党以外の政党に入ってはならないと）

——张欣《如何》

（37）　父亲 对 我 教训了　　这　一次 之 后，接连　　几天 不　理　　我，不　跟　我

父親　に 1SG しかる-PFV その 一回 SUB 後　立て続けに 数日 NEG かまう 1SG　NEG と　1SG

说　一句 话。

言う　1CL　言葉

（親父は僕をしかった後、数日間ずっと僕を相手にせず、一言も話してくれなかった）

——梁晓声《父亲》

（38）　一连　　几天，　她　都　　不　来　我　这里。

続けざまに　数日　　3SG　いずれも NEG 来る　1SG　ここ

（数日間ずっと、彼女は私のところに来てはくれなかった）

——路遥《你怎么也想不到》

以上、本節では時間量表現前置構文の述語の特徴について考察し、同構文が意味的にも統語的にも静態的な形容詞述語文に似ていることが明らかになった。静態的な形容詞述語文は典型的には描写を表すのに用いられるため、時間量表現前置構文が静態的な形容詞述語文に似ているということは、同構文が描写性を持つ構文であることを示唆している。次の 3 節では、時間量表現前置構文の描写性について考察を進めていく。

3.　時間量表現前置構文の描写性

時間量表現前置構文は、通常、均質的な述語構造を持ち、静態的な形容詞述語文に類似するため、同構文は描写性を帯びるものであると考えられる。例えば、“躺在草坪上”（芝生に横になっている）は静態的な状態を表す構造ではあるものの、それだけでは時間量表現前置構文の述語にはならない。（40）のように様態副詞をつけてはじめて容認できる文になる。

（39）　?整个 下午，小王　躺　　在 草坪 上。

全部　午後　王くん 横になる に　芝生　上

（午後、王くんはずっと芝生に横になっていた）

（40）　整个 下午，小王　懒洋洋地　　躺　　在 草坪 上。

全部　午後　王くん 気だるそうに　横になる に　芝生　上

（午後、王くんは気だるそうに芝生に横になっていた）

また、次の（41）、（42）、（43）の波線の部分は生き生きとした描写成分であり、いずれも省略しにくい修飾語である。

（41）　整整一个上午，罗汉大爷就跟没魂一样，死命地搬着石头。（=（5））

（42）　说不出是因为什么原因的驱使，［整整一个下午，他悄悄地跟在她的身后。］（=（4））

(43) 从 八点 到 十二点 半，[整整 四个 半 小时，她 坐 在 高高 的 手术
から 8 時 まで 12 時 半 まるまる 4CL 半 時間 3SG 坐る に 高い SUB 手術
凳 上，俯身 在 明亮 的 灯 下，聚精会神地 操作。]
スツール 上 身を屈める で 明るい SUB 電灯 下 一心に 操作する
(八時から十二時半まで、びっしり四時間半である。陸文婷は足高のスツールに腰をかけ、煌煌と照らすライトの下で上半身をかがめ一心不乱に作業をつづける)
——(対)人到中年

さて、第 3 章で述べたように、“一个小伙子”(一人の若い男性)のような不定名詞が主語の位置に現れる不定名詞主語文は、典型的には場面の描写に用いられる構文であり、主語にも述語にも描写性要素を伴う構文であるが、時間量表現前置構文にも、これと類似した描写性機能があり、主部も述部も描写されたものでなければならないという特徴がある。以下では、主部と述部それぞれについて考察を行う。

3.1 時間量表現の主題性

時間量表現前置構文の時間量表現は、その文の主題として機能していると考えられる。通常、文頭に置かれ、述部との間にポーズが入るのが特徴的である。

(44) 整整 一个 下午，他 都 在 黑 砖楼 上 窥视 蒋氏 的 一举一动，
まるまる 1CL 午後 3SG いずれも で 黒い レンガのビル 上 覗く 蒋氏 SUB 挙動
苍白 的 刀条脸 上 漾 满了 痴迷 的 神色。
青白い SUB 細長い顔 上 漂う 満ちる-PFV 溺れる SUB 表情
(午後、彼はずっと黒いレンガのビルの中で蒋氏の動きを見ていた。青白くて長い顔に、うっとりした表情が漲っている)
——苏童《1934 年的逃亡》

(45) 整个 下午，庄建非 都 若隐若现地 嗅到 邻座 那 单薄 的 夏装 里边
全部 午後 荘建非 いずれも 見えつ隠れつして 嗅ぐ-着く 隣の席 その 薄い SUB 夏服 中
散发出 的 奶香味。
ばらまく-出る SUB ミルクの香り
(午後、荘建非は隣に座っている女性が着ている薄い夏服から漂ってくるミルクの香りをぼんやりとかいでいた)
——池莉《不谈爱情》

(46) 一连许多个晚上，金祥曾善美夫妇始终盘桓在第一个晚上的问题里。(=(21))

(47) 一连几天，她都不来我这里。(=(38))

(44)～(47)が示すように、文学作品に見られる時間量表現前置文の時間詞の後ろに

はしばしばカンマが使用されている。カンマの位置にポーズが入り、前の主題と後ろの述部が分かれることになる。

中国語の主題は通常定でなければならないという制約を受ける[⑥]。第 3 章で論じてきたように、不定名詞が主語の位置に現れるためには、通常描写性要素を伴わなければならない。

（48）a.??昨天 一个人 来到了　　我们　班。
昨日　1CL 人　来る-着く-PFV　1PL　クラス
（昨日ある人が我々のクラスに来た）
b.　昨天 一个 大　鼻子 老外　来到了　　我们 班。
昨日　1CL　大きな 鼻　外人さん 来る-着く-PFV　1PL　クラス
（昨日一人の大きな鼻の外人さんが我々のクラスに来た）

この場合、（48b）の“一个大鼻子老外”（一人の大きな鼻の外人さん）のように、描写された不定名詞は意味的に内包が増え外延が減り、定名詞に近い情報を持つものと見なせる。時間量表現が文頭に用いられて主題として機能しうるのも、一種の描写された概念だからだと考えられる。

大河内 1983 は、「描く」ということを「状況、場面や事物の描出に表現の主眼を置く表現方法」と捉えているが、本稿では、「描写」を、現実世界に存在する具体的事物に加え、具体的事態のありさま（始まり、終わり、数量など）を描き出すことだと捉える。このように考えると、数量を含む時間量表現も描写された概念と見なせる。現代作品の中で、時間量表現前置構文はしばしば“整整两天”（まるまる二日間）、“整三年”（まる三年間）のように、“整整”（まるまる）、“整”（まる）といった全体・全過程を含意する要素を伴っており、「数量」という描写の側面が際立っている。

（49）　整整　两天，静宜 没　吃　任何　东西。 每天 只是 不停地 喝、 尿、
まるまる 二日　静宜　NEG　食べる いかなる もの　毎日　ただ 止まずに 飲む　放尿する
喝水　与 上厕所，……
水を飲む　と　トイレに行く
（まる二日彼女は何も食べず、水ばかり飲みつづけては排泄した）
――（対）活动变人形

（50）　整个上午，他都躺在门前稻草堆上享太阳，那天太阳特别好，似乎是特意让他享用的，他就在太阳底下吃了一碗稀汤当午饭，始终没有离开那温暖的草堆。（=（19））

---

⑥ 徐烈炯 2003 は中国語の主題は少なくとも次の条件のどちらかを満たさなければならないと指摘している。a. 话题定指或类指（主題は定（definite）か総称的（generic）である）。b. 话题表示对比、强调（主題は対比や強調を表す）。時間量表現が文頭に来る場合、主題になる条件として、定性があるかどうかが議論の中心となると考えられる。

また、(49) の“整整”(まるまる)、(50) の“整个”(まる) のほかに、次の (51) の“一连”(続けざまに)、(52) の“接连”(立て続けに)、(53) の“以来”(以来)、(54) の“来”(以来) のような修飾語も見られる。“一连”(続けざまに) と“接连”(立て続けに) によって修飾された時間量表現は時間幅の内部が繋がっていることを示し、また“以来”(以来) と“来”(以来) によって修飾された時間量表現は発話時までの時間幅を表している。“一连”(続けざまに)、“接连”(立て続けに)、“以来”(以来)、“来”(以来) は“整整”(まるまる)、“整”と同様に、時間量表現に「数量」の側面を浮き彫りにする機能を果たしている。

(51)　一连几天，她都不来我这里。(= (38))

(52)　接连几天，他疼得死去活来，整个完全成了行尸走肉，只有一个念头，头疼！
(= (30))

(53)　几天以来，孙少安心神不宁，目光恍惚，说话常常前言不搭后语。(= (28))

(54)　几天 来 简少贞　一直 埋怨　她　的　热伤风。
数日　以来 簡少貞　ずっと 恨む　3SG　SUB　夏風邪
(数日来、簡少貞はずっと自分の夏風邪の文句を言っている)
——苏童《另一种妇女生活》

これらの事実は、時間量表現前置構文の時間詞は描写されたものであることを裏付けている⑦。描写性を持つ時間量表現は定名詞に近い情報を担い、主題として機能すると捉えられるが、時間量表現は意味的には完全な定名詞にはなり得ず、定名詞と等価ではない。そのため、主題としては非典型的であり、構文自体も制約を受けやすくなる。例えば、指示詞がついた定名詞句の“这几天”(ここ数日) が文頭に来る (55a) のような文は禁止を表す働きかけ文に用いられるのに対して、不定名詞句が主題になる (55b)、(55c) は働きかけ文にはそぐわない。

(55) a.　这 几天 你 不要 动　厨房 的　任何　东西，我们 很　快　派　人
この 数日 2SG するな 触る 台所 GEN いかなる もの　1PL とても 早く 差し向ける 人
来取　指纹。
来る-採る 指紋
(今後数日の間は、あなたは台所のものをいっさい触らないでください。我々はすぐ指紋を採りに人を遣すから)
——王朔《枉然不供》

⑦ 第 6 章で論じるように、“两个大鼻子留学生”(二人の大きな鼻の留学生)、“三个可爱的小姑娘”(三人の可愛い女の子) のような不定名詞は、不定名詞主語文において、一つの集合体、つまり幅を持たない「点」として捉えられる傾向がある。この場合は、数量という描写の側面は背景化されるため、“大鼻子”(大きな鼻)、“可爱的”(可愛い) のような様態の描写性要素を必要とするのである。

b. ?几天来你不要动厨房的任何东西，

c. ?几天以来你不要动厨房的任何东西，

また、定名詞句と見なせる“这几天”（ここ数日）、“这十天来”（ここ 10 日）が主題である（56）、（57）において、副詞の“一直”（ずっと）は（56b）、（57b）のように省略できる。これに対して、純粋な定名詞句でない“两天来”（ここ二日）、“十天来”（ここ十日）が主題である（56’）、（57’）においては、文法的制限が厳しくなり、“一直”（ずっと）は省略できない⑧。

（56）a. 啸秋，这 几天 我 一直 在 找 你， 我 要 质问 你，……

嘯秋 この 数日 1SG ずっと DUR 探す 2SG 1SG しようとする 詰る 2SG

（嘯秋さん、ここ数日ずっとあなたを探していた。あなたに聞きたかったのだけど）

——池莉《凝眸》

b. 啸秋，这几天我在找你，我要质问你，……

（嘯秋さん、ここ数日あなたを探していた。あなたに聞きたかったのだけど）

（57）a. 这 十天 来，刘祥 一直 被 拴 在 屋子 里，日夜 操劳、 苦思， 把 他

この 十日 以来 劉祥 ずっと によって 縛る に 部屋 中 昼夜 苦労する 苦慮する ～を 3SG

熬瘦了， 累垮了， 好像 也 大病了 一场。

辛抱する-痩せる-PFV/MOD 疲れる-崩れる-PFV/MOD のようだ も 大病を病む-PFV 1CL

（この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられ、日夜の心労でげっそりやせ、やつれはてて、まるで自分も大病したようだった）

——（対）輝ける道

b. 这 十天 来，刘祥 被 拴 在 屋子 里，日夜 操劳、 苦思， 把 他

この 十日 以来 劉祥 によって 縛る に 部屋 中 昼夜 苦労する 苦慮する ～を 3SG

熬瘦了， 累垮了，

辛抱する-痩せる-PFV/MOD 疲れる-崩れる-PFV/MOD

（この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられ、日夜の心労でげっそりやせ、やつれはてて）

（56’）a. 两天 来 我 一直 在 找 你。

二日 以来 1SG ずっと DUR 探す 2SG

（ここ二日ずっとあなたを探していた）

b. ?两天 来 我 在 找 你。

二日 以来 1SG DUR 探す 2SG

⑧ “这十天”（ここ 10 日）は「いつか」という質問の答えになるため、“昨天”（昨日）、“上星期”（先週）、“明年”（来年）と似たような点的な概念だと看做せる。この点については“这”（この）のつかない“十天来”（ここ 10 日）とは異なる。

（ここ二日あなたを探していた）

（57’）a. 十天 来，刘祥 一直 被 拴 在 屋子 里。

十日 以来 劉祥 ずっと によって 縛る に 部屋 中

（この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられている）

b. ?十天 来，刘祥 被 拴 在 屋子 里。

十日 以来 劉祥 によって 縛る に 部屋 中

（この十日余り、劉祥はずっと部屋のなかにしばられている）

すなわち、時間量表現を主題として用いるのは、有標な用い方であるため、述語も描写性要素を伴わなければならないという制約を受けるのだと捉えられる。次の 3.2 では述部の描写的特徴を明らかにし、“都”（みな）類副詞の有無は、同構文の描写性機能に左右されることを示す。

3.2 述部の描写的特徴

時間量表現前置構文の述部は時間量表現が示す期間全体に対する描写を表す。このことは、（58a）、（58b）を比べるとより明確になる。

（58） a. 一个 下午， 我 在 学习 《邓选》，

ある 午後 1SG DUR 学習する 鄧小平文選

（ある午後、私は《鄧小平文選》を読んでいた）

b. 一个 下午，我 都 在 学习 《邓选》。

1CL 午後 1SG いずれも DUR 学習する 鄧小平文選

（午後、私はずっと《鄧小平文選》を読んでいた）

（58’）a. 一个 下午，我 在 学习 《邓选》；一个 下午，我 在 学习 《毛选》。

ある 午後 1SG DUR 学習する 鄧小平文選 ある 午後 1SG DUR 学習する 毛沢東選集

（ある午後、私は《鄧小平文選》を読んでいた。ある午後、私は《毛沢東選集》を読んでいた）

b.??一个 下午，我 都 在 学习 《邓选》；一个 下午，我 都 在 学习 《毛选》。

1CL 午後 1SG いずれも DUR 学習する 鄧小平文選 1CL 午後 1SG いずれも DUR 学習する 毛沢東選集

（??午後、私はずっと《鄧小平文選》を読んでいた。午後、私はずっと《毛沢東選集》を読んでいた）

“一个下午”は「ある日の午後」という点的な時間の意味[⑨]と、「午後の最初から最後まで

⑨ 例えば、次の例において、“一个下午”（ある日の午後）は点的な時間詞の役割を果たしている。

の時間」という線的な時間の意味がある。（58a）において、“一个下午”（ある午後）は点的な時間を表し、述語の“学习”（学ぶ）の行われる時点を示す。文をそのまま終わらせることはできず、（58’a）のように対比構造にするなどの処理が必要となる（（58a）の「,」を「。」にすることはできない）。（58b）においては、“一个下午”（午後の最初から最後まで）は線的な時間を表し、学ぶことが最初から最後までずっと続くことを示す。この時間量表現前置文では、“我都在学习《邓选》”（私はずっと《鄧小平文選》を読んでいた）が“一个下午”（午後の時間）に対する描写になっている。（58’b）を容認しにくいのは、異なる描写の対象は同時に取り上げられないという制約に違反するためと考えられ、（58b）の“一个下午”（午後の最初から最後までの時間）が叙述の対象、つまり主題として機能していることを示している。

（58）の 2 つの文が示す特徴は、静態的な形容詞述語文の文法的振舞いに類似している。副詞を伴わない（59a）は特定の事物に対する叙述ではなく、「時間の限定を受けない本質的属性か、他との対比にもとづく事物の分類を表す」（井上 2003:117）文であるのに対して、副詞を用いた（59b）は具体的な時空間内に存在している事物に対する描写である。

（59）a.　冬天 冷，　（夏天 热。）
　　冬　寒い　　夏　暑い
　　（冬は寒い、（夏は暑い））
　　b.　今年 冬天 很　　冷。
　　今年　冬　　とても 寒い
　　（今年の冬は（とても）寒い）

しかし、時間量表現前置構文は静態的な形容詞述語文に類似しながらも、異なる特徴も持っている。第 2 節でも触れたように、時間量表現前置構文も静態的な形容詞述語文も均質な述語構造を有するが、時間量表現前置構文の場合、叙述の対象である時間量表現は線的な概念でしかも限界点を持つため、述部も当然均質な特徴を保持しながら、一定の終結点を示さなければならない。したがって、“很冷”（寒い）のような終結点を持たない状態を表す述語は、（60）のようにそのままでは構文の述部にはならず、（61）のように“都”（みな）、“一直”（ずっと）のような副詞を伴わなければならない。

（60）??一个 冬天 很　冷。
　　1CL　冬　とても 寒い
　　（冬は寒かった）

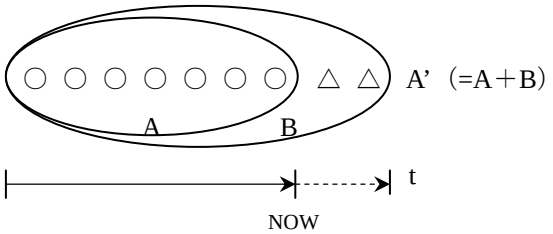
“一个下午，道静作为他的同乡，拿着组织的介绍信，在北大灰楼二楼侯瑞的小单间房内和他见了面。”（ある日の午後、道静はかれの同郷をよそおって、組織の紹介状をもって、北大の灰楼の二階を訪れ、侯瑞の小さなひと間きりの部屋で、かれと会った）――（対）青春の歌

（61） 一个 冬天 都/ 一直 很 冷。
1CL 冬 いずれも ずっと とても 寒い
（冬はずっと寒かった）

この場合、“都”（みな）類副詞が述部の均質性を示すと同時に、終結点をもたらしていると考えることができる。

“都”（みな）類副詞の終結点付与機能は次のように理解することができる。“都”（みな）は主観的な副詞であり⑩、“都”（みな）が表す意味には、話し手のある集合に対するスキャニングの仕方が反映されていると見なせるが、そのスキャニングはその集合の全てに対して行われなければならない。

（62）



（62）において、スキャニングが集合 B まで行かず、集合 A のみをカバーしているに過ぎない場合、次の（63a）は自然な発話であるが、（63b）は容認できない。

（63）a. 集合A 的 成员 都 是 “○”。
集合 A GEN メンバー いずれも COP ○
（集合 A のメンバーは全部○である）

---

⑩ “都”（みな）には話し手の主観的な認識が織り込まれやすい。この場合、“都”（みな）は総括（“总括”）という意味を持ち、先行する概念への全称量化（universal quantification）を表す。全称量化の中で、“都”（みな）は話し手の主観的な認識を表すことになる。例えば、王くんと李くんが行く可能性があるという前提が存在せず、つまり、話し手が二人に対して推測や判断がない文脈においては、（ⅰa）のような発話は唐突過ぎるように感じる。また、（ⅱ）が示すように、関係する人物や事物に対して話し手の認識が存在しない限り、“都”（みな）を用いることは不可能である。この意味において、“都”（みな）は主観的な副詞と言っても良いだろう。

（ⅰ） 下个月出差，我们公司谁和谁去？（来月の出張、会社の誰と誰が行きますか）
a. ?小王和小李U都U去。（王くんも李くんも行きます）
b. 小王和小李去。（王くんと李くんが行きます）

（ⅱ） *下个月出差，我们公司谁和谁U都U去？（*来月の出張、会社の誰と誰が二人とも行きますか）

全称量化を表す“都”（みな）を用いることによって、時間軸における複数の事態が加算されることとなり、それによって、主観的な大量（“主观大量”）の意味合いが生じる。张谊生 2004 も指摘しているように、“都”（みな）は一般的に少量を表す語とは相容れず、大量を表す語と共起しやすい。（ⅲ）、（ⅳ）の自然度の差が“都”（みな）の主観性を明確に示している。

（ⅲ） ?少数同学都不同意这个方案。（少数の学生はこの案に賛成していない）
（ⅳ） 多数同学都不同意这个方案。（多くの学生はこの案に賛成していない）

——张谊生 2004:110-111

b. *集合A’ 的　成员　　都　　是　“〇”。
集合　A’　GEN　メンバー　いずれも　COP　　〇
（*集合 A’のメンバーは全部〇である）

（63a）が示すように、“都”（みな）が用いられる場合、すべてのメンバーが含意されなければならず、集合の範囲を示す限界点が決まってくる。

このような描写性を持つ“都”（みな）は内部が均質的であり、しかも一定の終結点を持つという時間量表現前置構文の特徴を示している。

本構文の述語の特徴は、Vendler（1967:97-121）が提唱した四種のアスペクチュアルなカテゴリを当てはめることによって、更に検証することができる。状態（State）、活動（Activity）、達成（Accomplishment）、到達（Achievement）を図で示すとそれぞれ次の（64）のようになる。

（64）a.　状態（State）
b.　活動（Activity）
c.　達成（Accomplishment）
d.　到達（Achievement）

状態と活動は一定の幅を持つものの、終結点を内在しないため、状態、活動を表す述語は限界点を付与する“都”（みな）類副詞と共起して初めて時間量表現前置構文に用いられるようになる。例えば（65）における状態を表す“无精打采”（しょんぼりしている）と、（66）における活動を表す“在睡”（寝ている）は、いずれも“都”（みな）類副詞の助けを必要とする。“都”（みな）のない（65’）、（66’）は不自然である。

（65）　接连好几天她都无精打采。（=（27’））
（66）　十二个小时她都在睡。（=（2））
（65’）?接连好几天她__无精打采。（=（27））
（66’）?十二个小时她__在睡。（=（2’））

次に、達成を表す述語の場合、幅を持ち且つ終結点を内在するため、“都”（みな）類副詞とは共起せず、そのまま時間量表現前置構文に用いられる。（67）の“看了三场电影”（映画を三本見た）は典型的な達成を表す動詞句であり、限界点が内包されると考えられるため、“都”（みな）類副詞を必要としない。“都”（みな）、“一直”（ずっと）を伴った（68a）、（68b）はいずれも成立しない。

（67） 一个 下午， 小王 看了 三场 电影。
1CL 午後 王くん 見る-PFV 3CL 映画
（午後、王くんは映画を三本見た）

（68）a.*一个 下午，小王 都 看了 三场 电影。
1CL 午後 王くん いずれも 見る-PFV 3CL 映画
b.*一个 下午，小王 一直 看了 三场 电影。
1CL 午後 王くん ずっと 見る-PFV 3CL 映画

また、到達は幅を持たず、均質性がないため、2.1 で論じてきたように到達を表す述語構造を持つ（69）のような文は成立しない[⑪]。

（69）??整整一个晚上，风停了。（＝（12））

以上、本節では時間量表現前置構文の述語について考察した。同構文の述語は内部が均質的でありしかも終結点を持つという特徴を有する。動詞は文の中核であるため、このような特徴を持つ述語は時間量表現前置構文のもつ「均質的」という描写的特徴を反映していると言えるだろう。

4. おわりに

本章では時間量表現前置構文の描写的特徴について論じた。時間量表現前置構文において、不定名詞の一種である時間量表現は、数量という描写的要素を内包し、定名詞に近い情報を担っているため、主語の位置に置かれる資格を持っている。しかし、これらの時間量表現は定名詞と等価ではなく、非典型的な主題としてしか機能しないため、述語も描写的要素を持たなければならないという制約を受ける。

同構文は時間量表現が示す期間全体に対する描写を表し、述語は内部が均質的であり、しかも終結点を有するという特徴を持つ。そのため、限界点のない線的な概念は、同構文に用いられる際、限界性を内在する“都”（みな）類副詞と共起しなければならない。これに対して、終結点を持つ線的な概念は、“都”（みな）類副詞と共起せず、そのまま同構文に用いられる。これが“都”（みな）類副詞の出現の有無を左右する要因である。

---

⑪ （24）が示すように、“源源不断地”（絶えずに）のような反復性を示す副詞との共起によって、到達を表す動詞句の“涌到了这地方”（ここにやってくる）も時間量表現前置構文に用いることが可能になる。これは、反復性を持つ副詞は幅を持たせ、均質性を持たせる効果があるためであると考えられる。

第５章　広義の線的概念が文頭に来る場合
――数量表現の範囲を超えて――

1. はじめに
2. “从 A 到 B”が文頭に来るとき
　2.1　先行研究 ―「変化・範囲説」、「全体説」の問題点
　2.2　“从 A 到 B VP”の構文的意味
　　2.2.1　VP の統語的特徴
　　2.2.2　VP の意味的特徴
　2.3　“从 A 到 B 走”について
3. “自～以来”、“从～起”、“从～以后”が文頭に来るとき
4. 線的概念が文頭に用いられる文の共通性
5. まとめ

1. はじめに

時間量表現が文頭に用いられた構文が、静態的な形容詞文のように均質性という特徴を呈していることは、第 4 章で述べたが、実際、時間量表現に限らず、幅を持つ線的な概念が主題として機能する場合、文全体が均質性を持ち、状態的な述べ方になる傾向がある。

本章は、数量表現の枠を超え、広義の線的概念を表す“从～到～”(～から～まで)、“从～以来”（～以来)、“从～起”（～から)、“从～以后”（～以降）[①]といったフレーズが文頭に現れる構文を観察し、これらの構文も描写的特徴を有することを指摘する。まず、第 2 節では以下の（1）に挙げた“从A到B VP”の構文的意味について考察し、さらに第 3 節では第 2 節の分析を踏まえて（2）に挙げたフレーズが文頭に現れる構文を考察し、状態的な述べ方がなされているということを論じる。

（1）　从 A 到 B VP　（A から B まで VP）
（2）a.　从～以来 VP　（～以来 VP）
　　b.　从～起 VP　（～から VP）
　　c.　从～以后 VP　（～以降 VP）

---

① 厳密に言えば、“从～起”（～から）と“从～以后”（～以降）は起点のみを提示し、線的とは言えないようであるが、文頭に置かれた場合は、“从～起（到～）”（～から（～まで))と“从～以后（到～）”（～以降（～まで))のように、着点を含む意味合いを持つ形式で用いられるため、本稿では線的な概念として捉えておく（注⑫も参照されたい)。

2. “从 A 到 B”が文頭に来るとき

本節では“从A到B”が一つのフレーズとして文頭に用いられている文を考察する[②]。まず、従来の研究の問題点を指摘した上で、この構文の構文的意味を探り、同構文が“从A到B”に対する描写であることを述べる。

2.1 先行研究――「変化・範囲説」、「全体説」の問題点

“从A到B VP”の構文的意味に関する先行研究は多くないものの、“从A到B VP”の意味を分析したまとまった研究として、李芳杰 1983、李晋荃 1982 および李勉东 1995 が挙げられる[③]。李芳杰 1983 は“从A到B VP”には「変化」と「範囲」という二通りの意味があるとしている[④]。

(3)　李芳杰 1983:
“从…到…”[⑤]表示两种意义，一是“范围”:时间范围，空间范围，数量范围，人物范围，事物范围，等等；一是“变化”:事情的变化，人的变化，等等。
(“从…到…”は二種類の意味を表す。一つは「範囲」であり、時間の範囲、空間の範囲、数量の範囲、人物の範囲、事柄の範囲などを表す。もう一つは「変化」であり、事柄の変化、人に関する変化などを表す)

“从 A”は起点を示し、“到 B”は着点を表すため、“从 A 到 B VP”の構文的意味かどうかはともかく、フレーズ“从 A 到 B”が起点 A から着点 B までの範囲を表すという指摘は妥当だと思われる。例えば、(4) において、“从连长到战士”は敵を軽んずる人々の範囲を表している。

---

② 下記の (a)、(b) に示すように、起点表現“从 A”、着点表現“到 B”を含む構文には基本的に二つのタイプがある――“从 A+（動詞）+到 B”と“从 A 到 B+動詞”である。これについては以前から指摘されており、例えば李晋荃 1982、李勉东 1995 は“从 A”が省略可能か否かを基準に両者を区別し、後者のことを“固定格式”（固定した構造）と呼んでいる。
(a)　小王从乡下搬到了城里。（王くんは田舎から都会に引っ越した）
cf. 小王Ø搬到了城里。（王くんは都会に引っ越した）
(b)　从农村到城市都出现了新气象。（田舎から都会まですっかり様子が変わった）
cf.* Ø 到城市都出现了新气象。
従来、“从 A 到 B+動詞”をめぐる研究では“到”の品詞の問題やフレーズ“从 A 到 B”の構造の問題（並列構造か修飾構造か）に重点が置かれてきた。構文（construction）の持つ機能に関する研究はあるものの、いずれも記述的な段階にとどまっており、それ以上の展開は見られない。
③ 王敏敏･张谊生 1999 は A、B の特徴も含めて“从 A 到 B”についてさまざまな視点から考察しているが、このフレーズを含む構文がどういった構文的意味をもつかという点については述べていない。
④ 李芳杰 1983 は“从 A 到 B VP”のほかに、目的語の位置に“从 A 到 B”が現れる“動詞+从 A 到 B”についても取り上げているが、本稿では“動詞+从 A 到 B”は、議論の対象としない。
⑤ 李芳杰 1983、李晋荃 1982、李勉东 1995 の言う“从…到…”/“从 A 到 B”は、本稿の“从 A 到 B VP”と実質上同じものを指す。

（4） 从 连长 到 战士， 多少 有点 轻敌 情绪。
から 中隊長 まで 兵士 多少 ちょっと 敵を軽んずる 感情
（中隊長から兵士までみんな多少敵を軽んずる傾向がある）

——李芳杰 1983:73

しかし、“从 A 到 B VP”が「変化」を表すという見解には問題があると考えられる。次の（5）、（6）は「変化」の意味を表す例として挙げられたものである。

（5） 从 助教 升到 讲师 并 不 难， 从 讲师 到 副教授 并 不 那么 容易。
から 助手 昇進する-着く 講師 別に NEG 難しい から 講師 着く 助教授 別に NEG そんなに 易しい
（助手から講師に昇進するのは難しくないが、講師から助教授はそれほど容易なことではない）

（6） 这 十年，自己……在 党 的 培养 下， 从 警卫员 到 团长，心中 该 有
この 10 年 自分 で 党 の 育てる のもとに から 警備員 着く 団長 心中 どんなに ある
多少 话 要 向 老首长 汇报 啊!
どのぐらい 話 するだろう に もとの上級指導者 報告する な
（この 10 年の間に、共産党のお陰で自分は警備員から団長に昇進したが、心の中にはもとの上級指導者に報告したいことがどれだけあるだろうか）

——李芳杰 1983:75

（5）および（6）の“从A”と“到B”は確かに変化前と変化後の二点（A→B）を表しているが、この場合の“从A”と“到B”は“从A到B VP”構文の“从A到B”ではないと考えるべきである。李芳杰 1983 は“从A到B VP”における“从A到B”を並列構造に限定しており、その判定基準として、“‘到’不能带‘了’”（“到”に“了”を付けることは不可能である）（p73.）を挙げている。しかし（6’）が示すように、（6）には“了”を付けることができる[⑥]。

（6’） 这 十年，自己……在 党 的 培养 下， 从 警卫员 升到了 团长，心中
この 10 年 自分 で 党 SUB 育てる のもとに から 警備員 昇進する-着く-PFV 団長 心中
该 有 多少 话 要 向 老首长 汇报 啊!
どんなに ある どのぐらい 話 するだろう に もとの上級指導者 報告する な
（この 10 年の間に、共産党のお陰で自分は警備員から団長に昇進したが、心の中にはもとの上級指導者に報告したいことがどれだけあるだろうか）

⑥ （5）は恒常的な状況の叙述という文脈上の制約があるため“了”は用いにくいが、次の例のような文脈を与えれば“了”の使用は可能となる。
小王从讲师到了副教授，实在不容易。（王君は講師から助教授に昇進した、たいしたものだ）

さらに、次の（5’）と（6”）が示すように“到”の前には“升”（昇進する）のような動詞を入れることができるため、(5）と（6）における“到 B”はいずれも述語（即ち“（V）到 B”）として働いていると考えられる。

（5’）　从 助教　升　　到 讲师 并 不　　难，　从　讲师 升到　　副教授 并　不
から 助手 昇進する 着く 講師 別に NEG　難しい　から 講師　昇進する-着く 助教授　別に NEG
那么　　容易。
そんなに　易しい
(助手から講師に昇進するのは難しくないが､講師から助教授はそれほど容易なことではない)

（6”）　这 十年，自己……在 党 的 培养 下，　　从 警卫员 升到　　团长，心中
この 10 年　自分　　で　党　CL　育てる のもとに から 警備員　昇進する-着く　団長　　心中
该　　有　多少　　话　要　　向 老首长　　汇报　啊!
どんなに ある どのぐらい 話　するだろう に　もとの上級指導者　報告する な
（この 10 年の間に、共産党のお陰で自分は警備員から団長に昇進したが、心の中にはもとの上級指導者に報告したいことがどれだけあるだろうか)

したがって、この場合の“从A到B”は（2）の“从A到B”とは性質が違い、(5）と（6）は“从A到B VP”構文ではなく、“从A+（動詞）+到B”構文[⑦]に相当すると捉えるべきである。よって、李芳杰 1983 のように（5）と（6）のような例文を取り上げて“从A到B VP”の構文的意味を規定するのは問題であり、“从A到B VP”に「変化」の意味合いが含まれていると見なすのは妥当ではない[⑧]。

次に、李晋荃 1982 と李勉东 1995 の主張を概観し、その問題点を指摘する。両論文は“从 A 到 B VP”の構文的意味を、AB 二点間の「全体」を表すことであると捉えている。

（7）　李晋荃 1982:
“从 A”表示起点,“到 B”表示迄点，构成固定格式后则表示起迄点范围内的整体。可以说,表示“整体”是这一固定格式的语法意义。
(“从 A”は起点を表し、“到 B”は着点を表す。“从 A”と“到 B”が一つの構造“从

---

⑦ 李芳杰 1983 が指摘しているように、(5）における“从讲师到副教授”は“从讲师到副教授并不那么容易”の主語となっている。
なお、(6）については、李芳杰 1983 は“从警卫员到团长”を“跟后面分句是并列关系”（後節と並列関係にある）と捉えている。“从 A 到 B”が複文の前節と認められる以上、“到 B”は述語として働いていると見なせ、この場合の“从 A 到 B”は“从 A 到 B VP”構文ではなく、“从 A+（動詞）+到 B”構文であると言える。
⑧ 李芳杰 1983 において「変化」の意味を表す例として挙げられているものはいずれも“从 A+（動詞）+到 B”構文の例であると見なせる。

A 到 B”を構成する場合は起点から終点までの範囲全体を表す。「まとまった全体」を表すというのはこの固定した構造の文法的意味であると言える）

（8） 李勉东 1995:

“从 A 到 B”的语法意义是“抓两头带中间”，即以提示两端来表示包括中间未全说出部分在内的整体。

（“从 A 到 B”の文法的な意味は「両端をつかむことによって、その間の部分も一緒に捉える」、すなわち両端を示すことによって、言及されていない部分を含む物事の全体を表すことである）

（7）と（8）における“语法意义”（文法的意味）とは構文理論（Construction Grammar）でいうところの構文的意味を指している。「全体説」では「範囲・変化説」より一歩進んだ観察が行われている。例えば（9）の“从穿的到用的”（衣類から生活用品まで）は用意したものの範囲を示すが、衣類、生活用品のほか、さらに食べ物など言及されていないものも含めた範囲全体を指すと想定できる。しかし、このような範囲全体を指すという解釈は、“从穿的到用的”（衣類から生活用品まで）というフレーズよりも、むしろ述部の“都准备齐全了”（すべて揃っている）によってもたらされるものである。

（9） 从 穿 的 到 用 的， 都 准备齐全了。

から 着る もの まで 使う もの いずれも 準備する-揃う- PFV/MOD

（衣類から生活用品まで、すべて揃っている）

——李勉东 1995:240

李晋荃 1982 と李勉东 1995 は“从 A 到 B VP”に「全体」の意味があると指摘していながら、VP に関してはまったく考察を行っていない。VP に対する観察を欠く点については、李芳杰 1983 の「範囲・変化説」にも同様の不備がうかがえる。しかし、述部の特徴に着目すると、“从 A 到 B VP”は「変化」を表す構文とは言えず、また、「範囲」のみを表す構文でもないことが明らかである。

つまり、「範囲・変化説」、「全体説」は、どちらも“从 A 到 B VP”の意味を記述したとしているが、その記述には述語に関する考察が欠けているのである。“从 A 到 B VP”構文の構文的意味を明らかにするには、述語 VP の特徴を分析する必要がある。次の 2.2 では VP の特徴を詳しく考察する。

2.2 “从 A 到 B VP”の構文的意味

本節では VP の特徴を分析することによって、“从 A 到 B VP”の構文的意味を明らかにする。まず 2.2.1 では VP の統語的特徴を観察し、さらに 2.2.2 においては VP の意味的特徴を分析する。

2.2.1　VP の統語的特徴

まず、“从 A 到 B VP”の空間的用法について見てみると、V はハダカの動詞ではなく、“满”、“遍”、“都”、“一路”、“一片”、“样样”などのひとまとまりであることを表す成分によって修飾されることが分かる。

(10)　从　屋顶 一直　到　地板，摆满了　　一排排 书架，全都 是　烫金
から 屋上　ずっと　まで 床　　並べる-満ちる-PFV　一列一列　本棚　　全部　COP　金箔装飾
的　精装本。
SUB　上製本
(天井から床まで、本棚がびっしり並んでいる。置いてあるのは金付けされた上製本ばかりである)

――张贤亮《文学的殿堂在股票市场的楼上》

(11)　风 擦过　　草 尖，擦过　　沼泽 的 水面 吹来，　带着　　清新
風　掠めて通過する 草 先端 掠めて通過する 沼 GEN 水面　吹く-来る 帯びる- DUR 清新である
的　湿润，带着　　马 汗 的　气味，带着　　大自然 的　呼吸，从 头 到
SUB 湿潤　帯びる- DUR 馬 汗 SUB　香り　帯びる- DUR 大自然　SUB　呼吸　から 頭　まで
脚 摩挲 遍　　他　　全身，给了　　他　一种 极其　亲切　的　抚慰。
足　なでる-隈なく 3SG　全身　与える-PFV　3SG　一種　極めて 親しい SUB　慰め
(風はそよそよと吹き、草むらを経て、沼の水面を渡ってきた。清々しい潤いと馬の汗の香りを帯び、大自然の呼吸をはらみ、彼を頭のてっぺんから足のつま先までさすり、彼に一種のこの上なく温かい慰めをもたらした)

――张贤亮《灵与肉》

(12)　不但　　路面，长安城 的　每　　一寸 地面　都　　像　　镜子　一样
のみならず 路面　長安城　GEN　一つひとつ 一寸　地面　いずれも ～のようだ 鏡　同じように
平，从　这个 城门　到　那个 城门，每个　　角落 都　　碾得
平ら から　この　城門　まで あの　城門　一つひとつ　隅　いずれも　ひく-COMP
平平整整，寸　草　不　生。
平ら　　一寸　草　NEG　生える
(路面だけではなく、長安城の地面全体は鏡のように平坦である。城門と城門の間は隅々まで凸凹のない平面で、草一本生えていない)

――王小波《青铜时代》

(13)　她　正　　在　洗　头，头发 湿淋淋　的，从 厨房 到 门口 滴了　一路 水。
3SG ちょうど DUR　洗う 頭　髪の毛 びしょ濡れ SUB から 台所 まで 戸口 滴る-PFV 一本 水
(彼女は髪を洗っているところだった。髪の毛がびしょ濡れで、台所から玄関まで水が滴り落ちていた)

——王朔《动物凶猛》

（14） 我 探出 头 去，从 背后 打量 她 的 身体，从 脑后 到 脚跟 一片
1SG 突き出す-出る 頭 -行く から 背後 観察する 3SG SUB 体 から 後頭部 まで 踵 一面に
洁白，腿 伸得 笔直。
真っ白 足 伸ばす-COMP まっすぐ
（私は乗り出して後ろからあの女性の体を眺めた。彼女は頭の後ろから脚の踵まで全身真っ白で、まっすぐな足をしていた）

——王小波《白银时代》

（15） 新中国 建国 五十年，一大半 的 时间，走 的 是 企业 办 社会 的 道路。
新中国 建国する 50 年 大半 SUB 時間 歩む SUB COP 企業 支える 社会 SUB 道
生 老 病 死，衣 食 住 行， 都 离不开 自己 所在 的 单位。
生 老 病 死 衣 食 住 移動する いずれも 離れられない 自分 所属する SUB 職場
从 托儿所、幼儿园 到 小学 中学， 从 食堂 到 澡堂， 样样 俱全。
から 託児所 幼稚園 まで 小学校 中学校高校 から 食堂 まで 風呂 どれでも 揃っている
（新中国は、建国から 50 年、その半分以上の期間は企業が社会的な役割を担うという道のりを歩んできた。生まれてから死ぬまで、衣食住は会社を離れては成り立たなかった。託児所や幼稚園から小中学校まで、または食堂から浴場まで、全てが企業に備えられていた）

——（対）日中飛鴻

（10）から（14）における“满”、“遍”、“都”、“一路”、“一片”はそれぞれ天井と床、頭と足、台所と玄関、頭と足の二点間の均質な特徴を示している。また、これらの要素はひとまとまりであることを表し、「全体」という意味合いを持っている。また、（15）の“样样”は助数詞の重ね型で、“周遍性含义”（全称性の含意）があり、「全体」という意味を表している（“样样”の後ろの“俱全”もその証拠となる）。そして、これらの「全体」を表す要素は“从 A 到 B VP”という構文自体に「全体」の意味が含まれていることを示唆している。なぜなら、これらの「全体」を表す要素はいずれも義務的なもので、これらの要素を取り除いた（10）から（15）はいずれも容認度が落ちるからである。

（10’）??从屋顶一直到地板，摆 Ø 了一排排书架，全都是烫金的精装本。
（11’）??…带着大自然的呼吸，从头到脚摩挲 Ø 他全身，给了他一种极其亲切的抚慰。
（12’）??…从这个城门到那个城门，每个角落 Ø 碾得平平整整，寸草不生。
（13’）??她正在洗头，头发湿淋淋的，从厨房到门口滴了 Ø 水。
（14’）??从脑后到脚跟 Ø 洁白，腿伸得笔直。
（15’）??…从托儿所、幼儿园到小学中学，从食堂到澡堂，Ø 俱全。

以上、“从A到B VP”の空間的用法について述べてきたが、時間的用法やその他の派生的用法[⑨]においても、「全体」を指す要素を伴う傾向がある。次の例を見られたい。

（16）　更大　的 马蜂窝　挂　在 别 的 树 上，从 早上 到　中午，那　树
より大きい SUB スズメバチの巣 掛ける に 別 SUB 木　上　から 午前　まで　昼　その 木
正不过来，　总是　那么　歪。
まっすぐになる-NEG-通る-来る いつも そのように 曲がっている
（より大きいスズメバチの巣はほかの木にかかっている。朝から昼まで、その木はずっと傾いている）
――王小波《青铜时代》

（17）　我们 是　老　同学，从　小学　到　中学　都　是　一个 班　的。
1PL　COP 元からの 同級生 から 小学校 まで 中学校高校 いずれも COP　1CL　クラス MOD
（私たち二人はもともと同級生で、小学校から中学校までずっと同じクラスだったんだ）
――王朔《刘慧芳》

（18）　姐姐 倪萍 从　动作 到　表情 都　尽力　学 着　大人，虽然　她
姉　倪萍　から 身振り まで 表情 いずれも 全力を尽くす 学ぶ-DUR 大人　ではあるが 3SG
不一定　完全　了解 事情 原委。
必ずしも　完全に　知る　こと　経緯
（姉の倪萍は、事の次第をのみこんでいた訳ではなかったが、身振表情までオシャマに大人たちを真似た）
――（対）広報

（19）　整个 乾清宫，从 田妃 到 宫女　和 太监们，都　提心吊胆，　连
全部　乾清宮　から 田妃　まで 宮仕えの女 と 太監たち　いずれも おっかなびっくり でさえ
大气　也　不　敢　出。
荒い息　も　NEG　できる　出す
（乾清宮の人々全てが、田妃から宮仕えの女や太監まで、みんな息もできないほどびくびくしている）
――李晋全 1982:67

（16）から（19）は“从 A 到 B VP”の派生的用法であるが、空間的用法と同様に、VP に「全体」を指す要素が現われている。（16）の“总是”は朝から昼までの全体、（17）から（19）における“都”はそれぞれ小学校から中学校までの時間全体、身振りから表情まで

⑨ 語彙については、空間的用法よりも時間的用法を基本とする考え方もある（例えば定延 2002）が、本稿は従来の「通説」に従い時間的用法を派生的用法とみなす。

のイメージ全体、乾清宫の人全員を示している。

以上、本節では VP の統語的特徴を分析し、VP がひとまとまりであることを表す要素を含む傾向があるということを指摘した。この傾向は、“从 A 到 B VP”構文が、ある状態がある範囲（AB 二点間）をうめることを表す構文であることを示していると同時に、“从 A 到 B VP”が AB 二点間に対する心的走査を表すことを示唆している。この心的走査は、以下の（20）のように表すことができる。（20）は、この構文が表す心的走査が、両端の AB 二点のみに対するものではなく、AB 二点間の物事全部に対する一括走査であることを表している。このような視点からこの構文を捉えると、“从 A 到 B VP”によって表される事象は点的なものではなく、線的なものであると言えるだろう。この点については 2.2.2 でさらに詳しく述べる。

（20）　“从 A 到 B VP”が表す AB 二点間に対する心的走査

A ├----スキャニング----→| B

2.2.2　VP の意味的特徴

本節では“从 A 到 B VP”における VP の意味的特徴を観察する。ここでは変化、動作、状態、属性、判断という概念が VP に入るかどうかを検討することによって、VP が均質性を持つ線的事象を表すことを示す。4 章で述べたように、変化、動作、状態、属性、判断の性質については、（21）のように整理することができる。

（21）

異質	均質
変化、動作	状態、属性、判断

以下では、“从 A 到 B VP”の VP は均質性を持つ状態、属性、判断を表すことはできるが、均質性をもたない変化と動作は表すことができないということを示す。まず、VP が状態、属性、判断を表す場合から見ていく。

（22）　从　墙脚　　到　墙顶，　　喇叭花 密密层层，　　在　每个　　花蕊　上，
から 壁の根元　まで　壁のテッペン 朝顔　幾重にも重なっている　で　すべての　花蕊　上
都　　有 一只 蓝 蜻蜓，在 早上 的 水汽 中 展开　　它　透明　　的 翅膀；
いずれも いる 1CL 青い 蜻蛉　で　朝　SUB 湿気　中 広げる-開く 3SG 透明である SUB 翼
（塀一面に朝顔が咲いている。どの花蕊にも青い蜻蛉がいて、朝の湿気の中で透けて見える翼を広げている）

——王小波《寻找无双》

（23）　我探出头去，从背后打量她的身体，从脑后到脚跟一片洁白，腿伸得笔直。（＝（14））

（22）の“密密层层”は形容詞の重ね型であり、朝顔が一面に咲いている状態を表している。（23）の“洁白”も状態形容詞であり、“一片洁白”は全身真っ白という均質な状態を表している。

（24）　石沟 的　供销社　　相当 的　不　小，从　东头 到　西头 足　有　二十
石溝　GEN　購買販売協同組合 相当　SUB　NEG 小さい から 東側　まで 西側　十分に ある　20
多　米，…
余り　メートル
（石溝の購買販売協同組合は相当広くて、東西の長さは二十メートルほどある）
――战福

（25）　她　爸　　就　　是　个　蹬　板车 的，她　妈　　是　　个　拣
3SG お父さん ほかでもなく COP　CL　漕ぐ 三輪車 MOD 3SG お母さん COP　CL　拾う
废纸 的，　从　小　到　大　没　刷　过　牙 没　洗过　脚…
紙くず-MOD　から 小さい まで 大きい NEG 磨く-EXP　歯 NEG　洗う-EXP 足
（あの人のお父さんは人力車引きで、お母さんは紙収集のごみ屋さんをやっている。生まれてから歯を磨いたり、脚を洗ったりしたこともない）
――王朔《玩的就是心跳》

（24）は購買販売共同組合の建物の東西の長さを示し、（25）は主人公の父母の生活ぶりについて描写している。（24）、（25）はどちらも静的な状況の叙述である。

（26）　从 内衣 到 外衣，她 都　是　一个 香喷喷　　的　LADY。
から 肌着 まで 洋服 3SG いずれも COP　1CL　ぷんぷんと良い匂いがする　SUB　LADY
而　我　从 内衣 到 外衣 都　是　一个　地道　　的　土流氓，…
しかし 3SG から 肌着　まで 洋服 いずれも COP　1CL　正真正銘である SUB 無頼漢
（彼女は肌着から洋服まで、ぷんぷんと女性の香りを漂わせているが、私は下着から洋服まですべて正真正銘の無頼漢である）
――王小波《黄金时代》

（27）　他 是　个　再 普通 不　过　的　人 了，从 相貌　到　衣着　都
3SG COP　CL 更に 普通　NEG 過ぎる SUB　人 MOD から 顔立ち まで 身なり　いずれも
毫无　出奇　　之　处。
少しもない 変わっている　SUB　ところ
（彼はきわめて普通の人だ、顔から洋服までまったく平凡なのだ）
――网:张贤亮《浪漫的黑炮》

（26）の“是”は判断動詞であり、（27）の“毫无出奇之处”は否定の形で判断を表している。つまり、（26）と（27）は、判断も“从 A 到 B VP”の VP に入ることを示している。

次に、VP に変化や動作が入るかどうかについて見ていく。池上 1981 は空間的な移動を「変化のもっとも具体的なレベルでのあらわれである」と捉えているが、（28）と（29）に示すように、移動動詞は用いることができない。このことは、“从 A 到 B VP”が変化の事象を表すことができないということを示している。

（28） *小白　　从　家 到 医院 来了。
白ちゃん から 家　まで 病院　来る-PFV/MOD
（29） *小黑　　从　一楼 到　三楼 上了。
黒ちゃん から 一階　まで　三階　上る-PFV/MOD

（28）の“来”と（29）の“上”は主観的/客観的な移動動詞であり、“从 A 到 B VP”に用いることはできない。（28）および（29）のような場所的な移動、すなわち移動イベントの叙述は“从 A+動詞+到 B”を用いて、（30）や（31）のように表さなければならない（木村 2001 参照）。

（30） 小白　　从 家 来到了　　医院。
白ちゃん から 家 来る-着く-PFV　病院
（白ちゃんは家から病院まで来た）
（31） 小黑　　从　一楼 上到了　　三楼。
黒ちゃん から 一階 上る-着く-PFV　三階
（黒ちゃんは一階から三階まで上った）

さらに、（32）と（33）から分かるように、歯がますます痛くなることや、道がますます狭くなることなど、状態変化の事象も“从 A 到 B VP”を使って表すことはできない。これに対して、「歯がずっと痛い」や「道がずっと広い」など、均質的な状態の場合は、（34）や（35）のように“从 A 到 B VP”を使って表すことができる。この事実はまさに“从 A 到 B VP”が均質な状況を表すことを裏付けている。

（32） ?从 家 到 医院 牙 越来越 疼了。
から 家 まで 病院　歯 ますます　痛い-PFV/MOD
（?家から病院まで歯がますます痛くなった）
（33） ?从 东京 到　横滨，路 越来越　宽了。
から 東京　まで 横浜　　道　ますます　広い-PFV/MOD
（?東京から横浜まで、道がますます広くなった）

（34）　从　家 到 医院　牙 一直　很　　疼。
　　から 家 まで 病院　歯 ずっと とても 痛い
　　（家から病院まで歯がずっと痛かった）
（35）　从　东京 到 横滨，　路 一直　很　　宽。
　　から 東京　まで 横浜　　道 ずっと とても 広い
　　（東京から横浜まで道がずっと広かった）

動作の場合も変化の場合と同様、“从 A 到 B VP”を用いることができない。“蹦”（ジャンプする）を用いた（36）と“扔”（投げる）を用いた（37）は明かに不自然である。“从 A 到 B VP”が動作の叙述ではないことは Tai1985 の時間順序規則（the principle of temporal sequence）によって説明することも可能である。中国語では、一連の事態を叙述する際、常に各事態の発生順序によって語順が決まる。“从 A”（出発する）、“到 B”（到着する）、V（動作）という三つの事態を考えた場合、「从 A→V→到 B（“从 A+動詞+到 B”）」は時間の線上に並んでいるのに対して、「从 A、到 B、V（“从 A 到 B VP”）」は時間的順序とは合わない。動作の叙述は（36’）（37’）のように“从 A+動詞+到 B”を用いなければならず、“从 A 到 B VP”を動作の叙述と捉えることはできない。（38）は移動を表すのではなく、車を走らせる時間を表すことを目的とした文であり、宜昌と木魚鎮という二地点間の状況（距離）の叙述となっている。

（36）　*小白　　从　地 上　到　床　　上 蹦了。
　　白ちゃん　から　床　上　まで　ベット　上　ジャンプする-PFV/MOD
　　（白ちゃんは床からベッドの上に飛び上がった）
（37）　*盘子、碗　　从　桌子　　上　到 院子 里　扔了。
　　皿　　茶碗　から　テーブル　上　まで　庭　中　投げる-PFV/MOD
　　（皿、茶碗はテーブルの上から庭まで投げられた）
（36’）　小白　　从　地 上　蹦到了　　床　　上。
　　白ちゃん　から　床　上　ジャンプする−着く−PFV　ベッド　上
（37’）　盘子、碗　从　　桌子　　上　扔到了　　院子 里　　。
　　皿　　茶碗　から　テーブル 上　　投げる-着く-PFV　庭　　中
（38）　从　宜昌 到　神农架 的　木鱼镇 大约 要　　走　6 个 小时。（网）
　　から 宜昌　まで 神農架　SUB　木魚鎮　およそ しなければならない 歩く　6CL　時間
　　（宜昌から神農架の木魚鎮まではおよそ 6 時間走らなければならない）

以上、本節では、VP の統語的特徴や意味的特徴を観察することによって、“从 A 到 B VP”が AB 二点間の「全体」に対するスキャニングを表し、AB 二点間の均質な状況を叙述する構文であるということを明らかにした。線的な AB 二点間に対する叙述というこの特徴は、

文の中核である VP が線的でなければならないということに反映される。次の 2.3 節では“*从 A 到 B 走了”が成立しない理由を探ることによって、この点を明らかにする。

2.3 “从 A 到 B 走”について

日本人の中国語学習者、特に初級段階の学習者はしばしば（39）のような不自然な文を作ることが観察されている[⑩]。では、なぜこのような文は容認されないのだろうか。

（39） *从 家 到 医院 走了。
から 家 まで 病院 歩く-PFV/MOD
（家から病院まで歩いた）

本稿は（39）における“走”を点的事象と捉え、次の（40）および（41）における“走了一个钟头”、“走了 78 公里”の“走”とは異なるものであると考える。

（40） 从 家 到 医院 走了 一个 钟头。
から 家 まで 病院 歩く-PFV 1CL 時間
（家から病院まで歩いて一時間かかった）

（41） 这 天，从 沱沱河 到 雁石坪 泵站， 走了 78 公里。
その 日 から 沱沱河 まで 雁石坪 ポンプセンター 歩く-PFV 78 CL
（その日、沱沱河から雁石坪ポンプセンターまで 78 キロ移動した）
——网:朱辉:青藏公路十日谈

“走”が多義動詞であることは以前から指摘されており、例えば马庆株 1981 は“走”には“离开”と“行走”という二通りの意味があるとし、（42）のように述べている。

（42） “走”作离开讲时是V_a ，作行走讲时是V_{b1}。作V_a用的“走”不能加“着”，“走两天”“走了两天”不能单说；作V_{b1}用的“走”可以加“着”，“走两天”“走了两天”可以单说。
（「去る」という意味の“走”は V_a であり、「歩く/移動する」という意味の“走”は V_{b1} である。V_a として用いられる“走”には“着”を付加することができず、

---

⑩ 下記の（a）から（d）は日本人中国語学習者の作文から引用した誤用例であり（1999 年 5 月に東京大学教養学部二年生が提出した作文。中国語学習歴は一年程度）、いずれも日本語の「A から B まで+動詞」という語順にあわせて作った文だと考えられ、いわゆる母語干渉が引き起こした現象だとみなせる（学習者は括弧内の日本語に基づいて中国語の文を作ったと思われる）。
（a）*从驹场到下北泽，我走了。（駒場から下北沢まで歩いた）
（b）*我从这儿到天安门要走。（ここから天安門まで歩いて行く）
（c）*我从我家到百货店走了。（自宅から百貨店まで歩いて行った）
（d）*火车从东京到大阪走。（列車は東京から大阪まで行く）

⑪ V_a /V_{b1} は马庆株 1981 のいうところの“死类”（[+完了]［－持続]）/“等类”（[－完了]［+持続]）動詞である。

“走两天”“走了两天”は単独では用いられない。V_{b1} として用いられる“走”には“着”を付けることができ、“走两天”“走了两天”は単独で用いられる。）（马庆株 1981：89）

马論文は“着”や時間的数量表現との共起が可能か否か、即ち［+持続］という意味素性を有するかどうかによって“走”を二つに分けており、この基準に従えば（40）のような“走”は V_{b1} であると判断できる。しかし“了”と共起した場合、即ち（39）における“走”が V_a 、V_{b1} のどちらに該当するかは马庆株の説明によっては判断がつかない。しかし、これは“了”の機能を考えることによって判断が可能になると思われる。

井上・黄 2000 や井上・生越・木村 2002 が指摘しているように、中国語のアスペクト標識（動詞接尾辞）“了”（完了）は、出来事が<閉じた形>（閉じた線/境界）をとって時間軸上にあることを表し、<開いた形>を表す動詞句に<閉じた形>を描く“了”がつくことはない。例えば、“等”は<開いた形>を示し、“等三个小时”は<閉じた形>を示すため、（44a）では“了”が現れないが、これに対し、（44b）においては“了”と“等三个小时”が共起可能である。

（43）a.　　等　　b.　等三个小时

――井上・生越・木村 2002:67

（44）a. *小王　等了。
　　王くん　待つ -PFV/MOD
　　（王君は待っていた）
　b. 小王　等了　　三个 小时。
　　王くん 待つ-PFV　3CL　　時間
　　（王君は三時間待った）

“了”のこの性格に注目して動詞“走”を考えてみると、（45）においては、“走了”の形が容認されるため、この場合の“走”は<閉じた形>となると考えられる。すなわちこの場合の“走”は「去る、離れる」という意味の“走”であり、［+有界的（bounded）］という意味素性を有し、瞬間的性質を持つ点的事象である。これを図式化すると（46）のようになる。

（45）　小王　走了。
　　王くん 行く-PFV/MOD
　　（王君は行っちゃった）

（46）　.....|.....→ t
　　－走　　+走

一方、（47）における“走一个钟头”にも“了”がつけられるため、“走一个钟头”は<閉じた形>であると考えられる。つまり、“走”は（43a）の“等”と同じ図式によって表わすことができる<開いた形>の事象であるのに対し、“走一个钟头”は“一个钟头”という時間的幅を伴うため、<閉じた形>の線的事象と捉えられ、（43b）の“等三个小时”と同様の図式で表わすことができる。

（47）　小王　走了　　一个　钟头。
　　王くん　歩く-PFV　1CL　時間
　　（王君は一時間歩いた）

なお、（48a）に示したように、“走 78 公里”は“走一个钟头”と同じく幅（78 キロの距離）を持つ線的事象であるため、“从 A 到 B VP”に用いることが可能であり、（48b）は自然な文となる。

（48）a.　沱沱河 ├- - - - - 走 78 公里 - - - - - ->| 雁石坪泵站

b.　这天，从沱沱河到雁石坪泵站，<u>走了 78 公里</u>。（＝（41））

以上、二つの“走”について観察を行った。整理すると、“走了”の形の“走”は「去る、離れる」という意味を持った点的事象である。これに対して、“走一个钟头”や“走 78 公里”の“走”は「歩く/移動する」の意味を持ち、“走一个钟头”と“走 78 公里”は線的事象を示す。“走了”の形の“走”が“从 A 到 B VP”に入らないのに対し、“走一个钟头”と“走 78 公里”が“从 A 到 B VP”に入るというこの対立は、VP が線的な特徴を持たなければならないことを反映している。

本節では“从 A 到 B VP”の構文的意味について考察し、同構文が AB 二点間の均質な状況を表すということを述べたが、このことは、この構文が時間量表現前置構文と同様に描写的性格を持つということを示している。つまり、“从 A 到 B VP”は、文頭に来る“从 A 到 B”という線的な期間・区間に対する描写であると考えられる。

3.　“从～以来”、“从～起”、“从～以后”が文頭に来るとき

“从A到B”のほかに、“从～起”、“从～以后”、“从～以来”のような幅を提示する概念が文頭に来る構文も描写的性質を帯びる[⑫]。使用頻度の高い“从～起”から見ていくと、“从

⑫ 一見、“从～起”（～から）と“从～以后”（～以降）には変化の瞬間を提示する点的な用法もあるよ

～起”の後に来る述部には、様態副詞が使用されていることが観察できる。

（49）a.　从 早晨　起，　恂如 专心　办　这件　大事。
　　から 朝　始まる　恂如 集中して する この CL　大仕事
　　（朝から、恂如はこの大仕事に没頭していた）
　　――（対）霜叶红似二月花

　　b. ??从 早晨 起，　恂如　办　这件　大事。
　　から 朝　始まる　恂如　する この CL　大仕事
　　（朝から、恂如はこの大仕事をやってきた）

（49a）の様態副詞“专心”（一途に）は（49b）に示したとおり省略できない。（49a）は、動詞句“办这件大事”（この大仕事をする）が“专心”（一途に）と共起することによって、描写性を備えた文になっていると見なせる。また、“从～起”が文頭に置かれる文の描写性は、不定名詞主語文が後続できることからも伺える。

（50）　从　那　天 起，一只 闪闪发光　的　瑞士　小　金表，　便　不断　在
　　から その 日 始まる 1 CL きらきらと光る SUB　スイス　小さい 金の時計 もう　絶えず で
　　潘秀娅 的　想象 中 和 梦境 中 出现。
　　潘秀娅　SUB　想像　中　と　夢　中　現れる
　　（その日から、きらきら輝くスイス時計が、秀娅の夢に現われては消えた）
　　――（対）霜叶红似二月花

第 3 章で論じたように、不定名詞主語文には場面描写性機能があり、不定名詞主語文を用いた（50）は描写的特徴を持っている。副詞の“不断”（絶えずに）は、“从那天起”（その日から）が示す期間において時計が夢に現れる状況が続いていることを示している。

また、次の（51）の“从七月一号起”（7 月 1 日から）という前置詞フレーズを文頭に移動させた（52）はそのままでは容認度が低い。これは、“放假”（休みに入る）が動態的述

うに見える。例えば、次のような場合である。

a. 从第二天起凤鸣的态度完全改变了。（その翌日から、鳳鳴の態度はすっかり変わってしまった）
――（対）家

b. 你知道吗，［从那两次以后，我对你的印象完全变了。］
（きみ、知ってるかね、あの二回の面会のあとで、ぼくのきみに対する印象は、完全に変わっちまったんだ）
――（対）青春之歌

しかし、“改变”（変わる）、“变”（変わる）は“从～”で示される時点の前後で状況が異なっていることを示してはいるものの、“从～起”、“从～以后で示される期間における変化を示しているわけではない。その証拠として、以下のように、典型的な点的事象の“灭了”（消えた）、“破了”（破れた）が“从～起/以后 VP”構文に入らないことが挙げられる。

c. *从那以后，电灯灭了。（あれから、電気が消えた）
d. *从那以后，气球破了。（あれから、風船が破れた）

語であるからだと考えられ、(53) のように“正式”(正式に)、“一直”(ずっと)、“一个月”(一ヶ月) のような成分をつけてはじめて自然な文となる。

(51)　他们 从 七月 一号　起　放假。
3PL　から 7 月　1 日　始まる　休みに入る
(彼らは 7 月 1 日から休みに入る)

(52)　?从　七月一号　起，　他们 放假。
から 7 月 1 日　始まる　3PL　休みに入る
(7 月 1 日から、彼らは休みに入る)

(53) a. 从 七月 一号　起，　他们 <u>正式</u>　放假。
から 7 月　1 日　始まる 3PL　正式に 休みに入る
(7 月 1 日から、彼らは正式に休みに入る)

b. 从 七月 一号 起，　他们 <u>一直</u>　放假。
から 7 月　1 日　始まる 3PL　ずっと 休みに入る
(7 月 1 日から、彼らはずっと休みに入る)

c. 从 七月 一号 起，　他们 放　<u>一个月</u> 假。
から 7 月　1 日　始まる 3PL　入る　一ヶ月　休み
(7 月 1 日から、彼らは一ヶ月の休みに入る)

つまり、(53a) のように“正式”(正式に) のような副詞を付けること、(53b) および (53c) のように“一直”(ずっと)、“一个月”(一ヶ月) のような幅を持つ語を加えることなどがいずれも述部に静態的で線的な特徴をもたらす手段として有効に機能するのである。

実際、“从～起”が文頭に来る実例を観察すると、述部が線的な特徴をもつ傾向がある。例えば (54) ～ (57) が示すように、“从～起”が文頭にくる文の述部には、時間量表現前置構文および“从 A 到 B VP”構文と同様、しばしば“一直”(ずっと)、“都”(みな)、“始终”(始終)“不断地”(絶えずに)、“总是”(いつも) のような幅を示す副詞が用いられている。

(54)　K 低着　头 没有 说 什么，[从　那时　起，　<u>一直</u> 沉默了 四 五 天。]
K　俯く- DUR 頭　NEG　言う 何　から その時　始まる ずっと 黙る-PFV 四　五 日
(K はなにもいわずに頭を低く下げてじっと考えて、四、五日ずっと黙っていました)

――(対) 越前竹人形

(55)　从　那天　起，　我　晚上 <u>都</u>　不　敢　出　屋。我　老　觉得　有
から その日 始まる 1SG　夜　いずれも NEG できる 出る 部屋 1SG いつも 感じる　いる

一个人　吊　　在　我们 的　门前。
1CL 人　ぶら下がる　に　1PL　SUB　門前
（あの時から僕は夜、外へ出るのが怖くなった。何時も目の前に死人がぶら下がっているような気がするのだ……）

――（対）越前竹人形

（56）　从　上　小学 第一天 起，他们 俩 的　座位 就　始终 排　在 一起。
から 通う 小学校 初日　始まる 3PL　2CL GEN　座席　もう　始終　並ぶ に　同じ場所
（ふたりは小学校に上がった最初の日からずっと隣り合わせにすわってきた）

――（対）家（上）

（57）　又　是　谈　这些　事，文化大革命，文化大革命！［从　我　刚刚　　懂事
また COP 喋る これら こと　文化大革命　　文化大革命　　から 1SG したばかり 物心がつく
的　时候　起，就　不断地 听到　　这 几个字。］
SUB 時　　始まる もう 絶えず　聞こえる この 数 CL 文字
（また、あのことだわ。文化大革命、文化大革命!私がもの心ついた時から、ひっきりなしに聞かされてきたことば）

――（対）ああ、人間よ

また、次の（58）～（60）における“天天”（毎日）、“毎天晚上”（毎晩）、“整日价的”（四六時中）は頻度が高いことを含意する線的な特徴を持つ表現であり、これらの例においても、述部はいずれも静態的な特徴を呈している。

（58）　从　那天　起，差不多 就 天天 有　警报。
から その日 始まる ほとんど もう 毎日　ある 警報
（その日から、毎日のように空襲警報が鳴った）

――（対）女の人について

（59）　从 这一晚上 起　每天晚上 临　　睡　前 倪萍　都　　要
から その晩　始まる 毎晩　　をしようとする際に 寝る 前　倪萍　いずれも することになる
来　这么　一次，把　妈妈、姨、姥姥、弟弟　叫到　　西 屋，提问，
来す このように 1CL　～を　ママ　伯母　婆ちゃん 弟　　呼ぶ-着く 西　部屋　詰問する
“念咒”，“轰鸡”，叠被，　所有　的“功课” 一丝不苟。
呪文を唱える　（意味不明）　布団を畳む　すべて SUB　課題　少しもいい加減なところがない
（その晩から、倪萍は寝る前にこれを儀式のように欠かさずとり行った。ママ、伯母、婆ちゃまと弟を部屋に呼びつけ、「祟るか、祟らないか」と問詰め、「罰あたれ」と呪文のように唱え、布団を四角に折る。これら全ての行事のどの一つをも蔑ろにしない）

――（対）越前竹人形

（60） 从 这天 起， 柳原 整日价 的 和 萨黑夷妮 厮混着。
から その日 始まる 柳原 四六時中 SUB と サフィニ 一緒にいる-DUR
（それからというもの、柳原は四六時中サフィニと一緒にいるようになった）
——（対）傾城の恋

以上、“从～起”が文頭に来る文の述部の静態的な特徴について観察してきたが、“从～起”のみならず、“从～以后”、“从～以来”が文頭に来る文にも描写的な特徴が見られる。“从～起”と同様、“从～以后”、“从～以来”の後ろに来る述部には、（61）～（64）が示すように、しばしば“总是”（いつも）、“常常”（よく）、“不停地”（止まらずに）、“一直”（ずっと）のような副詞が用いられている。

（61） 从打 那 以后，总是 低着 头 进，低着 头 出，也 就 没有 觉着 这 门口 矮。
から それ 以降 いつも 俯く-DUR 頭 入る 俯く-DUR 頭 出る まあ ほかでもなく NEG 感じる- DUR この 戸口 低い
（それからあとはいつも頭をさげたまんまで出入りしてたから、この戸口がこんなに低いとは思わなかった）
——（対）輝ける道

（62） 自从 我 母亲 跟 他 继母 闹翻 以后， 我 就 常常 哭。
から 1SG 母親 と 3SG 継母 仲違いする 以降 1SG もう よく 泣く
（母と、あの人の継母が仲違いをしてから、わたくしはよく泣きました）
——（対）家（上）

（63） 晓梦 病得 很 厉害，［自从 她 妈妈 被 抓 走 以后，她 就 不停地 哭， 连 药 都 不 肯 吃，病得 更 重了。］
暁夢 病気になる-COMP とても 酷い から 3SG ママ によって 捕まる 行く 以降 3SG もう 絶えず 泣く でさえ 薬 も NEG 喜んでする 飲む 病気になる-COMP 更に 重い-PFV/MOD
（病気がひどいの。ママがつかまってからずっと泣いてて、薬も飲まないから、どんどん悪くなって）
——（対）車椅子の上の夢

（64） 自从 昨夜 听到 卢嘉川 牺牲 的 消息 以来，她 的 身体 一直 有点 颤巍巍的。
から 昨夜 聞こえる 芦嘉川 死ぬ SUB 情報 以来 3SG GEN 体 ずっと 少し よろよろしている
（昨夜、芦嘉川の死を知ってからというもの、ずっと身体のふるえがとまらなかったのだ）
——（対）青春の歌

また、(65) の“是很大的”(とても大きい)、(66) の“很长了些肉，个子也高了些”(だいぶ肉がつき、背丈ものびた)、(67) の“有”(ある) といった静態的な述語の使用も、“从～以后”、“从～以来”が文頭に来る文の描写的特徴を示している。

(65)　文林 的　遗嘱　鼓舞 着　我，[从 他　牺牲，从 看见了　他 这　封　信
文林　SUB　遺言　励ます- DUR 1SG　から 3SG 死ぬ　から 見える-PFV 3SG この CL　手紙
以后，秀兰，我　的　变化 是　很　大　的。]
以降　秀蘭　1SG　SUB 変化　COP とても 大きい MOD
(文林の遺言は、わたしをはげましてくれた。かれが処刑されたあと、かれのこの手紙を読んでから、秀蘭、わたしは大きく変ったのだよ)
――(対) 青春の歌

(66)　小福子 长得　不　难看。虽然　原先　很　瘦　小，可是 [自从
小福子　育つ-COMP NEG 醜い　にもかかわらず　以前　とても 痩せて　小柄 しかし　から
跟了　那个军官 以后，很　长了　些　肉，个子 也 高了　些。]
つく-PFV その 士官　以降　とても 伸びる-PFV いくらか 肉　背丈　も 伸びる-PFV いくらか
(小福子はなかなかかわいい顔をしていた。以前はひねこびていたが、その軍人のところへ行ってからだいぶ肉がつき、背丈ものびた)
――(対) 骆驼祥子

(67)　自从 他 有 记忆 以来，他 的 脑子里　就　有 一个 相貌　庄严　的 祖父
から 3SG ある 記憶 以来　3SG SUB　脳裏　もう ある 1CL　顔つき 厳格である SUB 祖父
的　影子。
SUB　影
(彼の記憶を呼び起せば､彼の脳裡には厳格な顔つきをした祖父の姿があった)
――(対) 家 (上)

以上、本節では、線的な概念を表すフレーズ“从～起”、“从～以后”、“从～以来”が文頭に来る構文が、“从 A 到 B VP”と同じように描写的特徴を持つということを述べた。次節ではこれらの線的な概念が文頭に置かれる文の共通性について検討する。

4. 線的概念が文頭に用いられる文の共通性

本節では Vendler (1967) が提唱した状態 (State)、活動 (Activity)、達成 (Accomplishment)、到達 (Achievement) という四つの概念を用いて、線的な概念を表す時間量表現および“从 A 到 B”、“从～起”、“从～以后”、“从～以来”が文頭に来る構文の共通性を明らかにする。

第 5 章で述べたように、状態 (State)、活動 (Activity)、達成 (Accomplishment)、到達 (Achievement) は (68) のように図式化できる。

（68）a.　状態（State）　————·····
　　b.　活動（Activity）　～～～～～～～～·····
　　c.　達成（Accomplishment）　～～～～～～～～～•
　　d.　到達（Achievement）　•

“从 A 到 B/从～起/从～以后/从～以来”が文頭に来て主題として機能している文は、それぞれ“从 A 到 B”、“从～起”、“从～以后”、“从～以来”が示す期間に対する描写を表すため、時間量表現前置構文と同様、述部 VP は線的でしかも終結点を持つものでなければならない。まず、達成（Accomplishment）を表す述語について考えてみると、達成を表す述語はもともと線的特徴と終結点をもつため、（69）のように副詞を伴わずに述部に入る。

（69）a.　整整　三天，小王　转了　五个 大城市。
　　まるまる 三日　王くん 回る-PFV　5CL　大都会
　　（まる三日間、王くんは五つの大都会を回った）
　　b.　从　前天　到 现在，　小王　转了　五个 大城市。
　　から 一昨日 まで 現在　王くん　回る-PFV　5CL　大都会
　　（一昨日から今日まで、王くんは五つの大都会を回った）
　　c.　从　前天　起，　小王　转了　五个 大城市。
　　から 一昨日 始まる 王くん 回る-PFV　5CL　大都会
　　（一昨日から、王くんは五つの大都会を回った）

次に、状態（State）および活動（Activity）を表す述語について見ていきたい。状態も活動も線的ではあるものの、終結点を内在しないため、以下の（70）、（71）および（70’）、（71’）が示すように、限界点を内包する“一直”（ずっと）のような副詞と共起してはじめて述部に用いられる（“一直”（ずっと）を含めて“都”（みな）類副詞の限界性については第 4 章を参照されたい）。

（70）a.??整整　三天，风 很　大。
　　まるまる 三日　風　とても 大きい
　　（まる三日間、風が強かった）
　　b.??从　前天 到　现在，风 很　大。
　　から 一昨日 まで 現在　風 とても 大きい
　　（一昨日から今まで、風が強い）
　　c.??从　前天 以后，风 很　大。
　　から 一昨日 以降　風 とても 大きい

（一昨日から、風がずっと強い）

（71）a.??整整　三天，小王　在　看　美国　　电影。

まるまる 三日　王くん DUR 見る アメリカ 映画

（まる三日間、王くんはアメリカ映画を見ている）

b.??从　前天 到　現在，小王　在　看　美国　电影。

から 一昨日 まで 現在　王くん DUR 見る アメリカ 映画

（一昨日から今まで、王くんはアメリカ映画を見ている）

c.??从　前天 起，　小王　在　看　美国　电影。

から 一昨日 始まる　王くん DUR 見る アメリカ 映画

（一昨日以来、王くんはアメリカ映画を見ている）

（70’）a.　整整　三天，风 一直　很　　大。

まるまる 三日　風 ずっと とても 大きい

（まる三日間、風がずっと強かった）

b.　从　前天　到 現在，　风 一直　很　　大。

から 一昨日 まで 現在　風 ずっと　とても 大きい

（一昨日から今まで、風がずっと強い）

c.　从　前天　以后，风 一直　　很　　大。

から 一昨日　以降　風 ずっと　とても 大きい

（一昨日から、風がずっと強い）

（71’）a.　整整　　三天，小王 一直　　在　　看　美国　　电影。

まるまる 三日　王くん ずっと DUR　見る アメリカ　映画

（まる三日間、王くんはずっとアメリカ映画を見ている）

b.　从　前天 到　現在，小王　一直　在　　看　美国　电影。

から 一昨日 まで 現在　王くん ずっと DUR　見る アメリカ 映画

（一昨日から今まで、王くんはずっとアメリカ映画を見ている）

c.　从　前天　以来，小王　一直　在　看　美国　　电影。

から 一昨日 以来　王くん ずっと DUR 見る アメリカ 映画

（一昨日以来、王くんはずっとアメリカ映画を見ている）

一方、到達（Achievement）を表す述語は点的であり幅を持たないため、通常は“从 A 到 B/从～起/从～以后/从～以来”の後ろの述部には用いられない。次の（72a）から（72c）はどれも容認されない。

（72）a. *整整　　三天，风 停了。

まるまる 三日　風 止む-PFV/MOD

（まる三日間、風が止んでいる）

b. *从　前天 到　现在，风 停了。

から 一昨日 まで 現在　 風 止む-PFV/MOD

（一昨日から今まで、風が止んでいる）

c. *从　前天 以后，风 停了。

から 一昨日 以降　 風　止む PFV/MOD

（一昨日から、風が止まっている）

以上、本節では線的な概念を表す“三天”（三日間）のような時間量表現、“从A到B”、“从～以来”、“从～起”、“从～以后”が主題として機能する文の述部に見られる共通点について考察し、これらの構文の述部は典型的には（73）に示すような始まりと終わりを持つ線的な事象であるということを明らかにした[⑬]。

（73）　述部の示す事象：

5. まとめ

本章では時間量表現前置構文に類似した構文として、線的な概念を表す“从～到～”（～から～まで）、“从～起”（～から）、“从～以后”（～以降）、“从～以来”（～以来）が文頭に来る構文を取り上げ、これらの構文が描写的性格を持つことを述べた。これらの構文は時間量表現前置構文と同様、典型的には、文頭の線的概念が示す期間に対する静態的な描写を表すものである。なお、本稿は線的な概念が文頭に用いられる文の全体的な特徴を考察の目的としているため、“从～到～”（～から～まで）、“从～起”（～から）、“从～以后”（～以降）、“从～以来”（～以来）を文頭に用いる文の差異等に関する考察は今後の課題としたい。

---

⑬ 雷桂林 2003b は“从 A 到 B VP”の構文的意味について論じ、“*从 A 到 B 走了”が成立しない理由を探っているが、VP が“从 A 到 B”に対する描写を表すため、線的な特徴と終結点を持たなければならないということは、本論文で新たに指摘した点である。

第６章　２種類の数量表現前置構文—点的事象と線的事象—

1. はじめに
2. 点的事象を表す不定名詞主語文
　2.1　動的な述語
　2.2　明確な限界性をもつ点的な事象
3. 線的事象を表す線的概念前置構文
4. “三个人”が文頭に来る場合
5. おわりに

1. はじめに

第 3 章から第 5 章にかけて、“一个小伙子”（一人の若い男性）及び“一个上午”（午前中)、“从～到～”（～から～まで)、“从～起”（～から)、“从～以后”（～以降)、“从～以来”（～以来）のような表現が文頭に用いられる事態文を中心に、構文の意味機能を考察してきたが、これらの構文は、不定名詞主語文と線的概念前置構文に分けることができる。本章ではこの 2 つの構文の関係を明らかにし、両構文の連続性について検討する。

まず次の具体例を見られたい。

（1）　“现在 做事　还　就　得　这样”。三个人　奉承地
今　事に当たる　まあ　ほかでもなく　しなければならない　そのように　3CL 人　へつらって
笑起来。
笑う-始める
（今はそうしなくちゃ、と三人（=於関、楊重、馬青）が追従して笑った）
——王朔《顽主》

（2）　三个人 都 笑了。　笑中　都 深　藏着　酸楚。
3CL 人　皆　笑う-PFV/MOD　笑いの中　皆　深く　潜む- DUR　苦しみ
（三人（=孫少平、蘭香、仲平）とも笑った。笑いの中に苦しみが滲んでいた）
——路遥《平凡的世界》

（3）??三个人 笑了。
3CL 人　笑う-PFV/MOD
（三人が笑った）

数量表現が文頭に来る文のうち、(1) のようなタイプでは副詞“都”(みな) は用いられない。これに対して、(2) のようなタイプは副詞“都”(みな) が必要であり、“都”(みな) を省略して (3) のようにした文は明らかに容認度が落ちる。本稿は、(1) のような文を不定名詞主語文、(2) のような文を線的概念前置構文と看做し、(3) が不自然になるのは、“笑了”(笑った) という述語がどちらの構文にも適合しないからであると考える。

不定名詞主語文における主語は描写された具体物であるため、特定の時空間における離散的な概念であると言え、不定名詞主語文は典型的には点的かつ動的な事象を表す構文であると捉えられる。これに対して、線的概念前置構文は典型的には線的で静的な事象を表す構文であると見なせる。以下では、典型的な不定名詞主語文と典型的な線的概念前置構文の特徴をそれぞれ整理し、両者の関係を明らかにする。

2. 点的事象を表す不定名詞主語文

本節では第 3 章の議論を踏まえた上で、不定名詞主語文の中核となる述語が動詞である傾向が強いこと、その動詞によって表される事態が明確な限界点を有し、同構文が典型的には動的で点的な事象を表す構文であるということを示す。まず、2.1 では述語形式を分析し、2.2 では同構文によって表される事象の点的な特徴を論じる。

2.1 動的な述語

次の (4) に示すように、名詞、動詞、形容詞は、典型的には、それぞれ事物、動作、状態を表すのに用いられ、名詞述語文、動詞述語文、形容詞述語文はそれぞれ属性叙述、動作行為の叙述、状態描写に用いられやすい。

(4) 名詞 → 事物
動詞 → 動作
形容詞 → 状態

しかし、(5) に挙げたような主語が定名詞句である文と (6) に挙げた不定名詞主語文の比較からも分かるように、不定名詞主語文は描写性をもちながらも、述語には動詞が用いられる傾向が強い。

(5) a. 赵子龙　常山人。　〔名詞述語文〕
趙子龍　常山人
(趙子龍は常山の出身だ)

b. 林冲　提回来　一　葫芦　酒。　〔動詞述語文〕
林沖　手に提げる-帰る-来る　1　瓢箪　酒
(林沖は酒が入った瓢箪を手に提げて帰ってきた)

c. 赵匡胤 很 丑。 〔形容詞述語文〕

趙匡胤 とても 醜い

（趙匡胤は醜い）

（6）a. *一个 壮汉 常山人。 〔名詞述語文〕

1CL 屈強な男 常山人

（*一人の屈強な男は常山の出身だ）

b. 一个 壮汉 提回来 一 葫芦 酒。 〔動詞述語文〕

1CL 屈強な男 手に提げる-帰る-来る 1 瓢箪 酒

（一人の屈強な男が酒の入った瓢箪を手に提げて帰ってきた）

c. *一个 壮汉 很 丑。 〔形容詞述語文〕

1CL 屈強な男 とても 醜い

（*一人の屈強な男は醜い）

つまり、描写は典型的には形容詞が持つ機能であるが、（6c）が示すように、不定名詞主語文の場合、典型的な形容詞を述語として用いることはできず、（7）、（8）のような動詞を含めた複雑な述語構造を用いなければならないのである。

（7） 此后 不久 我 到 东单 一家 工艺品 店 买 镇尺，一位 女 售货员 同样

その後 間もなく 1SG 行く 東単 1CL 工芸品 店 買う 文鎮 1CL 女 店員 同様

年轻 貌美、 衣着 入时，大概 因为 顾客 不 多，她 坐 在 那儿 看 书。

若い 綺麗である 身なり モダン 恐らく なので 顧客 NEG 多い 彼女 坐る に そこ 読む 本

（その後間もなく東単にある工芸品の店へ文鎮を買いに行った。客が少ないからか、一人の（同じく）若くて綺麗でお洒落な女店員が座って本を読んでいた）

――陈建功《消费六记》

（8） 一台 双开门 大 冰箱 一尘不染，装饰着 桃花 台布。

1CL 左右開きのドア 大きい 冷蔵庫 塵一つもない 飾る-DUR 桃の花 テーブルクロス

（左右開きのドアの大きい冷蔵庫は、少しも汚れておらず、桃の花の模様のテーブルクロスが飾りとしてかけてある）

――池莉《城市包装》

（7’）??一位 女 售货员 同样 年轻 貌美。

1CL 女 店員 同様 若い 綺麗

（?一人の女店員は（同じく）若くて綺麗だ）

（8’） ?一台 双开门 大 冰箱 一尘不染。

1CL 左右開きのドア 大きい 冷蔵庫 塵一つもない

（?左右開きのドアの大きい冷蔵庫は少しも汚れていない）

第 3 章で述べたように、不定名詞主語文の述語は場面レベル述語（stage-level predicate）に属し、意味的に眼前描写性を持っている。“大概因为顾客不多，她坐在那儿看书”（客が少ないからか、彼女はそこに座って本を読んでいた）、“装饰着桃花台布”（桃の花の模様のテーブルクロスが飾りとしてかけてある）の部分を省略した（7’）、（8’）が成立しないことからも分かるように、“年轻貌美”（若くて綺麗）、“一尘不染”（少しも汚れていない）のような形容詞構造のみでは成り立たず、眼前性を有する動詞を必要とするのである。また、以下の（9）が示すように、属性を表す名詞述語も場面描写性を持たないため、形容詞と同様、不定名詞主語文にそぐわない。

（9） *一个壮汉常山人。（=（6a））

以上、不定名詞主語文の述語は典型的には動詞で構成されるということを述べてきたが、これは、すなわち、動詞という形式を用いて描写性機能を果たすこのような構文が、非典型的な描写文であることを意味する。そして、事態文は通常動詞によって表されることから、非事態文か事態文かという視点から見ると、不定名詞主語文は典型的には事態文になると言えるだろう。実際、筆者が集めた 501 例中、（10）のような非事態文は存在するものの、23 例（4.8%）と少なく、（11）のような事態文が 95.2%を占めており、圧倒的に多い。この数字も、事態文が典型的な不定名詞主語文であることを明確に示している[①]。

（10） 阴森森的 古柏 中 飘游着 紫蒙蒙 的 雾气，一株 古柏
薄暗い 古いコノテガシワ 中 漂う-DUR 紫がかった SUB 霧 1CL 古いコノテガシワ
的 树干 赫然 挂着 一面 暗红色 的 锦旗。
SUB 木の幹 いきなり かかる-DUR 一枚 くすんだ赤 SUB 錦の旗
（薄暗い古いコノテガシワの木々の中を紫がかった霧が漂っている。一本の古いコノテガシワの木の幹にくすんだ赤の錦の旗が掛かっているのにはっと気づいた）
――陈建功《放生》

（11） 一个 不幸的 预感 蓦地 震动了 他。他 在 马圈 里 慌慌张张地 卸着
1CL 不幸である 予感 突然 揺るがす-PFV 3SG 3SG で 厩 中 慌てて 卸す-DUR
牲口， 魏 老汉 的 老伴 就 找 他 来了。
役畜 魏 お爺さん GEN 連れ合い すぐに 訪ねる 3SG 来る-PFV

---

① 非事態文である不定名詞主語文でも、その述語は完全に静的なものにはならない。“放着”（置いてある）を用いた a と比べると、明らかに静的である動詞の“有”（ある）を用いた b は不自然である。
a. 一张桌子上放着一台旧式笔记本电脑。（机の上には 1 台の旧式のノート型パソコンが置いてある）
b. ?一张桌子上有一台旧式笔记本电脑。（?机の上には 1 台の旧式のノート型パソコンがある）
また、（10）における“挂着”（掛かっている）を“有”（ある）にした場合、成立しなくなる。
*一株古柏的树干（上）有一面暗红色的锦旗。
（?一本の古いコノテガシワの木の幹にくすんだ赤の錦の旗がある）
これも、不定名詞主語文には静的な述語を使用できず、動的な述語を用いなければならないということを示している。

（彼は突然不幸な予感に襲われた。厩で慌てて馬から鞍を外したところへ、魏お爺さんの連れ合いが訪ねてきた）

――张贤亮《邢老汉和狗的故事 序》

以上のことから、不定名詞主語文は典型的には事態文、つまり動的な構文であると言うことができ、同構文の述語形式および構文の特徴は次のようにまとめることができる（「＞」は前方が後方よりも典型的であることを表す）。

（12） 動詞 ＞ 形容詞・名詞
事態文 ＞ 非事態文
動的 ＞ 静的

2.2 明確な限界性を持つ点的な事象

動的な事象を表す不定名詞主語文の事態文は、明確な限界点を持たなければならない。これについては第 3 章で詳しく述べたが、ここでもう一度、“来”（来る）、“笑”（笑う）などの動詞が用いられる際の制約を整理することによって、同構文が表す点的な特徴を確認しておきたい。

（13）a.??一个 星期日，两位 外宾 来了。
ある 日曜日 2CL 外国人のお客さん 来る-PFV/MOD
（ある日曜日、二人の外国人のお客さんが来た）
b. 一个 星期日，两位 外宾 来到 这 家 餐厅……
ある 日曜日 2CL 外国人のお客さん 来る-着く この CL レストラン
（ある日曜日、二人の外国人のお客さんがこのレストランに来た）

――范继淹 1985:324

（14）a.??休息室 里，一个 小 女孩 笑了。
休憩室 中 1CL 小さい 女の子 笑う-PFV/MOD
（休憩室で、一人の女の子が笑った）
b. 休息室 里，一个 小 女孩 笑了起来。
休憩室 中 1CL 小さい 女の子 笑う-PFV-始める
（休憩室で、一人の女の子が笑い出した）
c. 休息室 里，一个 小 女孩 笑弯了 腰。
休憩室 中 1CL 小さい 女の子 笑う-曲がる-PFV 腰
（休憩室で、一人の女の子が身を捩って笑っている）

（13a）における“来了”（来た）は限界点が明確でない（詳細は 3 章 3.2 を参照されたい）

ため、（13b）のように“到这家餐厅”（このレストランに）のような補語をつけてはじめて自然な文になる。また、（14a）については、“笑了”（笑った）のみでは具体性に乏しいため、（14b）のように“笑了起来”（笑い出した）のような形で事態の始まりを示したり、若しくは（14c）のように“笑弯了腰”（身を捩って笑っている）のような形で結果をはっきり述べることで事態の終わりを示したりしければならない。つまり、補語を付加することによって、文の中核である動詞の表す動きの局面を細かく描き、始まりや終わりなどの相を明確に示す必要があるのである。

なお、不定名詞主語文の述部には次の（15）、（16）に示す到達（achievement）を表す動詞の使用も観察できる。これらの動詞は動きの始まりと終わりが重なっているという瞬間的な意味を持ち、点的な特徴を示している。

（15）　“啪”　的　　一声，　　一个　大　　气球　破了。

ぱんと SUB　音が 1 つする　1CL　大きい 風船　破れる-PFV/MOD

（ぱんと、一つの大きな風船が破れた。）

（16）　在　此前　　一小时，一个　十一岁　的　女孩　　刚刚　　离去。

に　これより前　1 時間　　1CL　11 歳　　SUB　女の子　たった今　立ち去る

（今から一時間前、ある 11 歳の女の子がいなくなった）

――余华《世事如烟》

以上、本節では、不定名詞主語文は典型的には動的な事象を表し、その述語は点的な特徴を持つということを述べた。同構文によって表される事象の特徴は次の（17）のように図示することができる。

（17）典型的な不定名詞主語文の表す事象：　・　（=点）

3. 線的事象を表す線的概念前置構文

本節では第 4、5 章の議論を踏まえて、線的概念が文頭に用いられる文の表す事象について検討する。前述したように、不定名詞主語文は場面描写機能を持つため、述語は意味的に場面レベル述語（stage-level predicate）でなければならないという制約を受ける。そのため、“跑了过来”（走ってきた）のような場面レベル述語を用いた（18）は自然であるが、“是”（だ）のような個体レベル述語（individual-level predicate）を用いた（19）は成立しない。

（18）　一个　壮汉　　跑了过来。

1CL　屈強な男　走る-PFV-通る-来る

（一人の屈強な男が走ってきた）

（19）　*一个 壮汉　　是　山东人。

1CL　屈強な男　COP　山東人

（一人の屈強な男は山東の出身だ）

（18）における“一个壮汉”（一人の屈強な男）は点的概念であるが、これに対し、“一屋子的壮汉”（ひと部屋の屈強な男）のような複数の点からなる集合体は、話し手が心の中で連続走査（sequential scanning）を行う際には、線的概念として捉えられる。山梨 2000:166 が「われわれの主観的な認識の世界では、一次元上に間隔をおいて連なる存在（ないしは状態）が、状況により（空間的ないし時間的な）一次元の連続体としての軌道のトラジェクターとして把握される傾向が認められる」と述べているが、“一屋子的壮汉”（ひと部屋の屈強な男）は、まさに、そのような捉え方を反映した表現であると言えるだろう。さて、このような線的概念が文頭に用いられる際、必ずしも場面レベル述語が用いられるとは限らない。例えば個体レベル述語“是”（だ）を用いた（20）のような文は自然である[②]。

（20）　一屋子 的　壮汉　　都　　是　山东人。

1 部屋　SUB　屈強な男　みな　COP　山東人

（部屋を埋め尽くしている屈強な男はみな山東の出身だ）

（21）??一屋子 的　壮汉　　Φ　　是　山东人。

1 部屋　SUB　屈強な男　　COP　山東人

（?部屋を埋め尽くしている屈強な男は山東の出身だ）

（21）が成立しないことからも分かるように、（20）の“都”（みな）は通常省略できない。第 5 章で論じたように、“都”（みな）は状態（state）を表す“是”（だ）に限界点を付与するため、“都”が加わった述部は次のような閉じた線的な様相を呈していると見なせる。

（22）“都是”（みな～だ）が示す事象：　　（=線分）

実際、このような線的な述部は、一種の静的な特徴を示している。例えば、（23）が示すように、“跑了”（逃げた）という動的な述語はそのままでは述部にはなれず、（24）のように“都”（みな）を加えて静態化する必要がある。

（23）　?一屋子 的　壮汉　　跑了。

1 部屋　SUB　屈強な男　逃げる-PFV/MOD

（部屋を埋め尽くしている屈強な男が逃げた）

---

② （20）のような場合、話し手の心の中では「屈強な男、屈強な男、屈強な男」のように、認定が逐次組み立てられていくと考えられ、心的走査（mental scanning）を伴っていると見なせる。

（24）　一屋子 的　壮汉　都　跑了。

1 部屋　SUB　屈強な男 みな　逃げる-PFV/MOD

（部屋を埋め尽くしている屈強な男がみな逃げた）

要するに、線的概念が前置される文では、述部は静的な性質を持たなければならず、これは、この構文が典型的には静的で線的な特徴を有するということを意味する。

4. “三个人”が文頭に来る場合

2 節と 3 節ではそれぞれ不定名詞主語文、線的概念前置構文の特徴を整理し、典型的には、前者は点的・動的な事象を表し、後者は線的・静的な事象を表すということを指摘した[③]。

（25）典型的な不定名詞主語文：　点的、動的

典型的な線的概念前置構文：　線的、静的

さて、“三个人”（三人）のような数量表現が文頭に来る場合、上記の 2 つの構文のいずれにもなりうると考えられるが、この現象は、認知言語学の視点から無理なく説明することができる。まず、次の a）から c）のイメージは（26）のように表せる（（26）の左の点が a)、真ん中の三つの点が b)、右の横線が c）を表す)。

a) “一个小伙子”（一人の若い青年）のような不定名詞、
b) “三个人”（三人）のような複数の個体を表す表現[④]、
c) “一屋子的人”（ひと部屋の人)、“整整三年”（まる三年)、“从 1 点到 3 点”（1 時から 3 時まで）のような線的概念を表す表現

（26）　・　・・・　━━

我々は、「同じ状況に対して、異なる属性を選び出してそれに注目し、それらの属性の顕著性（salience）を調整することで、異なる視点（perspective）から観察を加えたり、異なる程度の抽象化・具体化を図ったりして、異なるイメージを作ることができる[⑤]」（张敏

---

③ 不定名詞主語文が動的であり、線的概念前置構文が静的であることは、説明文の使用状況にも反映しており、不定名詞主語文は静的である説明文には使えないが、線的概念前置構文は使うことができる。
??一个好孩子要在家好好学习。（??一人のよい子は家でちゃんと勉強しなければならない）
一个下午，你都要在家好好学习。（午後、あなたはずっと家でちゃんと勉強しなければならない）

④ b）の“三个人”（三人）は一つの例であり、“四个人”（四人)、“六匹马”（六頭の馬）のような複数の個体を表す他の表現についても同様の説明ができる。このような個体は数が多いほど点、または線として見なされやすくなる。

⑤ “对于同一情景，可以通过选择不同的属性加以注意，调整这些属性的显著性（salience)，从不同的视

1998:106)。例えば、「識別できる複数の個体からなる群れは、遠く離れて見る時、視覚の中で次第に混沌とした塊になる。また、一定の距離を超えると、一列に並ぶ点は一本の線として感知されることがある⑥」(张敏 1998:120)。このように考えれば、(26) の真ん中の“三个人”(三人) は、観察の仕方によって点とも線とも捉えることが可能になる。このため、“三个人”(三人) を点として捉える際には左の不定名詞主語文に、線として捉える場合には右の線的概念前置構文に用いられるのだと考えられる。

先に“三个人”(三人) が不定名詞主語文に用いられる例について見てみると、その述部は明確な限界点を持つことが観察できる。

(27)　“现在做事还就得这样。”三个人奉承地笑起来。(=(1))

(27') ??“现在　做事　还　就　得　这样。”　三个人
今　事に当たる　まあ　ほかでもなく　しなければならない　そのように　3CL 人
奉承地　笑了。
へつらって　笑う-PFV/MOD
(今はそうしなくちゃ、と三人 (=於関、楊重、馬青) が追従して笑った)

(27) では、“起来”(し出す) という補語の使用によって、笑うという動きの局面 (=始まり) が細かく描かれている。この場合、“起来”(し出す) を省略した (27') のような言い方は成立しにくい。つまり“三个人”(三人) を用いた不定名詞主語文の事態文は高い限界性を持たなければならないのである。“挤出来”(押し合いへし合いしながら出てくる) を用いた (28)、“立即”(直ちに)、“立刻”(すぐに) のような瞬間性を示す副詞を用いた (29)、(30) からも同様の結論を導くことができる。

(28) 三个 瘦瘦　的　小伙子　从　人群　中　挤出来，　围住 我　好几只
3CL　痩せている SUB　若い青年　から　人込み　中　押し合う-出る-来る　囲む　1SG　何 CL もの
手　推搡着　我：“你　干　吗？”
手　ぐいぐい押す-DUR　1SG　2SG　する　何
(三人の痩せた若い青年が人込みの中から押し合いへしあいしながら出てきて私を囲み、いくつもの手が私を力いっぱい押している。「何をする」)
――王朔《玩的就是心跳》

(29) 警察 终于 走出了　岗亭。三个人 立即 围上去，旁边 的　人 也　停止了
警察　やっと 歩く-出る-PFV 交番　3CL 人　直ちに 囲む-行く　側　SUB　人　も　止める-PFV
吵嚷，一张张 屏息　专注　的　脸，鸦雀无声地　望着　警察。

点去观察，以及作不同程度的抽象化和具体化，等等，去形成不同的意象。”(张敏 1998：106)

⑥ “由可辨识的多个个体组成的一个群体，当我们离得够远时，它们在我们的视觉中就慢慢变为混沌的一团。在一定距离之外，一连串的点也会被感知为一条线”(张敏 1998：120)。

騒ぐ　1CLCL　息を殺す　集中する　SUB　顔　しんと静まって　眺める-DUR　警察

（警察官はやっと交番から出てきた。三人はすぐに囲みに行き、傍の人たちも騒ぎをやめ、息を殺して静かに警察官を見つめている）

——霍达《年轮》

（30）三个人 立刻 来了　兴趣，异口同声地 说：“记得　记得，　那　还

3CL 人　すぐに 来す-PFV 関心　口をそろえて　言う　覚えている　覚えている それ なかなか

忘得了！”

忘れられる

（三人はすぐに関心を示すようになり、口をそろえて「覚えている、覚えている。忘れられるもんか」と言った）

——王蒙《爱情》

また、当然のことながら、“三个人”（三人）を用いた不定名詞主語文の述語は眼前性を有する場面レベル述語でなければならない。次の（31）、（32）が示すように、名詞述語や“是”（だ）のような個体レベル述語は使用できない。

（31）??三个人 常山人。

3CL 人　常山人

（三人は常山の出身だ）

（32）??三个 老头子　是　客人。

3CL　お爺さん　COP　客

（三人のお爺さんはお客さんだ）

以上、“三个人”（三人）が不定名詞主語文に入るケースについて見てきたが、次に線的概念前置構文に用いられる例を見ていきたい。“三个人”（三人）が線的概念前置構文に用いられる際、その述語は線的で静的な特徴を持っており、場面レベル述語でなければならないという制約も受けない。例えば次の（33）、（34）はいずれも個体レベル述語である。

（33）三个 老头子 都　是　客人，主人 老汉　出去　放牧了，　没有

3CL　お爺さん　みな COP　客　主人　お爺さん　出る-行く 放牧する-PFV/MOD　NEG

回来。

帰る-来る

（三人のお爺さんはみなお客さんだ。主人のお爺さんは放牧に出かけていて、戻ってきていない）

——王蒙《杂色》

（34）三个 大人 都　是　男的，她 一个 也　不　认识。
3CL　大人　みな　COP　男　3SG　1CL　も　NEG　知る
（三人の大人はみな男で、彼女は誰も知らない）
――梁晓声《冉之父》

次の（35）における“不动”（動かない）も状態的であり、上記の（33）、（34）と同様に線的概念前置構文の静的な特徴を明確に示している。

（35）三个 绿 脸 都　不　动，六只 眼 一齐 凝视着　他，像　三只 猫　一齐
3CL　緑　顔　みな NEG 動く　6CL　目　同時に　凝視する-DUR 3SG まるで 3CL　猫　同時に
看着　个　老鼠　那样。
見る-DUR　CL　鼠　そのようだ
（緑色に塗った三つの顔はみなびくともせず、六つの目がじっと彼を見ている。まるで三匹の猫が一斉にねずみを見つめているようだ）
――老舍《四世同堂》

また、“三个人”（三人）を用いた線的概念前置構文では、点的な動詞はそのままでは使用できず、線的にする効果を持つ修飾成分を伴わなければならない。例えば、次の（36）、（37）、（38）では、“笑了”（笑った）、“喝醉了”（飲んで酔っ払った）のような点的な述語はいずれも“都”（みな）を必要とする。

（36）三个人都笑了。笑中都深藏着酸楚。（=（2））
（37）三个人 都　笑了。　“可　他 家 现在 一点 也 不　平安！” 润叶
3CL　みな　笑う-PFV/MOD　しかし　3SG　家　現在　少し　も　NEG 無事　潤葉
对　她　二爸　说。
に向かって　彼女　叔父さん　言う
（三人とも笑った。「でも彼の家は今ちっとも無事じゃない」と潤葉が叔父さんに言った）
――路遥《平凡的世界》

（38）三个人 都　喝醉了，　季鹏 把　女孩子 架上　车，晓明　道，
3CL 人　みな　飲む-酔う-PFV/MOD　季鵬　～を　女の子　支える-上る　車　暁明　言う
这样　不　好　吧，　害了　人家　一辈子。
このように　NEG　良い　だろう　害を与える-PFV　人　一生
（三人とも酔っ払った。季鵬はその女の子を支えて車に乗せたが、「こうするのは良くないよ、その子を一生傷つけちゃう」と暁明は言った）
――张欣《今生有约》

その証拠に、“都”（みな）を省略した次の（36’）、（37’）、（38’）はいずれも不自然である。

（36’）??三个人 笑了。　　笑中　都　深　藏着　　酸楚。
3CL 人　笑う-PFV/MOD　笑いの中　皆　深く　潜む-DUR　苦しみ
（三人が笑った。笑いの中に苦しみが滲んでいた）

（37’）??三个人 笑　了。“　可　　他 家　现在 一点 也 不　平安!” 润叶
3CL 人　笑う-PFV/MOD　しかし　3SG　家　現在　少し　も　NEG　無事　　潤葉
对　　她　二爸　说。
に向かって 彼女　叔父さん 言う
（三人が笑った。「でも彼の家は今ちっとも無事じゃない」と潤葉が叔父さんに言った）

（38’）??三个人喝醉了，　　季鹏 把　女孩子 架上　　车，晓明 道，这样　不
3CL 人　飲む-酔う-PFV/MOD 季鵬　～を　女の子　支える-上る 車　暁明　言う このように NEG
好　吧，　害了　　人家　一辈子。
良い　だろう　害を与える-PFV　人　　一生
（三人とも酔っ払った。季鵬はその女の子を支えて車に乗せたが、「こうするのは良くないよ、その子を一生傷つけちゃう」と暁明は言った）

5. おわりに

本章では、不定名詞主語文と線的概念前置構文の特徴を整理した上で、“三个人”（三人）のような数量表現が文頭に置かれる文が不定名詞主語文と捉えられる場合と線的概念前置構文と捉えられる場合について考察した。このような数量表現の構文機能は、いずれの場合においても非典型的な用法と言える。

小野 2002:208 によると、描写は現実世界に存在する人や事物、ならびにそれに付帯する数量や形状という具体的事物のありさまを指すという。“三个人”（三人）は“三个”（三つ）という数量を含んでおり、具体的事物の数量を表すという意味において、既に描写を含んだ表現になっていると見なせる。このような名詞句は様態を伴った“一个壮汉”（一人の屈強な男）、形状を明確に表す“一个大鼻子美国人”（一人の鼻の高いアメリカ人）のような名詞句と同様に、定名詞句に近い情報を持つため、主題・主語の位置に現れる資格をもつ。

しかし、“三个人”（三人）のような数量表現は定名詞句と等価ではなく、“这三个人”（この三人）のような典型的な定名詞句と比べると文法的な制約をうけやすくなる。例えば、（39）と（40）の自然度の差からも分かるように、“三个人”（三人）の後ろには“姓”（苗字は～だ）のような個体レベル述語が来にくい。

（39） 这 三个人 姓 王。

この 3CL 人 姓 王

（この三人は王という苗字だ）

（40）??三个人 姓 王。

3CL 人 姓 王

（?三人は王という苗字だ）

また、次の（41）、（42）が示すように、“这三个人”（この三人）と異なり、“三个人”（三人）の後にはポーズを置くことができない（「…」はポーズを表す）。

（41）a. 这 时，这 三个人…一下子 冲了出去。

この 時 この 3CL 人 急に 突進する-PFV-出る-行く

（この時、この三人が…飛び出して行った）

b.??这 时，三个人…一下子 冲了出去。

この 時 3CL 人 急に 突進する-PFV-出る-行く

（この時、三人が…飛び出して行った）

（42）a. 这 三个人…都 姓 王。

この 3CL 人 みな 姓 王

（この三人とも…王という苗字だ）

b.??三个人…都 姓 王。

3CL 人 みな 姓 王

（三人とも…王という苗字だ）

（41b）が不自然であることは、不定名詞主語文に用いられる“三个人”（三人）が典型的な主語として機能していないということを示している。また、（42）における“三个人”（三人）の後ろにポーズが置けないということは、この場合の“三个人”（三人）は典型的な主題とは考えられないことを意味している。そして、これらの言語事実は、“三个人”（三人）のような数量表現が文頭に用いられる文の非典型性を明確に示している。

終　章　数量表現前置構文の位置づけ

1. はじめに
2. 機能から見る文のタイプ
3. 各数量表現前置構文の機能とタイプ
4. まとめと残された課題

1. はじめに

本稿は、動詞の前に現れる数量表現が主語（主題）及び連用修飾語として機能する次のような構文について考察してきた。

a. 数量詞並列構文
b. 数量対応構文
c. 不定名詞主語文
d. 線的概念前置構文

いずれの構文においても、数量表現は動詞の前に用いられているが、典型的な主語（主題）にはならず、構文 b では連用修飾語、c では非典型的な主語、a と d では非典型的な主題として機能している。

本章では、これらの構文を「文のタイプ」という観点から考察する。まず、先行研究による機能に基づく文分類を整理し、次に、その分類に基づいて数量表現が前置される上記の構文の意味機能を検討し、各構文間の関係を考察する。

2. 機能から見る文のタイプ

朱德熙 1982:23 は中国語の文を機能の面から“陈述句”（平叙文）、“疑问句”（疑問文）、“祈使句”（働き掛け文）、“称呼句”（呼び掛け文）、“感叹句”（感嘆文）の五つに分類している。また、杨凯荣 2003 は、平叙文を、次の（1）のように“事件句”（事態文）、“状态描写句”（状態描写文）、“说明句”（説明文）、“判断句”（判断文）などに分けている（p.55）。

（1）a.　她　来了。（彼女が来た）　〔事態文〕
3SG　来る-PFV/MOD

b.　她　打扮得　漂漂亮亮 的。（彼女は綺麗に着飾っている）　〔状態描写文〕
3SG　着飾る-COMP　綺麗　SUB

c.　她　是　坐　车 来　的。（彼女は車で来た）　〔説明文〕
3SG　FOC　乗る　車　来る　MOD

d.　她　会　来　的。（彼女は来るはずだ）　〔判断文〕
3SG　するだろう　来る　MOD

（1a）のような事態文は事態が発生したことを伝えるタイプの文であり、典型的には“了”を伴う。このタイプの文は主として人物、事物の出現、消失のみに関心を示すものであり、事態の発生に伴うさまざまな付帯的状況の叙述には不向きである。したがって、次の（2a）、（2b）に示されるように、場面描写などの要素の付加は制約を受けやすい。

（2）a. ?她　高高兴兴地　来了。
3SG　楽しそうに　来る-PFV/MOD
（彼女は楽しそうに来た）

b. ?笑容满面　的　她　来了。
満面に笑みをたたえる　SUB　3SG　来る-PFV/MOD
（満面に笑みをたたえている彼女が来た）

付帯的状況に関心を示さず、事態の発生だけを述べるというこのような特徴から、本稿ではこのタイプの平叙文を事態発生報告文と呼ぶことにする。出現、消失を表すタイプの存現文がこの類の典型であると考えられる。

次に、（1b）のような状態描写文は、視覚、聴覚などで捉えられるものであることから、描写文の典型であると考えられる。本稿では、描写という概念を広く捉え、現実世界に存在する具体的事物のありさまのみならず、具体的事態のありさま（始まり、終わり、数量など）も「描写」と捉える。即ち、本稿でいう描写文は具体的事物、具体的事態、ならびにそれに付帯する形状や数量などを叙述する文である。先に述べた事態発生報告文との共通点としては、現実世界に存在することを前提にしているという点が挙げられる。また、相違点としては、事態発生報告文は事態の発生に伴う付帯的状況を叙述する際には通常用いられないのに対し、描写文は次の（3）に示されるように、発生していることを前提にしてその事物、事態のありさまを具体的に叙述するのに用いられるという点である。

（3）　**事態発生報告文**　　**描写文**

a. 她　来了。　→　a’. 她　高高兴兴地　来到　图书大厦。
3SG　来る-PFV/MOD　　3SG　楽しそうに　来る-着く　ブックセンター
（彼女が来た）　（彼女は楽しそうにブックセンターに来た）

b. 她　笑了。　b’. 她　咯咯地　笑了起来。
3SG　笑う-PFV/MOD　　3SG　ほほほっと　笑う- PFV-始める

（彼女が笑った）　　（彼女はほほほっと笑い出した）

（3）における事態発生報告文と描写文はいずれも「来る」、「笑う」という発生した事態を述べており、いずれも現実世界に存在しているものであるが、左側の事態発生報告文（3a）、（3b）は「来る」、「笑う」の発生を述べるにとどまっている。これに対して、右側の描写文（3a’）は「来る」時の様子、到着の場所、（3b’）は具体的な笑い方、「笑う」という動作の段階（ここでは始まり）まで表現している。

次に、（1c）のような説明文は、既然の出来事に対して時間、場所、手段、随伴者などを加えて説明を行う文である。説明文においては、論理関係などを際立たせるために、既然の文でも“了”を省略することができ、また通常“没”を用いるべきところに“不”を使うことができる。

（4）a.　她　昨天 发烧了。
3SG　昨日　熱が出る-PFV/MOD
（彼女は昨日熱が出た）
b. *她　昨天 发烧。
3SG　昨日　熱が出る
（*彼女は昨日熱が出る）
（5）　她 昨天 因为　发烧（了）　而　没　去　参加　比赛。
3SG 昨日　なので　熱が出る（-PFV/MOD）　それで　NEG 行く 参加する 試合
（彼女は昨日熱があって試合に参加しなかった）

（4a）が示すように、過去のある時点において熱が出たという変化を示すには、通常“了”を伴い、“了”を省略した（4b）のような文は成立しにくい。これに対して、時間を捨象した論理関係を示す（5）のような文においては、“了”の省略は可能になる。

（6）a.　她　昨天 没　来。
3SG　昨日　NEG　来る
（彼女は昨日来なかった）
b. *她　昨天 不 来。
3SG 昨日　NEG 来る
（*彼女は昨日来ない）
（7）a.　她　昨天 没　来，怎么　不　请假?
3SG　昨日　NEG 来る どうして NEG 休みを取る
（彼女は昨日来なかったのに、どうして休みを取らなかったの）

b.　她 昨天 不　来，怎么　不　请假?
3SG 昨日　NEG　来る どうして　NEG　休みを取る
（彼女は昨日来ないのに、どうして休みを取らなかったの）

また、(6a)、(6b) に示されるように、既然の出来事を述べる文では通常“不”ではなく、“没”を用いて否定しなければならないが、(7b) が成立することからも分かるように、「来ない」と「休みを取る」との関係を問題にするような文脈では、一般論としての否定詞である“不”の使用も可能である[①]。この場合、個別の行動をわざわざ一般常識として論じることによって非難のニュアンスが強くなるのだと考えられる。要するに、説明文は、動作の完了・事態の発生を含意しながら特に概念的、論理的関係を問題にするタイプの文であり、時空間は背景化、あるいは捨象されているのである。従って、説明文は、現実世界を超越した一種の非現実世界の述べ方であると言うことができる。

以上、事態発生報告文、描写文、説明文の特徴について述べたが、(1d) のような判断文については話し手の心的態度を含み、事態発生報告文、描写文と比べて、より説明文に近い述べ方であることから、便宜上ここでは説明文と区別せず、同種類のものと看做す。中国語の平叙文のタイプとそれぞれの特徴をまとめると次の (8) ようになると考えられる[②]。

(8)　中国語の平叙文のタイプ

文のタイプ	事態発生報告文	描写文	説明文 (判断文も含む)
特　　徴	現実世界に存在する具体的事態発生の叙述	現実世界に存在することを前提にした事物・事態のあり方の叙述	概念的、論理関係の叙述。必ずしも現実世界に存在しなくて良い

以上、本節では機能の面から平叙文のタイプについて論じた。次の 3 節においては、数量表現前置構文の機能を上記の分類に基づいて検討し、構文間の関係を明らかにする。

3. 各数量表現前置構文の機能とタイプ

本稿で論じてきた各数量表現前置構文の意味機能をまとめると次のようになる。

---

① 以下の例からも明らかなように、論理関係を示す複文においても、説明文と同様に、既然の文でしばしば“了”が省略されたり（イ、ロ）“没”の代わりに“不”が使われたりする（ハ）。
イ. 如果你来北京（了），我就为你当向导。(あなたが北京に来たら、ガイドになってあげます)
ロ. 即使父母反对（了），我也和他结婚。(たとえ両親が反対しても私は彼と結婚します)
ハ. 如果半路上不出故障，我早就到了。(途中で故障しなかったら、とっくに着いていたのに)

② 本節で、平叙文の分類を整理し、事態発生報告文、描写文、説明文それぞれの特徴を概観したのは、このような分類が、数量表現前置構文の機能を検討する上で有効であると考えられるためであり、平叙文の分類自体は本稿の目的ではない。

a. 数量詞並列構文：
　ある集合における内部メンバーの異なる性質を叙述する。
b. 数量対応構文：
　二つの要素間の量的対応関係を叙述する。
c. 不定名詞主語文：
　ある事物が存在する場面を描写する。
d. 線的概念前置構文：
　ある 2 点間における均質的な状況を叙述する。

先に述べたように、中国語の平叙文には事態発生報告文、描写文、説明文などのタイプがあるが、上記の数量表現前置構文はいずれも事態発生報告文というタイプには該当しない。不定名詞主語文は「事態を述べる文」ではあるが、（9）に示されるように場面描写性を持たなければならず、（10）のように純粋に事態発生の報告をする場合には用いられない。

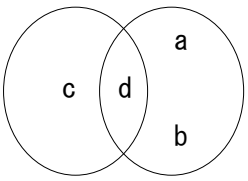
（9）　休息室 里，一个　小　女孩　笑弯了　　腰。
　休憩室　中　1CL　小さい　女の子　笑う-曲がる-PFV　腰
　（休憩室で、一人の女の子が身を捩って笑っている）
（10）??休息室 里，一个 小　女孩　笑了。
　休憩室　中　1CL　小さい　女の子　笑う-PFV/MOD
　（休憩室で、一人の女の子が笑った）

したがって、数量表現前置構文の全般的特徴は、次のようにまとめることができる。

（11）　中国語の数量表現前置構文は、純粋に事態発生の報告をするのには不向きであり、いずれも描写・説明の機能を有するものである。

また、各構文間の関係は次の（12）のように整理することができる。

（12）



描写文　説明文

左側の描写文の集合に入る不定名詞主語文 c は最も描写性が強い構文であり、右側の説明

文の集合に入る数量詞並列構文 a、数量対応構文 b は説明文の性格が強い構文ということができる。真ん中にある線的概念前置構文 d は描写文の集合と説明文の集合の両方に入り、描写文、説明文両方の性格を併せ持っている。つまり、線的概念前置構文 d は「説明文」であるという点では a、b と共通し、c とは異なり、また、「描写文」であるという点では、c と共通し、a、b とは異なっているのである。線的概念前置構文 d が a、b と同じ説明文のメンバーとして不定名詞主語文 c と異なっている点、描写文のメンバーとして a、b と異なっている点は、それぞれ次のように説明することができる。

描写文 c と説明文 d、a、b との違い（c ≠ d、a、b）

不定名詞主語文は現実世界における事態の具体的な述べ方である。これに対し、線的概念前置構文、数量詞並列構文、数量対応構文は典型的には概念的、論理的な述べ方である。例えば、必要性を表す助動詞の“要”（しなければならない）は（13a）、（13b）、（13c）のように線的概念前置構文、数量詞並列構文、数量対応構文には入るが、（14）に示されるように不定名詞主語文には入らない。

（13）a.　一个 下午，你　　都　要　　在 家　好好　　学习。
1CL　午後　2SG　みな　しなければならない　で　家　ちゃんと　勉強する
（午後、あなたはずっと家でちゃんと勉強しなければならない）

b.　今晚 吃　的 鱼，一条 要　　红烧，　　一条 要
今晚 食べる SUB 魚　1CL　しなければならない 醤油油煮込み　1CL　しなければならない
清蒸。
蒸籠で蒸す
（今日の晩御飯で食べる魚は、一匹は醤油油煮込みにして、もう一匹は蒸籠で蒸さなければならない）

c.　那时候 的　男生 宿舍，要　　八人 住　一房间。
その頃　SUB　男性　寮　しなければならない 8CL　住む 1 部屋
（その頃の男性寮は、八人で一部屋に住まなければならなかった）

（14）　??一个 好 孩子　要　　在 家　好好　　学习。
1CL　良い　子　しなければならない　で　家　ちゃんと　勉強する
（??一人のよい子は家でちゃんと勉強しなければならない）

（13）と（14）の違いは、不定名詞主語文が動態的な構文であるのに対し、線的概念前置構文、数量詞並列構文、数量対応構文は静態的な構文であることを示唆している。そして、このことは、不定名詞主語文の述語は完全に静的なものにはならないのに対し、線的概念前置構文、数量詞並列構文、数量対応構文の述語には完全に静態的なものも現れるという事実によっても裏付けられる。次の（15）では、完全に静的な動詞“有”（ある）を用いた

（15b）は、“放着”（置いてある）を用いた（15a）と比べると明らかに不自然であり、（16）では、（16a）の“挂着”（掛かっている）を“有”（ある）にした場合、成立しなくなる。

（15）a. 一张 桌子 上 放着 一台 旧式 笔记本电脑。
1CL 机 上 置く-DUR 1CL 旧式の ノート型パソコン
（机の上には 1 台の旧式のノート型パソコンが置いてある）
b. ?一张 桌子 上 有 一台 旧式 笔记本电脑。
1CL 机 上 ある 1CL 旧式の ノート型パソコン
（?机の上には 1 台の旧式のノート型パソコンがある）

（16）a. 阴森森 的 古柏 中 飘游着 紫蒙蒙 的 雾气，一株 古柏 的 树干 赫然 挂着 一面 暗红色 的 锦旗。
薄暗い SUB 古いコノテガシワ 中 漂う-DUR 紫がかった SUB 霧 1CL 古いコノテガシワ SUB 木の幹 いきなり かかる-DUR 一枚 くすんだ赤 SUB 錦の旗
（薄暗い古いコノテガシワの木々の中を紫がかった霧が漂っている。一本の古いコノテガシワの木の幹にくすんだ赤の錦の旗が掛かっているのにはっと気づいた）
——陈建功《放生》
b. *一株 古柏 的 树干（上）有 一面 暗红色 的 锦旗。
一本 古いコノテガシワ SUB 木の幹 上 ある 一枚 くすんだ赤 の 錦の旗
（?一本の古いコノテガシワの木の幹にくすんだ赤の錦の旗がある）

これに対し、線的概念前置構文、数量詞並列構文、数量対応構文では（17a）、（17b）、（17c）のように完全に静的な述語も使用できる。“很笨”（とても不器用である）、“是”（コピュラ）、“一个组四五户人家”（一組四五世帯）は動態性のない述語だと言える。

（17）a. 上 高中 以前，整整 十五年，他 始终 很 笨。
通う 高校 以前 まるまる 15 年 3SG 始終 とても 不器用
（高校に入学する前のまるまる 15 年間、彼はずっと不器用だった）
b. 我们 中国 的 少数民族 最多 的 地区，一个 是 西北，一个 是 西南。
1PL 中国 SUB 少数民族 最も多い SUB 地区 1CL COP 西北 1CL COP 西南
（わが中国で少数民族が最も多い地域は、一つは西北地区、もう一つは西南地区である）
——（対）邓小平文选
c. 在 短短 的 几天 之 内，双水村 的 第一生产队 就 化成了 十几 个 责任组。一般 一个组 四五 户 人家。
で 短い SUB 数日間 SUB うち 双水村 GEN 第一生産隊 すぐに に変わる-PFV 十数 CL 責任組 普通 1CL 組 四、五 CL 世帯

（ほんの数日間で、双水村の第一生産隊は十いくつの生産責任組に変わった。普通は一組四五世帯。みな自らくっついたもので、大概親子か親戚の人たちが一緒になっている）

——路遥《平凡的世界》

描写文 c、d と説明文 a、b との違い（c、d ≠ a、b）

描写文は現実世界における具体的事物、具体的事態のあり方を描く文であり、事物、事態の存在を前提としながら存在の様態なども文の中に織り込むという具体的な述べ方である。したがって、（18a）のように様態を含まず事物の存在のみを表す“有”（ある）は、描写性を求める不定名詞主語文には不自然であり、（18b）のように“放着”（置いてある）といった述語を用いて存在の状況を具体的に述べなければならない。

（18）a. ?一张桌子上有一台旧式笔记本电脑。（=（15b））
　　b.　一张桌子上放着一台旧式笔记本电脑。（(15a)）

このように、描写文の述語は通常具体的なものでなければならず、描写性を有する不定名詞主語文も線的概念前置構文もふつうは述語の省略ができない。動詞を省略した（19b）、（20b）が不自然になるのはこのためだと考えられる。

（19）a.　走廊 上，　一个 小　女孩　笑得　　满脸　　通红。
　　廊下　方位詞　1CL　小さい 女の子　笑う-COMP　顔じゅう　真っ赤
　　（廊下で、１人の女の子が笑って顔が真っ赤になっている）
　　b.??走廊 上，　一个 小　女孩　满脸　通红。
　　廊下　方位詞　1CL　小さい 女の子　顔じゅう 真っ赤
　　（廊下で、１人の女の子が顔が真っ赤になっている）
（20）a.　整个 下午，小王　懒洋洋地　躺　　在 草坪 上。
　　全部　午後　王くん 気だるそうに　横になる　に　芝生　上
　　（午後、王くんは気だるそうに芝生に横になっていた）
　　b.??整个 下午，小王　懒洋洋地　　在 草坪 上。
　　全部　午後　王くん 気だるそうに　　に　芝生　上
　　（午後、王くんは気だるそうに芝生に横になっていた）

これに対して、説明文はより概念的、論理的な記述に用いられる文であり、動詞の意味が薄く、構文の説明性が強いほど動詞の省略が可能になる。次の数量詞並列構文（21）、数量対応構文（22）はいずれも動詞が使われていない。

（21）　他们 两个人，一人　率　　一部，一个　里，一个　外；一个 在　重敌
3PL　2CL 人　　1 CL　率いる 一部隊　1CL　　中　1CL　　外　1CL　　で　重武装の敵
围攻中　　坚守　大别山，一个 在　外线　　实施　　运动展开。
包囲・攻撃する中 死守する 大别山　　1CL　で　敵を包囲する形の戦線 実施する　流動的な侵攻作戦
（二人は、一人が一部隊ずつを統率し、一方は内側へ、もう一方は外側へいった。一方は重武装の敵が包囲・攻撃する中で大別山を死守し、もう一方は敵を包囲して流動的な進攻作戦を行うことになった）

——（対）我的父亲邓小平

（22）　在短短的几天之内，双水村的第一生产队就化成了十几个责任组。一般一个组四五户人家。（=（17c））

4. まとめと残された課題

この終章では、文の機能という観点から数量表現前置構文の全般的特徴を考察し、数量表現前置構文が事態発生の報告には不向きであり、いずれも描写・説明の機能を持つということを明らかにした。数量表現前置構文がこのような機能を有するのは、数量表現が動詞の前、つまり文頭に置かれることに起因すると考えられる（（23）における‖の左側）。

（23）**主語（主題）－連用修飾語**　‖　述語－補語－目的語

数量表現はそれ自身には定性がないため、連用修飾語と見なされやすい。数量対応構文の場合はそうである。数量表現が主語（主題）として機能するためには、構文によって定性が付与されなければならず、不定名詞主語文や線的概念前置構文の場合は、描写性要素を伴うことによってもたらされ、数量詞並列構文の場合は、対比性を有する並列構造によって付与されると考えられる。数量表現の定性の獲得と構文との関係をまとめると次の（24）のようになる。

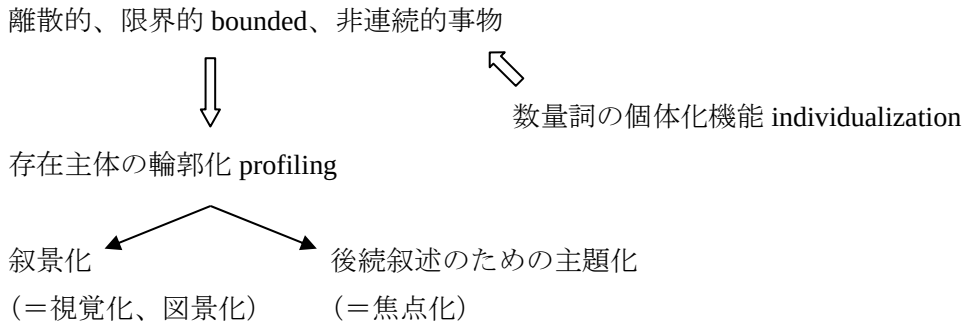
（24）

対比性	定性を獲得する方法	構　　文	ステータス
な　し	様態描写を伴う	不定名詞主語文	主　語
	数量という描写的要素を内包する	線的概念前置構文	主　題
あ　り	対比性を有する並列構造から	数量詞並列構文	主　題

なお、数量表現の果たす機能は、構文によって違いが見られる。数量表現（数量詞）は本来個体化（individualization）機能を果たすものであり、大河内（1985、1997:63）は「類名や総称である名詞は単体ではない。ある種の抽象の中にある。これを具体的世界の「も

の」にかえるのが“一个”（数量詞の総称：筆者注）の働きであり、その働きを経て、あれこれの指示が可能な「もの」となるのである」と述べている。また、木村 2009:5 は数量詞の機能を次のようにまとめている。

（25）



――木村 2009:5

数量対応構文の場合、数量詞がついた名詞句は個体化され、「離散的、限界的、非連続的事物」をあらわすものの、構文機能から二つの要素間の量的対応関係が際立たせられるため、個体性は弱くなる（背景化している）のである。不定名詞主語文においては、数量表現は非典型的な主語として機能し、存在主体が輪郭化され、さらに叙景化（=視覚化、図景化）されていると考えられる。また、線的概念前置構文と数量詞並列構文の場合は、数量表現は非典型的な主題として機能し、いずれも「後続叙述のための主題化（＝焦点化）」という段階まで来ているものと捉えられるだろう。

本稿は、動詞の前に用いられる「量」を表す数量表現、特に主語（主題）かどうかという議論の対象になりやすいものを中心に考察したが、「量」を表さない数量表現や、明らかに連用修飾語として機能する数量表現などについては、今後の研究課題としたい。

付録

参考文献

【英語】

Carlson, Grey.1977.*Reference to Kinds in English*. Ph.D. Dissertation, University of Massachusetts.

Chao, Yuenren.1968.*A Grammar of Spoken Chinese*, University of California Press. 吕叔湘译《汉语口语语法》2001:47 页。商务印书馆。

Goldberg, Adele E.1995.*Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, the University of Chicago Press.

Lambrecht, Knud.1994.Information Structure and Sentence Form: Topic, Focus, and the Mental Representations of Discourse Reference. *Cambridge University Press*. 206-333.

Li, Charles N. & Thompson, Sandra A.1976.Subject and topic: a new typology of language, *Subject and topic*, ed. by Charles N. Li, 457-489, New York: Academic Press.

Lyons,J.1977.*Semantics 1* Cambridge: Cambridge University Press.

Palmer, F. R.2001. *Mood and Modality*. Cambridge University Press.

Tai, James.1985.Temporal sequence and Chinese Word order. in J. Haiman（ed.）*Iconicity in Syntax*, John Benjamins.

Xu, Liejiong.1997.Limitations on subjecthood of numerically quantified noun phrases: a pragmatic approach, In Xu Liejiong (ed) *The Referential Properties of Chinese Noun Phrase.* Collections des Cahiers de Linguistique Asie Orientale 2. Centre de Recherches linguistiques sur 1'Asie Orientale. 25-44.

Yang Suying.2003.Definite and Indefinite NPs in Chinese and English. *Chinese Syntax and Semantics.*

Vendler, Zeno.1967.*Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press. 97-121.

【日本語】

相原まり子 2005.「中国語のフォーカス標示手段―“来”を中心に―」、『中国語学』252

黄文溥 2004.「シツヅケルの意味分析」、『世界の日本語教育』14:149‐165 頁。

今井俊彦 2003.「中国語における数量詞の意味と機能―二重目的語文を中心として―」、『中国語学』250

池上嘉彦 1981.『「する」と「なる」の言語学』、大修館書店

井上優 2003a.「文接続の比較対照―日本語と中国語―」、『時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究』，平成 13－14 年度科学研究費補助金（基盤研究 C（2））研究成果報告書、117 頁。

井上優 2003b.「「テンスの有無」と文法現象―日本語と中国語―」，『時間表現・空間表現の意味の構造化に関する日本語と中国語の対照研究』，平成 13－14 年度科学研究費

補助金（基盤研究 C（2））研究成果報告書、97 頁。
井上優・黄麗華 2000.　否定から見た日本語と中国語のアスペクト、『現代中国語研究』1。朋友書店、113-122 頁。中国語訳：从否定形式看汉语与日语的体，张黎、古川裕、任鹰、下地早智子主编《日本现代汉语语法研究论文选》，北京语言大学出版社。32-45 页。
井上優・生越直樹・木村英樹 2002.「テンス・アスペクトの比較対照――日本語・朝鮮語・中国語」、『対照言語学シリーズ言語科学－4』生越直樹編、東京大学出版会
ジョン・R・テイラー、瀬戸賢一 2008.『認知文法のエッセンス』、大修館書店、248‐253 頁。
亀井孝他編著 1996.『言語学大辞典』第 6 巻述語編、三省堂。
河上誓作編著 1996.『認知言語学の基礎』、研究社出版。21-25 頁。
木村英樹 1982.「テンス・アスペクト:中国語」、『講座日本語学 11』、明治書院
木村英樹 1996.『中国語はじめの一歩』、ちくま新書
木村英樹 1997.　‘変化’和‘动作’、『橋本萬太郎記念中国語学論集』、内山書店。
木村英樹 2001.「“从”から“到”までの文法」、『中国語』九月号、内山書店
木村英樹 2002a.「“的”の機能拡張――事物限定から動作限定へ」、『現代中国語研究』4、朋友書店
木村英樹 2002b.「アメリカにおける中国語文法研究の動向」，『中国語学』249:298-299。
木村英樹 2009.「現代中国語における存在表現の諸相と「時空間存在文」の特性」、『日本中国語学会第 59 回全国大会予稿集』、5 頁。
雷桂林 2003.「“从 A 到 B VP”構文再考」、『中国語学』250 号、92-93 頁。
雷桂林 2008.「不定名詞主語文の場面描写機能」、『中国語学』255 号、日本中国語学会。137-154 頁。
雷桂林 2010.「時間量表現前置構文の描写的特徴」、『言語情報科学』第 8 号、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、67-83 頁。
益岡隆志 2007.『日本語モダリティ探究』、くろしお出版、135-140 頁、199 頁。
森山卓郎 1988.『日本語動詞述語文の研究』、明治書院。
辻幸夫、鍋島弘治朗、篠原俊吾、菅井三実訳 2008.　『認知言語学のための 14 章』〈第三版〉、（原著：John R. Taylor（1989）*Linguistic Categorization*, Oxford University Press）紀伊国屋書店、339‐343 頁。
仁田義雄 1991.『日本語のモダリティと人称』、ひつじ書房。
仁田義雄 2001.「命題の意味的類型についての覚え書」、『日本語文法』1−1、日本語文法学会 5−23 頁。
尾上圭介 1985.「主語・主格・主題」、『日本語学』Vol.4。
小野秀樹 2002.「中国語における“分類”と“描写”――“名詞述語文”を成立させる要因から」、『未名』第 20 号、中文研究会（神戸大学文学部中文研究室）編。

小野秀樹 2008.『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』、白帝社。
大堀壽夫 2002.『認知言語学』、東京大学出版会。104 頁。
大堀壽夫・古賀裕章・山泉実訳 2006.『言語類型論入門――言語の普遍性と多様性』、岩波書店。Lindsay J. Whaley.1997.*Introduction to Typology The Unity and Diversity of Language*, Sage Publications, Inc.
大河内康憲 1967.「複句における分句の連接関係」,『中国語学』176, 大河内康憲著『中国語の諸相』, 1997 再録:104-105 頁。白帝社。
大河内康憲 1970.「“走了进来”について」、『中国語学論集』(伊地智善継編科研論文集)。大河内康憲著『中国語の諸相』、白帝社、1997 再録。
大河内康憲 1983.「描くための言葉」、『伊地智善継・辻本春彦両教授退官記念中国語学・文学論集』 東方書店:498-513。
大河内康憲 1985.「量詞の個体化機能」、『中国語学』232 号。大河内康憲著『中国語の諸相』、白帝社、1997 再録。
太田辰夫 1958.『中国語歴史文法』、江南書院。
定延利之 2002.「時間から空間へ?<空間的分布を表す時間語彙>をめぐって」、『対照言語学シリーズ言語科学－4』生越直樹編、東京大学出版会。
坂原茂 2000.「英語と日本語の名詞句限定表現の対応関係」、坂原茂編『認知言語学の発展』、ひつじ書房。222-223 頁。
佐藤富士雄 2000.「主語, 主題研究と中国語教育」、『中央大学論集』21。
佐藤富士雄 2002.「名詞句“一个人”の連用修飾語用法」、『中央大学論集』23。
澤田浩子 2006.「描写に関する個とステレオタイプ―談話から見る中国語の「存現文」―」、中川正之・定延利之編『言語に現れる「世間」と「世界」』、くろしお出版、79-103 頁。
柴谷方良 1985.「主語プロトタイプ論」、『日本語学』Vol.4。
菅井三実 1996.「現代日本語における（非）主題化文の構文的アスペクトについて」、『名古屋大学文学部研究論集（文学)』、11-18 頁。
杉村博文 2003.「択一対応と周遍対応および偏向指示」、『中国語学』250。
鈴木慶夏 2001.「対挙形式の意味とシンタクス」、『中国語学』248 号:182-198。
田窪行則・木村英樹 1997.「中国語・日本語・英語・フランス語における三人称代名詞の対照研究」、大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』、くろしお出版。
寺村秀夫 1993.「文法随筆その 1――思い出す学生たち　時間ガアリマセン」『寺村秀夫論文集Ⅱ－言語学・日本語教育編－』、くろしお出版、295-306 頁。
山梨正明 2000.『認知言語学原理』、くろしお出版。166-167 頁。
芳沢ひろ子 2004.「存現文に“在”がつくとき」、『お茶の水女子大学中国文学会報 21』お茶の水女子大学中国文学会。37-50 頁。
張佩茹 2006.「“只见”の接続機能」、『中国語学』253 号、353-372 頁。

【中国語】

陈　平 1987. 释汉语中与名词性成分相关的四组概念，《中国语文》第 2 期。
陈　平 1994. 试论汉语中三种句子成分与语义成分的配位原则，《中国语文》3:163。
储泽祥 2005. 肯定、否定与时量成分在动词前后的位置，《汉语学报》，第 4 期。
戴耀晶 1997.《现代汉语时体系统研究》，浙江教育出版社。
邓思颖 2003. 数量词主语的指称和情态，《语法研究和探索 12》：292-296 页。
丁　力 1999. 从问句系统看“是不是”问句，《中国语文》第 6 期。
范继淹 1985. 无定 NP 主语句，《中国语文》5：321-328 页。
范开泰 1992. 与汉语名词项的有定性有关的几个问题，《语法研究和探索（六）》。语文出版社。
方　梅 1996. 从“V 着”看汉语不完全体的特征，《语法研究和探索（九）》。商务印书馆。
房玉清 1984.《实用汉语语法》，北京语言学院。278-282 页。
高顺全 1994. 从单项 NP 句看句子的主语和主题，《河南大学学报（社会科学版）》Vol.34 No.4。
郭　锐 1993. 汉语动词的过程结构，《中国语文》第 6 期。
郭　锐 2004.《现代汉语词类研究》，商务印书馆。222-225 页。
郭　锐、罗琼鹏 2009. 复数名词短语的指称和“都”量化，《汉语的形式与功能研究》，程工、刘丹青主编，商务印书馆，92-109 页。
顾　阳 1999. 关于存现结构理论探讨，《共性与个性——汉语语言学中的争议》，北京语言文化大学出版社。
何元建 2000. 漢語中的零限定詞，《语言研究》第 3 期。
黄南松 1994. 试论短语自主成句所应具备的若干语法范畴，《中国语文》6。
黄师哲 2004. 无定名词主语同事件论元的关系，黄正德主编《中国语言学论丛》第 3 辑：93-110 页。北京语言大学出版社。
胡裕树 1994. 汉语语法研究的回顾与展望，《复旦学报（社会科学版）》5。
金　岩 1996. 朝鲜语和汉语主语的对比，《汉语学习》第 6 期。
柯理思 2004. 动词后置成分“走”的语法化，IACL-12 提交论文。
柯理思 2005. 讨论一个非典型的述趋式：“走去”类组合，沈家煊、吴福祥、马贝加主编《语法化与语法研究（二）》：94-95 页。商务印书馆。
木村英樹 1997. ‘变化’和‘动作’、『橋本萬太郎記念中国語学論集』、内山書店
木村英树 2003. “的”字句的句式语义及“的”字的功能扩展，《中国语文》第 4 期。
李宝伦、潘海华 2005. 基于事件的语义学理论、刘丹青主编『语言学前沿与汉语研究』第六章。123-142 頁。上海教育出版社。
李芳杰 1983. 说“从···到···”结构，《武汉大学学报》1:73-78。
李晋荃 1982. 固定格式“从 A 到 B”的意义功能和结构，《苏州大学学报》1:67-78。
李勉东 1995. 现代汉语中的“从···到···”结构，東北大学言語学論集 4:239-246。
李艳惠、陆丙甫 2002. 数目短语，《中国语文》4。

李英哲 2001.《汉语历时共时语法论集》，北京语言文化大学出版社。

刘安春、张伯江 2004. 篇章中的无定名词主语句及相关句式，*Journal of Chinese Language and Computing,* 14 (2): 97-105 頁。

刘丹青 2002. 汉语类指成分的语义属性和句法属性。《中国语文》第 5 期。

刘丹青、段业辉 1989. 论“有的”及其语用功能，《信阳师范学院学报》2。

刘宁生 1986.“自己”的性质及其相关结构，《语言研究集刊》第一辑，江苏教育出版社。

刘月华、潘文娱、故韡 2001.《实用现代汉语语法》（增订本），商务印书馆。136-147、675-688 页。（相原茂監訳、片山博美、守屋宏則、平井和之訳 1996.『現代中国語文法総覧』、くろしお出版）

雷桂林 2003. 从语料看“从 X 到 Y”的两种句式，《汉日语言研究文集》6，北京外国语大学国际交流学院编，北京出版社、文津出版社。212-225 页。

雷桂林 2010a. 从汉日对比看数量成分的指代功能，《现代日语语言学前沿》，外语教学与研究出版社。82-95 页。

雷桂林 2010b. 線性概念前置句式的描寫性特徵，《長崎中國學會會刊(創刊號)》。長崎大学環境科学部。290−298 頁。

陆丙甫 2003. 试论“周遍性”成分的状语性，《话题与焦点新论》，徐烈炯、刘丹青主编，上海教育出版社。

陆丙甫、徐阳春 2003. 汉语疑问词前移的语用限制——从“疑问焦点谈起”，《语言科学》第 2 卷第 6 期。

陆俭明 1986. 周遍性主语句及其他，《中国语文》3。

陆俭明 1988. 现代汉语中数量词的作用，《语法研究和探索》4:146

陆俭明 1991. 汉语时间词说略，《语言教学与研究》第 1 期。

陆俭明 2004.“句式语法”理论与汉语研究，《中国语文》5。

陆俭明 2008. 关于汉语句法、语义研究的新思考，『中国語学』255 号、221 页。

陆俭明、沈阳 2003.《汉语和汉语研究十五讲》，北京大学出版社。

陆　烁、潘海华 2009.汉语无定主语的语义允准分析，《中国语文》第 6 期，528-536 页。

吕叔湘 1979. 《汉语语法分析问题》，商务印书馆。

马庆株 1981. 时量宾语和动词的类，《中国语文》2。

任　鹰 2000.《现代汉语非受事宾语句研究》：30-31 页。社会科学文献出版社。

沈家煊 1994. R. W. Langacker 的“认知语法”《国外语言学》1:17-18。

沈家煊 1995. 有界与无界，《中国语文》5：371-372。

沈家煊 1999.《不对称和标记论》，江西教育出版社。

石毓智 2000. 汉语的主语与话题之辨，《语言研究》第 2 期。

唐翠菊 2005. 从及物性角度看汉语无定主语句，《语言教学与研究》3，9-16 页。

湯廷池 1979a. 主語的句法與語意功能，《國語語法研究論集》臺灣學生書局，71 頁。原刊載於《語文週刊》（1978），1519 期。

湯廷池 1979b. 主語與主題的畫分，《國語語法研究論集》臺灣學生書局。原刊載於《語文週刊》（1978），1523 期。

内田庆市 1989. 汉语的“无定名词主语句”——另外一种“存现句”，《福井大学教育学部纪要》37。载大河内康宪主编《日本近、现代汉语研究论文选》，1993，北京语言学院出版社。

王敏敏·张谊生 1999.“从 X 到 Y”的多维考察，《面临新世纪挑战的现代汉语语法研究》，山东教育出版社。

魏　红、储泽祥 2007.“有定居后”与现实性的无定 NP 主语句，《世界汉语教学》3:38-51 页。

徐　杰 2003. 主语成分、话题特征及相应语言类型，《语言科学》第 2 卷第 1 期。

徐烈炯 1999. 名词性成分的指称用法，《共性与个性——汉语语言学中的争议》，北京语言文化大学出版社。

徐烈炯 2002. 汉语是话语概念结构化语言吗?。《中国语文》第 5 期。

徐烈炯 2003. 话题句的合格条件，《话题与焦点新论》，徐烈炯、刘丹青主编，上海教育出版社。

徐烈炯、刘丹青 1998.《话题的功能与结构》，上海教育出版社。

徐烈炯、刘丹青 2007.《话题的功能与结构（增订本）》，上海教育出版社，171-173 页。

杨成凯 2000. 汉语句子的主语和话题，《现代中国语研究》第 1 期。朋友书店。

杨凯荣 2003. 关于三种不同类型的周遍性意义句式。《现代中国语研究》第 5 期。朋友书店。

殷志平 2000. 动量词前置特点略论，《语法研究和探索（九）》，商务印书馆。

殷志平 2002. 关于数量对应句，《语言研究》第 3 期。

袁毓林 1996. 话题化及相关的语法化过程，《中国语文》第 4 期，241-254。

袁毓林 2005a. “都”的加合性语义功能及其分配性效应，《当代语言学》第 4 期。

袁毓林 2005b. “都”的语义功能和关联方向新解，《中国语文》第 2 期。

袁毓林 2003. 汉语话题的语法地位和语法化程度，《话题语焦点新论》，徐烈炯、刘丹青主编，上海教育出版社。原载《语言学论丛》第 25 辑，商务印书馆。

张伯江 1997. 汉语名词怎样表现无指成分，《庆祝中国社会科学院语言研究所建所 45 周年学术论文集》，商务印书馆。

张伯江 2002. 施事角色的语用属性，《中国语文》第 6 期。

张伯江 2007.“出现句”在近、现代汉语中的语法化，吴福祥、崔希亮主编《语法化与语法研究（四）》，商务印书馆。469-481 页。

张伯江、方梅 1996.《汉语功能语法研究》：73-81 页，江西教育出版社。

张国宪 2006.《现代汉语形容词功能与认知研究》，商务印书馆。2-8 页。

张　敏 1998.《认知语言学与汉语名词短语》，中国社会科学出版社。120 頁。

张树铮 1996. 关于主语及话题，《山东大学学报（哲学社会科学版）》第三期。

张谊生 2004.《现代汉语副词探索》，学林出版社。110-111 页。

赵元任 1978.《汉语口语语法》，吕叔湘译，商务印书馆。

朱德熙 1956. 现代汉语形容词研究,《语言研究》1。收于朱德熙著《现代汉语语法研究》, 1980:8 页。商务印书馆。

朱德熙 1981.《语法讲义》，商务印书馆，杉村博文・木村英樹 1995（訳）『文法講義』白帝社。

朱德熙 1985.《语法答问》，商务印书馆。

左思民 2005. 时间补语和“了、着、过”、『現代中国語研究』7、朋友書店、11 頁。

付　記

本論文は筆者が東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程に在籍中に行った研究の成果をまとめたものである。指導教官である同専攻教授楊凱栄先生には、本研究を進める過程において、終始丁寧な指導を頂いた。ここに深謝の意を表する。

副査を引き受けて下さった同専攻教授クリスティーン・ラマール先生、並びに、坂原茂先生、准教授吉川雅之先生、東京大学大学院人文社会系研究科教授木村英樹先生、国立国語研究所言語対照研究系教授井上優先生には多くの貴重なご助言を頂くとともに本論文の細部にわたりご指導を頂いた。ここに深謝の意を表する。

また、本論文の作成にあたり、同専攻の相原まり子氏に日本語のネイティブチェックをして頂くとともに有益なご助言を頂いた。同専攻の各位には研究遂行にあたり日頃より有益なご討論ご助言を頂いた。併せて心より感謝の意を表する。

（2010 年 9 月 21 日　桜美林大学にて）